

授業名	図書館概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	「図書館」とは何か、その意義と役割を、その理念・歴史・教養の3つの面からそれぞれ説き起こす。市井においては公共図書館のよき理解者であり利用者、大学においては大学図書館のよき利用者たることを目指す。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準は、①内容の8割を理解すること、②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることである。			
履修条件	地域創成学科に在籍する1年生。司書ユニット受講の有無は問わない。	成績の 評価方法・基準	レポート3割、期末試験7割で評価します。	
テキスト	必要に応じて適宜配布する			
参考書	『図書館情報学基礎資料』樹村房 大学図書館のNDC010-019に排架されている書籍はすべて参考書			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。			
位置付け・水準	CD2110			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分～16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館概論で何を学ぶか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館とは何か	図書館の定義と意義 図書館の種類 協力・連携とネットワーク 図書館職員	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	現代社会と図書館	生涯学習と図書館 情報環境の変化と図書館 図書館の危機管理	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	出版と図書館、著作権	出版文化と図書館 図書館と著作権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館の理念	図書館の自由 図書館員の倫理と倫理綱領	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館放棄と行政、施策	図書館の法的基盤 教育基本法と社会教育法 地方自治法 国の図書館行政と施策 地方自治体の図書館行政と施策	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	地域社会と図書館	地域の情報拠点としての図書館 まちづくりと図書館 図書館づくりへの市民参加	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	公共図書館の制度と機能	図書館法 公共図書館の機能 公共図書館をめぐる諸問題 公立図書館の管理運営をめぐって	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	学校図書館の制度と機能	学校図書館法 学校図書館の機能 学校図書館をめぐる諸問題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	大学図書館の制度と機能	大学図書館に関する法律・基準等 大学図書館の機能 大学図書館をめぐる諸問題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	専門図書館の制度と機能	専門図書館の特性と機能 専門図書館をめぐる諸問題 その他の図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	国立図書館の制度と機能	国立国会図書館法 国立国会図書館の機能 国立国会図書館をめぐる諸問題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館の歴史的展開	図書館には歴史がある 近代公立図書館の制度化 日本の公立図書館100年	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	外国の図書館	アメリカの図書館 イギリスの図書館 北欧の図書館 中国の図書館 韓国の図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	図書館関係団体と発展的な学習の手引き	国際機関と全国規模の図書館協会 日本図書館協会の図書館政策 豊かな文字・活字文化の享受と環境整備	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	博物館概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎仲田 佐和子 會田 容弘		
開講期			
授業の概要	実務経験を活かし、博物館の様々な側面を経験に基づいて講義を行う。博物館概論とは博物館法施行規則に記載されている博物館学芸員資格を取得するための必修科目のひとつである。本科目を履修する学生は博物館学芸員資格を取得し、将来博物館学芸員という職業に就くことを希望し、学芸員としての専門性は各自の専攻分野によって養われつつあることが前提となる。博物館概論もその専門性と密接にかかわる部分がある。特に地域創成学科では選択専門科目でもあることから、法規、倫理、歴史、学芸員の仕事など博物館について広範囲に学習する。数回の確認テストを行い、採点して返却しフィードバックを行う。 位置付け水準 CD2120		
授業の到達目標	<到達目標>博物館学芸員課程科目の基礎を理解し、博物館の専門分野の理解に至るに、十分な知識を獲得すること。 博物館利用者として、十分な知識を持つこと。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。		
履修条件	地域創成学科学生及び学芸員資格取得希望学生	成績の 評価方法・基準	提出物10点、確認テスト40点、定期試験50点。60点以上で合格とする。学芸員資格取得には80%以上の授業理解を求める。
テキスト	特に無し。		
参考書	『地域創成学科報告集』第1集～第6集。その他、授業内で紹介する。		
学生への要望	博物館で将来働くことを希望する学生はなるべく多くの博物館施設を見学していることが望ましい。また、博物館が置かれている社会状況についても十分注意を払ってほしい。		
位置付け・水準	資格科目の基本科目である。資格取得の学生は、関連科目との関係から十分な理解が必要である。		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	月曜日Ⅰ時限、火曜日Ⅱ時限。創学館4階No.4研究室。		
アクティブラーニング実施内容	博物館施設や特別展等を紹介し、見学を推奨する。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	0：博物館学の受講の前に	博物館学は地域創成学科卒業選択共通専門科目であると同時に、学芸員資格課程の必修科目である。学芸員資格を取得するための方法、及び学芸員資格取得に必要な必修科目、選択科目に博物館法施行規則にのっとり、説明を行う。	授業内容を整理する。	30
2	1：博物館とは何か	教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－取り扱いに基づいて、日本における博物館の法的位置づけを説明する。	授業内容を整理し、見学したい博物館を調べてみる。	30
3	2：続・博物館とは何か	博物館について、博物館法をもとに説明する。法規はシラバスに掲載されているホームページを開き、ダウンロードしておく必要がある。	授業内容を整理し、授業で取り上げた教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－を出力し、ノートに加えておく。	30
4	3：さまざまな博物館	博物館はその収集展示する資料による分類、設立主体による分類、博物館法による制度別分類、運営手法による分類、機能による分類、資料の展示場所による分類ができる。実例をあげながらそれを説明する。	授業内容を整理する。	30
5	4：博物館学芸員の役割（1）	博物館法、公立博物館の条例に記された博物館学芸員の役割について、法規に基づいた説明を行う。	授業内容を整理する。	30
6	5：博物館学芸員の役割（2）	奥松島縄文村歴史資料館学芸員の実例をあげながら、学芸員の一年を通した仕事内容を説明する。	授業内容を整理する。	30
7	6：博物館の歴史（1）	欧米における博物館の成立から現代にいたる博物館について、通史的に説明する。博物館前史の説明を行う。近代博物館成立以前に博物的機能をもった様々な施設を紹介する。	授業内容を整理する。	30
8	7：博物館の歴史（2）	日本における近代博物館の歴史は東京国立博物館の歴史でもある。国威発揚の帝室博物館、教育施設としての科学博物館を対比しながら説明する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する	30
9	8：博物館の歴史（3）	地方博物館は1970年代から整備される。それ以前にも博覧会、私立博物館、私立美術館、水族館などが地方に建設されていた。東北地方の博物館の歴史をみてゆく。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。	30
10	9：博物館組織と運営	博物館法に基づいた博物館組織を説明し、実例をあげてその運営を解説する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。	30
11	10：生涯学習と博物館、地域社会と博物館	生涯学習をおこなう博物館の実例をあげて説明する。地域社会と博物館の関係をとりあげ説明する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。	30
12	11：学校教育と博物館、文化財保護と博物館、自然保護と博物館	学校教育と連携した博物館の実例の説明、文化財保護・自然保護を押し進める博物館の実例をあげて説明する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のHPを閲覧する。文化財保護法を出力し、ノートに加える。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	1 2 : 博物館の現状と課題 (1)	博物館の置かれているさまざまな問題について検討する。 博物館法改正の現状や指定管理者制度導入、平成の大合併による市町村博物館の実態などについて実例をあげて検討する。	授業内容を整理し、指定管理者制度についてネットで調べてみる。	30
14	1 3 : 博物館の現状と課題 (2)	博物館の位置づけは時代によって異なる。博物館法が成立した1950年代と現代では社会環境が大きく異なっている。 今博物館は何を求められ、博物館は何ができるのかを考え、これからの博物館について、望ましい姿を模索する。	授業内容を整理し、試験に備え全体を振り返ってみる。	30
15	1 4 : 博物館の危機管理	3・11東日本大震災で多くの博物館は被災した。これらのことから博物館における危機管理の問題が改めて注目されている。阪神大震災などと比較しながら博物館の被害状況、対応、再生を考えてみたい。	授業内容を整理し、試験に備え全体を振り返ってみる。	30

授業名	女性文化史	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎知野 愛			
開講期	Ⅱ			
授業の概要	日本における女子教育や福祉、文芸や芸術など各分野で先駆者となった女性達に焦点をあて、その生涯と功績、時代背景、その功績の意義などを学ぶ。 筆記試験を返却しフィードバックを行う。			
授業の到達目標	授業中に指示した課題を必ず提出する。単位認定の最低基準:内容の8割以上を理解していること。			
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	筆記試験(50点)、授業提出物(50点)	
テキスト	特に指定しない。作成資料を配布する。			
参考書	随時、提示する			
学生への要望	小レポートを宿題として出すことがあります。これも必ず提出して下さい。			
位置付け・水準	位置付け・水準:CD2150			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係: 知識理解、課題解決力			
オフィスタイム	月曜Ⅱ限、Ⅲ限。 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスに基づき、授業概要、目標、成績評価の方法などを説明する。導入として授業で扱う女性史全体像を説明する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読む。課題がある場合は作成する。予習:次回テーマの関連書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
2	【教育福祉分野の先駆者】瓜生岩子	近代以降の女子教育史の先駆けとなった瓜生岩子(福島県出身、貧困児童の救済などに尽力)に注目する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
3	【女子教育の先駆者】山川捨松	明治初年の女子留学生の1人、山川捨松(福島県出身、大山捨松)の生涯と功績、時代背景等を理解する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
4	【女子教育の先駆者】津田梅子	明治初年の女子留学生の1人、津田梅子の生涯と功績、時代背景等を理解する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
5	【振り返り】女子教育史について補足	ここまでの振り返り、三名について補足説明をする。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
6	【文学】若松賤子	「小公子」「小公女」の翻訳者、若松賤子の生涯や功績を考察する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
7	【文学】村岡花子	「赤毛のアン」の翻訳者、村岡花子の生涯や功績を考察する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
8	【文学】水野仙子	福島県出身の水野仙子の生涯と功績、時代背景について学ぶ。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
9	【文学】与謝野晶子	「君死に給うことなかれ」の詩で有名な与謝野晶子の生涯、功績、文学史上の位置づけ等を考察する。。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
10	【振り返り】文学の分野での女性先駆者達	文学分野での女性先駆者達の生涯功績について振り返り補足する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
11	【芸術】上村松園	女流画家第一人者と言われる上村松園の生涯や功績、時代背景について考察する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
12	【芸術】高村智恵子	高村光太郎「智恵子抄」で知られる高村智恵子の生涯や功績、時代背景について考察する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
13	【振り返り】芸術分野での女性先駆者達	芸術分野の女性先駆者達についてまとめと補足をする。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
14	筆記試験	授業で扱った人々の業績や生涯についてポイントを理解しているか筆記試験で確認する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
15	まとめ、フィードバック	筆記試験の答案を返却しフィードバックする。授業のまとめ。各自が授業評価アンケートに回答する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読む。	60

授業名	デザイン論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	近代デザインの歴史を概観し、デザインが社会とどのような関わりを持って発展してきたのかについて理解を深める。併せて、制作プロセスや造形、経済などの視点からデザインについて学び、広い視野をもってデザインを考える力を培う。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、コミュニケーション手法としてのデザインについて実例とともに説明する。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：各回でミニッツペーパーを配布する。興味・関心や疑問点、理解度について確認を行いフィードバックする。 ・位置づけ・水準 CD2165		
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りとする。 ①近代デザイン史の概要を理解している。 ②コンセプトと造形を関連付けてデザインを考えることができる。 ③社会との関わりの中でデザインの果たす役割について理解している。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
履修条件	地域創成学科1年	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①授業への態度・意欲（20%）②授業内容の理解度（30%）③レポート（50%）
テキスト	適宜、配布する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本授業の内容、目標、受講資格、評価について説明する。	シラバスの内容を確認する。	60
2	デザインの歴史①	アール・ヌーヴォーに代表される19世紀末から20世紀初頭のデザイン運動について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
3	デザインの歴史②	20世紀初頭のドイツ工作連盟からバウハウスまでの歴史について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
4	デザインの歴史③	20世紀初頭のドイツ工作連盟からバウハウスまでの歴史について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
5	デザインの歴史④	第2次世界大戦後から現代までのデザイン運動について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
6	視覚と認知	視覚と認知の仕組みについて講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
7	色彩について①	色と光、色彩知覚の仕組み、色彩と心理について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
8	色彩について②	色の分類、配色について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
9	タイポグラフィについて①	書体の歴史と分類について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
10	タイポグラフィについて②	タイポグラフィについて、視認性と可読性、レイアウトとの関係から講義を行う。簡易な文字組の練習を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
11	タイポグラフィについて③	タイポグラフィの視覚的な効果について、作品事例とともに講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
12	レイアウトについて①	レイアウトについて視覚的なバランスと統一感、ユーザビリティ、視線誘導の観点から事例とともに講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
13	レイアウトについて②	レイアウトについて視覚的な階層構造、ブランディングの観点から事例とともに講義を行なう。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
14	デザインのプロセス①	デザインのプロセスについて、アイデア創出とコンセプトの策定について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
15	デザインのプロセス②	マーケティングの観点からデザインのプロセスについて講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60

授業名	色彩学	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎松田 理香		
開講期	I 期		
授業の概要	色彩の基礎を学びます。物理的側面と心理的、生理的側面を概観しながら、日常生活における色彩の役割について学びます。色が見えるとはどういうことか、色の役割、色の分類や名前、心理効果、配色などについて解説します。毎授業の最後に簡単な確認問題に取り組みます。また色相やトーン体系を理解するために、色材を使つての混色演習や、配色カードを用いた課題に取り組むとともに、色覚弱者についても学びます。 提出作品や確認問題の答え合わせの際には解説やコメントなどによるフィードバックを行います。		
授業の到達目標	色彩に関する知識（検定試験3級程度）を身につけることを目標とし、講義内容の7割程度の理解を期待します。 ○単位認定の最低基準：演習課題の提出および確認問題における理解 （ルーブリック評価に基づいて判定します）		
履修条件	地域創成学科の学生	成績の 評価方法・基準	確認問題(60点)、演習課題(40点)で総合的に評価します。
テキスト	各單元ごとに資料を配布します。		
参考書	・ カラーマスターベーシック（NPO法人アデック出版局） ・ 色彩学概説（千々岩英彰著 東京大学出版社） ・ 色彩感覚データ&テスト（近江源太郎著 財団法人日本色彩研究所監修） ・ 色のユニバーサルデザイン（財団法人 日本色彩研究所著・社団法人 全国服飾教育連合会(AFT)監修） 他		
学生への要望	○授業受講にあたって ・ 日常生活の中で色彩が果たす役割について考えてください。 ○演習課題について ・ 使用する用具（ハサミやカッター、のりなど）は各自で準備してください。 ・ 「新配色カード199a」（日本色彩研究所監修）の準備 （課題については授業の中でガイダンスを行い、配色カードの購入希望者が多数いた場合はまとめて発注します）		
位置付け・水準	DA2166		
ディプロマポリシーとの関係	①知識・理解 ②課題解決力		
オフィスタイム	金曜日Ⅰ・Ⅱコマ 研究室		
アクティブラーニング実施内容	色相やトーン体系理解のため、色材を使った混色演習や、配色カードを用いた課題に取り組みます。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 授業の目的や内容について説明する。 2. 色を見るとはどういうことか、色の役割などについて考える。	ガイダンスで配布された資料をもとに生活の中にある色の役割を考える。	30
2	講義：色のなりたち（1）	1. 色を感じる経路 2. 光 3. 物体の色 4. 色を見るための光源 ※確認問題 1	色が見える仕組みや光とは何かについての理解を深める。	60
3	講義：色のなりたち（2）	5. 光がつくる自然の色 6. 目の構造と視細胞 ※確認問題 2・3	目の構造について資料や確認問題を参考に理解を深める。	60
4	講義：色の分類（1）	1. 有彩色と無彩色 2. 色の三属性	色の整理分類について理解を深める。	60
5	講義：色の分類（2）	3. トーン（トーンの位置とトーン名、イメージ等） 4. 色立体 5. PCCS色彩体系（日本色研配色体系）	色の表示方法について資料を参考に理解を深める。	60
6	講義：色の表示方法（1）	1. 表示方法の分類（1）記号による表示 2. 表色系（マンセル、PCCS、オストワルト、XYZ等） ※確認問題 4-9	色の表示方法について資料を参考に理解を深める。PCCSによる色彩体系について理解を深める。	60
7	演習1：PCCSの色彩体系	〔演習課題〕 新配色カード199aを用いて以下の台紙に色紙を貼る作業を行う。 ①12色相環 ②PCCSトーン別色相環 ③PCCS色相・トーン一覧表	新配色カードを用いた台紙を完成させ、色の体系についての理解を深める。	120
8	講義：色の表示方法（2）	1. 表示方法の分類（2）色名による表示 2. JIS標準色票と用途について ※確認問題 10・11	色の表示方法について資料を参考に、PCCSによる色彩体系も含めて理解を深める。JIS標準色票について理解を深める。	120
9	講義：混色	1. 混色と等色 2. 三原色 3. 加法混色 4. 減法混色 5. 色材の混色 ※確認問題 12	混色について配布資料や確認問題を参考に理解を深める	60
10	講義：色の知覚効果	1. 色の対比効果 2. 色の同化効果 3. 色の伝達効果 4. さまざまな色の見え方 ※確認問題 13-15	色の知覚効果について資料や確認問題をもとに理解を深める。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	講義：色の心理効果 演習2：トーンとイメージの2色配色	1. 色の感情効果 2. 色のイメージと連想 3. 色の象徴性 ※確認問題 16 [演習課題] 新配色カード199aを用いて以下の台紙に色紙を貼る作業を行う。 ④色の心理効果	色の心理効果について資料や確認問題をもとに理解を深める。	60
12	講義：色彩調和 (1)	1. 配色と色彩調和 2. 色彩調和の原理 3. 色彩調和の形式 4. 配色の基本的な考え方 5. 色相を基準にした配色	色彩調和について資料を参考に振り替える。特に、色の調和とは何かについて理解を深める。	120
13	講義：色彩調和 (2)	6. トーンを基準にした配色 7. 基本的な配色技法 8. 慣習的な配色技法 9. 秩序の原理による配色の形式 10. 配色とイメージ ※確認問題 17・18	色彩調和について資料を参考に振り替える。特に、配色とは何かについて理解を深める。	60
14	演習3：配色演習	[演習課題] 新配色カード199aを用いて配色演習を行う。 ⑤色相を基準にした配色 ⑥トーンを基準にした配色 ⑦配色技法	⑤～⑦の配色演習に取り組むことにより、配色についての理解を深める。	60
15	講義：色のUD まとめ	1. 色弱者の見え方 2. 高齢者の見え方 3. ユニバーサルデザイン 4. 見えづらい例と改善例 【まとめ】 1. 講義のまとめ 2. 演習課題のまとめ 3. その他 色彩に関する検定試験について	色のユニバーサルデザインについて配布資料を参考にして理解を深める。 これまでの資料や演習課題を振り返り、色彩の基礎について理解を深める。	30

授業名	情報処理Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎山口 猛			
開講期				
授業の概要	いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Word365の受験に相当する内容を学びます。授業の後半では、模擬試験プログラムを用いて、アクティブラーニングによる学習に取り組むことで、自分のペースで技術向上を図ることができます。間違いの多い箇所の解説を授業で解説することで、フィードバックを行います。また、随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。			
授業の到達目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. Microsoft Office Specialist Word365スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける 2. Word365の応用的な利用方法を身につける 3. Word365において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる 模擬試験プログラムを実施し、60％以上の理解・正解すること			
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価は学習意欲（随時課題提出）20％、模擬試験プログラム成績80％とする。	
テキスト	Microsoft Word 365 対策テキスト& 問題集			
参考書	なし。			
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。			
位置付け・水準	CD2130			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解			
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してパソコン操作を含むアクティブラーニングを実施			
実務家教員の経歴	システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務 システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。	30
2	文書の作成と管理（1）	テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
3	文書の作成と管理（2）	2回目と同じ。（テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
4	文字、段落、セクションの書式設定（1）	置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
5	文字、段落、セクションの書式設定（2）	4回目と同じ。（置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
6	表やリストの作成（1）	表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
7	表やリストの作成（2）	6回目と同じ。（表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
8	参考資料の作成と管理（1）	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
9	参考資料の作成と管理（2）	8回目と同じ。（脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	グラフィック要素の挿入と書式設定（１）	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
11	グラフィック要素の挿入と書式設定（２）	10回目と同じ（図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
12	模擬試験（１）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験（２）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験（３）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Word365スペシャリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

授業名	情報処理Ⅲ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎山口 猛			
開講期				
授業の概要	いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Excelの受験に相当する内容を学びます。授業の後半では、模擬試験プログラムを用いて、アクティブラーニングによる学習に取り組むことで、自分のペースで技術向上を図ることができます。 間違いの多い箇所の解説を授業で解説することで、フィードバックを行います。 また、随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。			
授業の到達目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. Microsoft Office Specialist Excel365スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける 2. Excel365の応用的な利用方法を身につける 3. Excel365において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる 課題1～3を実施し、60％以上の理解・正解すること			
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題により評価する。具体的には、授業の後半で実施するMOS模擬試験の結果を総合的に判断し100％の割合で評価する。毎回の授業の予習・復習を怠らないことを望む。	
テキスト	Microsoft Excel 365対策テキスト& 問題集			
参考書	なし。			
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。			
位置付け・水準	CD2230			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解			
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してパソコン操作を含むアクティブラーニングを実施			
実務家教員の経歴	システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務 システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。	30
2	ワークシートやブックの作成と管理（1）	1-1 ワークシートやブックを作成する 1-2 ワークシートやブック内を移動する 1-3 ワークシートやブックの書式を設定する	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
3	ワークシートやブックの作成と管理（2）	1-4 ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする 1-5 配布するためにワークシートやブックを設定する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
4	セルやセル範囲のデータの管理（1）	2-1 セルやセル範囲にデータを挿入する 2-2 セルやセル範囲の書式を設定する 2-3 データをまとめる、整理する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
5	テーブルの作成	3-1 テーブルを作成する、管理する 3-2 テーブルのスタイルと設定オプションを管理する 3-3 テーブルのレコードを抽出する、並べ替える 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
6	数式や関数を使用した演算の実行	4-1 関数を使用してデータを集計する 4-2 関数を使用して条件付きの計算を実行する 4-3 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
7	表やリストの作成	6回目と同じ。（表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
8	参考資料の作成と管理（1）	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
9	参考資料の作成と管理（2）	8回目と同じ。（脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
10	グラフィック要素の挿入と書式設定（1）	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	グラフィック要素の挿入と書式設定（２）	10回目と同じ（図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
12	模擬試験（１）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験（２）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験（３）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Excel365スペシャリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

授業名	情報概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐々木 達矢			
開講期				
授業の概要	コンピュータや情報通信技術の基本原理を学び、実際のハードウェア構成、ソフトウェアの種類や機能を理解すると共にコンピュータをネットワークで接続したインターネットの日常生活やビジネスでの活用とそれを支える基本技術について学ぶ。さらに、ネット社会が抱える問題とその解決法について考える。また、今後、学習していく情報関連の授業が理解できるようにする。 フィードバック方法：最終授業で授業内容を振り返り、試験のポイントを解説する。e-learningの実施状況については随時フィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 情報処理の基本である情報の単位が説明でき、2進16進の計算ができること。 2. パソコンの動作の仕組みが説明できること。 3. ネットワークの仕組みを理解すること。 4. 情報セキュリティと情報モラルについて基本的な事項を理解すること。 ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連及び単位認定の最低基準 超スマート社会の様々な課題を論理的に捉え問題を解決していく力を身につけるために、ICTの専門的知識の基礎を修得する。 単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。			
履修条件	なし	成績の 評価方法・基準	e-learningの学習成果：30%、mocaを使ったオンライン試験：70%	
テキスト	「これだけは知っておこう！情報リテラシー」NOA出版 IPA 情報処理推進機構/情報セキュリティ https://www.ipa.go.jp/security/index.html			
参考書	パソコン検定 3級試験対策本、ITパスポート試験対策本全般			
学生への要望	馴染みの無い言葉が沢山出てくるが、教科書をよく読み分らない言葉はインターネットで調べる等して学習する習慣をつけてください。			
位置付け・水準	CD2131			
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」「課題解決力」			
オフィスタイム	月 3 限、火 3 限、木曜 1・2 限（芸術館 2 階 地域創成学科研究室No3）			
アクティブラーニング実施内容	特になし。			
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数理的情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	講義内容を説明する。コンピュータ上で扱う情報について表現方法や演算の方法について学ぶ。 用語：2 進法、1 6 進法、文字コード	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
2	コンピュータの基礎	コンピュータの歴史やコンピュータの種類、パソコンの形や取扱いの注意について学ぶ。 用語：ノイマン型コンピュータ、PS/AT互換機、ハードウェア、ソフトウェア	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
3	ハードウェア 1	パソコン本体の内部がどのような部品で構成されているか確認し、それぞれの役割や性能について学習する。 用語：CPU、メインメモリー、RAM/ROM	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
4	ハードウェア 2	外部記憶装置および代表的な出力装置の動作原理や種類、性能の見方について学ぶ。 用語：ハードディスク、リムーバブルディスク、CRT、液晶、ラスタデータとベクタデータ	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
5	ハードウェア 3	入力装置の種類とその動作原理について学ぶ。また、周辺装置を接続するインターフェースについて学ぶ。 用語：キーボード、マウス、スキャナー、シリアル転送、パラレル転送、IEEE1394、USB	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
6	基本ソフトウェア	OSの役割と種類を学習し、現在の主流となっているWindowsの特徴について学ぶ。 用語：ディスク管理、レジストリ、ファイルシステム、拡張子	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
7	アプリケーションソフトウェア	オフィス処理関係ソフトの種類と機能を学習するほかにデータベースソフトやプログラミングについて学ぶ。 用語：テキストエディタ、DTPソフト、テーブル、レコード、フィールド、SQL、プログラミング	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
8	情報通信ネットワークの仕組み	コンピュータネットワークの代表的な形態について学び、それぞれの違いについて確認する。 用語：LAN、WAN、OSI、クライアント、サーバー	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
9	LANの構成	LANの規格、データ転送方式、LANのハードウェア、セキュリティについて学ぶ。 用語：イーサネット、無線LAN、ハブ、ルータ、ファイアウォール、暗号化	e-Learningの該当箇所を実施する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	インターネットの仕組み	インターネットとは何かについて、歴史、しくみ、代表的サービスであるWWWの観点から学ぶ。 用語：ARPAnet、IPアドレス、ドメイン名、ISP	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
11	インターネット上のサービス	メールがどの様にして届くか学び正しく利用できる知識を得るとともにインターネット上の色々なサービスについて学ぶ。また、インターネットへの接続方法について説明できるようにする。用語：POP、SMTP、メーリングリスト、ADSL、FTTH	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
12	情報セキュリティ	セキュリティに関する正しい知識を持ち、適切な対策を講じることができるように学習する。 用語：コンピュータウィルス、ウィルス感染の予防、スパイウェア	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
13	不正アクセスと詐欺の防止	不正アクセスとは何か及びそれを禁止している法律について学ぶとともに不正アクセスを防ぐ技術対策を理解し実施できるようにする。また 最も利用機会の多いブラウザのセキュリティ機能を有効に使用するため、設定方法を学び利用形態に合わせた設定ができるようにする。 用語：不正アクセス禁止法、セキュリティホール、ファイアウォール、Cookie、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
14	情報モラル及びフィードバック	情報社会の問題点と法律、自分を守るための方法について学ぶ。 試験のポイント及びe-Learning実施状況フィードバック 用語：知的財産権、個人情報、インターネット利用上のマナー	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
15	最終テスト	授業中に、mocaを用いてオンラインの試験を実施する。 試験後に、問題の解説、フィードバックなどを行う。	これまでの授業とe-Learningの内容を復習し、疑問点等あれば整理しておく。	60

授業名	情報倫理	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐々木 達矢			
開講期				
授業の概要	倫理は安定した社会を築くための基盤であり、その現代社会は情報化が進展している。本講義では情報を扱う場合にどのような倫理観が必要となるのか、またどのようにすれば安全の確保ができるのかについて学び、実社会に出た時にネット上で人に迷惑をかけない、また犯罪に巻き込まれないような知識を身につける。 フィードバック方法：授業で提出されたレポートやe-learningの実施状況についてフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1.ネット社会の基本的仕組みを知り、色々なリスクの回避やリスクへの対応を出来る様にする。 2.ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連及び単位認定の最低基準 ①超スマート社会における多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力を身につけている。 ②ICTの専門的知識を活用し、論理的に課題を捉え問題を解決していく力を身につけている。 単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。			
履修条件	地域創成2年	成績の 評価方法・基準	レポート1回：30%、mocaを使ったオンライン試験：70%	
テキスト	教科書は指定しない。 e-learningシステムmocaで資料配布。			
参考書	「これだけは知っておこう！情報リテラシー」 NOA出版；IPA 情報処理推進機構/情報セキュリティ https://www.ipa.go.jp/security/index.html			
学生への要望	日頃からハイテク犯罪や倫理の問題を意識して、ニュース等を見聞し、関心を持つこと。			
位置付け・水準	CD2132			
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」「課題解決力」			
オフィスタイム	月3限、火3限、木曜1・2限（芸術館2階 地域創成学科研究室No3）			
アクティブラーニング実施内容	特になし。			
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerでのリスク管理統括や経営企画担当者の実務経歴を活かして、実践的な授業を行います。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の目的や進め方、評価方法について述べる。また、「情報倫理」とは何かについて概要を理解する。 e-Learningの活用について説明する。	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
2	ネットワーク社会	ネットワーク社会に参加するにあたって、最も基本的な心構えや注意事項を学ぶ。これにより、被害にあわない、他に迷惑をかけないためのポイントを理解する。＜キーワード＞情報、倫理、サイバー犯罪	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
3	ネットワークとインターネット	ネットワークやインターネットの基本的な仕組みとインターネットで提供されているさまざまなサービスについて学ぶ。 ＜キーワード＞ ネットワーク、インターネット、ネットワーク社会、ネット上のエチケット、インターネットの代表的サービス	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
4	ユーザ認証とアカウント	アカウントの大切さや、より安全なパスワードの設定方法などを学ぶ。これにより、実際にパスワードを設定する場でクリックされにくい文字列で設定できるようにする。＜キーワード＞アカウント、パスワード、ユーザID、クッキー	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
5	情報受発信と情報検索 ①	メールを使った悪質ないたずらや犯罪も増加傾向にある。自らがメールのマーを身につけるとともに、自己防衛のための知識を学ぶ。 ＜キーワード＞メールの事件、チェーンメール、メーリングリスト、電子掲示板、チャット	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
6	情報受発信と情報検索 ②	悪質なサイトや有害な情報も混在しており、それに対応したWebページを見る側の知識や心構えを学ぶ。 また、携帯電話での心構えや知識も学ぶ。 ＜キーワード＞検索エンジン、WEBページの作成、ブログ、WIKI	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
7	ネットワークセキュリティ	ネットワーク利用者の一人ひとりが身に着ける必要があるネットワークセキュリティについての正確な知識を学ぶ。 ＜キーワード＞ネットワークセキュリティ、コンピュータウイルス、不正アクセス、DOS攻撃、踏み台、ボットネット	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
8	情報の流出とサイバー犯罪 レポート1	個人情報も含めた機密情報の流出は、流出時点で被害は甚大である。サイバー犯罪の防止のビデオを上映し、具体的にサーバー犯罪の危険性、防止策について学ぶ。 ＜キーワード＞コンピュータウイルスと情報流出、スパイウェア、ファイル交換、記憶装置の紛失 レポート課題：最近のサイバー犯罪について	e-Learningの該当箇所を実施する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ネットワーク社会と生活	インターネットの普及で、様々な機関がインターネットを通じてサービスを開始した。そのため社会生活も大きく変化している。社会の変化とネットサービスについて学ぶ。 <キーワード>ISP,電子商取引、BtoB,B to C,GtoC、トレーディング、バンキング、オークション	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
10	「超スマート社会」とは	ネットワーク技術と情報技術を駆使した「超スマート社会」（Society 5.0）の実現が提唱されている。どのような社会を目指しているのかと実現する必要となるキーテクノロジーは何かについて学ぶ。 <キーワード>サイバーセキュリティ技術、IOTシステム構築技術、ビッグデータ解析技術、AI技術	授業内で紹介した動画を見る。 (mebaeのリンク先)	50
11	「超スマート社会」の技術	「超スマート社会」を実現するために開発されている最新の技術について学習する。 <キーワード>5G、AI、ロボット、AR、VR	授業内で紹介した動画を見る。 (mebaeのリンク先)	50
12	ネットワーク社会の問題とトラブル	ネットワークを利用することは非常に便利な面があるが、一方では、不備、脆弱面も多々ある。犯罪や被害事例を学び、自分を守る術を身につける。ネットワークの犯罪は、本人が全く認識しないまま巻き込まれることがあるが、知識の有無でかなりリスクが異なる事を理解する。 <キーワード>情報の信頼性、ネットワーク犯罪の傾向、オークション詐欺、不正請求、サーバーテロ	e-Learningの該当箇所を実施	30
13	ネットワーク社会を取り巻く法律 ① (全般、個人情報保護法)	個人生活の観点からネットワーク社会を取り巻く法律を全般的に学ぶ。生活の中で密接に関連して来る個人情報保護法について詳しく学ぶ(個人情報保護法、児童買春防止法、訪問販売法)。授業の中では、政府が作成したビデオを活用する。	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
14	ネットワーク社会を取り巻く法律 ② (著作権法、その他)	ビジネス社会や日常生活において密接に関係する著作権法について、最近の法律改正事項も含め学習する。 また、法律の改正とネットワーク社会の発展の関係について学び、仕事の中で生かせる知識を得る(不正アクセス禁止法、電子署名法、プロバイダ法)。	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
15	全体のまとめとフィードバック	提出されたレポート及びe-learningの実施状況についてフィードバックを行う。	これまでの授業とe-Learningの内容を振り返り、疑問点等あれば整理しておく	30

授業名	情報メディア論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎山口 猛		
開講期			
授業の概要	高度情報化社会といわれる21世紀、我々は情報を得ることなくしてよき生活を営むことは考えられない。その情報を伝えるメディアは人間のあらゆる社会的な生活にとって、また人間らしい生活を営む上で必要不可欠なツールとなっている。メディアの歴史と現状を見つめ、充実した社会生活を営むためのメディアの利用方法を身につける。 随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。		
授業の到達目標	1. 日常生活でメディアを活用する力を身につけること 2. 情報の受け方・利用の仕方を理解すること 3. 各種メディアの特性を理解すること 単位認定の最低基準：最終レポートおよび新聞スクラップブックの提出		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは、授業態度・課題・レポートにより評価する。 授業態度20%、実習課題（新聞スクラップブック含む）30%、レポート50%とする。
テキスト	担当教員作成のプリント		
参考書	なし		
学生への要望	テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで毎日必ずニュースに触れること。随時、社会の出来事に関する感想・意見を求めるので積極的に発言すること。		
位置付け・水準	CD2133		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力		
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室		
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通して新聞スクラップブックの作成と発表を実施		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス メディアの歴史	メディアとは何か、生活情報の入手手段としてのメディアはいかに変遷してきたか、日本におけるメディアの歴史と展開を見る。またマスメディアの現状と日常生活との結びつきを考える。	ガイダンスで説明をする新聞スクラップブックの準備を行う。	30
2	マスメディアの理解 －新聞－（1）	最も古いマスメディアである新聞の歴史と、情報提供者として果たしてきた役割を見る。また、実際に新聞を読みながら、スクラップブックの作成を行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、新聞メディアの特徴を復習する。	60
3	マスメディアの理解 －新聞－（2）	前回の続きとして、スクラップブックの発表を行い、マスメディアとしての長所や短所などの理解を深める。	新聞スクラップブックを追加する。ゲストから学んだ内容を復習する。	60
4	マスメディアの理解 －新聞－（3）	地元新聞社の担当者をゲストに迎え、新しい時代の新聞、読者の新聞への期待と新聞社の対応について理解する	新聞スクラップブックを追加する。ゲストから学んだ内容を復習する。	60
5	デジタルネイティブ世代の ニューメディア（1）	デジタルネイティブ世代（生まれた時からインターネットやパソコンのある生活環境の中で育ってきた世代）が馴染みのある従来のマスメディアに問われないニューメディアの理解を目的に、歴史と特徴を説明する。	新聞スクラップブックを追加する。また、自分のスマホ利用等の生活を振り返りで至るネイティブの特性の理解を深める。	60
6	デジタルネイティブ世代の ニューメディア（2）	映像資料を見ながら、ニューメディアの事例を具体的に確認し、特徴理解を深める。	新聞スクラップブックを追加する。また、ニューメディアとマスメディアの特徴の違いを振り返る。	60
7	デジタルネイティブ世代の ニューメディア（3）	ソーシャルメディアの情報発信手段として重要視されているSNSについて学び、従来のマスメディアとの比較を行い、メディアが持つ目的や役割の違いを理解する。	新聞スクラップブックを追加する。また、ニューメディアとマスメディアの特徴の違いを振り返る。	60
8	マスメディアの理解 －テレビ－（1）	地元のテレビ局の支援を受け、テレビ番組の制作から放送までのシステムを学ぶとともに、情報の送り手（アナウンサー、ディレクター、記者）との懇談を通して、情報の受け方、利用の仕方を学ぶ。 （1）では、テレビ局が制作した番組その1を視聴し、番組制作の工夫を考える。	新聞スクラップブックを追加する。また、テレビメディアの特徴を復習する。	60
9	マスメディアの理解 －テレビ－（2）	前回の続き。 （2）では、テレビ局が制作した番組その2を視聴し、番組制作の工夫を考える。	新聞スクラップブックを追加する。また、テレビ局訪問の結果をまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	マスメディアの理解 ーテレビー（３）	前回の続き。 （３）では、番組視聴後の感想について意見交換を行うとともに、（６）で実施するオンライン研修に向けた役割分担を行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、グループワーク結果のノートを振り返る。	60
11	マスメディアの理解 ーテレビー（４）	前回の続き。 （４）では、役割分担の各グループごとに、スライド作成や機器操作方法を理解する。	新聞スクラップブックを追加する。また、作品の作業進捗に合わせて、作業を進めておく。	60
12	マスメディアの理解 ーテレビー（５）	前回の続き。 （５）では、研修のリハーサルを行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、プレゼンテーション練習を行う。	60
13	マスメディアの理解 ーテレビー（６）	前回の続き。 （６）では、研修の本番を行う。	新聞スクラップブックを追加する。	60
14	情報メディアの将来	メディアは、インターネットの普及と情報媒体の高性能化により、今後も進化が進んでいくと予想される。現時点で近い将来に世に出てくるであろう情報メディアをまとめたビデオ教材の視聴と解説により、情報メディアへの柔軟な理解を行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、将来のメディアについての理解を深め、柔軟な対応の有用性を理解する。	60
15	総合まとめ	課題レポート「日常生活にメディアをどう活かすか」を作成。授業の感想と質疑応答	新聞スクラップブックを追加する。また、課題レポートのテーマについて事前に考えをまとめる。	60

授業名	地域食文化論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎星 千歳			
開講期	I 期			
授業の概要	和食文化の特徴について理解するとともに、食文化の地域性について、演習を交えながら理解を深める。また「地域」と「食文化」に関する調べ学習を通して現状を把握し、地域における食文化を次世代に伝え継ぐための方法について検討する。 【課題に対するフィードバック方法】 課題返却時に、フィードバックの時間を設定し、解説する。			
授業の到達目標	【授業終了時の達成課題（達成目標）】 ①和食文化の特徴について理解できたか。 ②食文化の地域性について、具体例をあげて説明することができるか。 ③地域における食文化を保護・継承しようとする意識を持つことができたか。 【単位認定の最低基準】：授業内容の7割を理解してること			
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	課題 発表内容 授業態度	50点 30点 20点
テキスト	日本の食文化「和食」の継承と食育 アイ・ケイ・コーポレーション			
参考書	特になし			
学生への要望	日頃から地域の食文化について関心を持ち、文献・聞き取り・現地調査などを通して積極的に情報収集を行ってください。 得られた情報から、食文化の保護・継承について、自分なりの考えを持ってください。			
位置付け・水準	CD2180			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、主体的行動力			
オフィスタイム	月曜日5コマ、木曜日5コマ 食生活・栄養研究室			
アクティブラーニング実施内容	年中行事の由来と郷土料理の形成と要因について調べ、プレゼンテーションをする。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	地域食文化論ガイダンス	地域食文化論の授業内容を確認し、授業の概要と評価方法について説明する。	終了後、授業内容を復習する。	30
2	日本の食文化形成と展開	食文化の定義を理解し、人間の食生活を成立させている要因やその構造、さらには食生活がどのようなしくみによって変化するのかについて学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
3	世界の食文化形成	世界各地の気候風土に合わせた食卓の様子から食文化の多様性を理解し、宗教から見た世界の食事様式や世界の行事食について学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
4	主食の文化・副食の文化	稲作の伝来と米の主食化、魚介類や野菜の副食化について学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
5	日本料理の形成と発展	日本料理の原点を知り、日本料理様式の展開について解説し、本膳料理、懐石料理、会席料理について学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
6	和食文化の特徴	和食の献立構成を確認し、一汁三菜の献立作成を行う。	献立作成をする。	30
7	和食文化の特徴	和食の献立構成を確認し、一汁三菜の献立作成を行う。作成した献立を共有する。	献立作成をする。	30
8	行事と地域の食文化	年中行事のおもてなしと食文化や五節句と冠婚葬祭のおもてなしについて学ぶ。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
9	地域の食文化 年中行事と郷土料理	各自が、年中行事の由来と郷土料理の形成と要因について調べる。	郷土料理について調べる。	30
10	地域の食文化 年中行事と郷土料理	各自が、年中行事の由来と郷土料理の形成と要因について調べる。	プレゼンテーションの準備をする。終了後、授業内容を復習する	30
11	地域の食文化 年中行事と郷土料理	各自が、年中行事の由来と郷土料理の形成と要因についてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備をする。終了後、授業内容を復習する	30
12	外食文化の成立と変化	食事を家庭外で摂る外食の形態が生じ、健康的に食事をコントロールできる力を身につけていく必要性について解説し、時代に即応した工夫について考える。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
13	家庭・地域、学校、社会における食育	それぞれの場における食育について解説し、「こしょく」などの問題や生活習慣に関連した問題について理解を深め、食の大切さについて再認識する。	予習として教科書で単元部分の内容を確認する。終了後、授業内容を復習する。	30
14	食の教育	深刻化している種々の食生活の課題を解決するために制定された食育基本法について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	30
15	食育の推進	各ライフステージ別における食育について解説し、より良い食行動のあり方を考える。	終了後、授業内容を復習する。	30

授業名	服飾文化論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎田辺 真弓		
開講期			
授業の概要	衣服は人がそれを装うときに成り立つものであり、衣服の主人公は人間である。衣服にはいろいろな時代背景や社会状況の中で、人間の様々な心情が託されてきた。本講義では、衣服を人間の存在と結び付いて長い間に培われてきた文化のひとつとして捉え、衣服が着る人の心とどのようにかかわっているかを考える。衣服の機能、衣服への感情移入、衣服の流行、制度と慣習、日本と西洋との色彩感情の違い等に着目する。さらに服飾研究の進め方について例を挙げて解説し、服飾研究に対する関心を高める。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。		
授業の到達目標	目標は ①身近な生活圏の服飾文化を理解し、地域社会に貢献できる力を身につけていること。 ②柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけていること。 ③現代の衣生活における多様な課題を発見し、分析・解決する能力を身につけていること。 ④服飾文化に関する専門的知識を基に論理的に課題を探索し、他者と協調しつつ、主体的に問題を解決していく能力を身につけていること。 単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。		
履修条件	地域創成学科 1年生	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題レポート・期末筆記試験により確認と評価を行う。 ①課題レポート2回 20点 ②期末筆記試験 80点 60点以上を合格点とする。
テキスト	教科書は用いず、資料を配布する。		
参考書	増田美子編『日本衣服史』吉川弘文館、小池三枝著『服飾文化論』光生館、小池三枝著『服飾の表情』勁草書房、徳井淑子著『服飾の中世』勁草書房、徳井淑子著『ヨーロッパ服飾史』河出書房新社、『衣服の百科事典』丸善出版株式会社・平成27年、一般社団法人日本家政学会編『被服学事典』朝倉書店・平成28年、その他は授業で紹介する。		
学生への要望	服飾文化に関心をもつとともに、授業で紹介した参考文献にはできるだけ目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。		
位置付け・水準	位置づけ・水準 CD2181		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係：1) 地域社会貢献力 2) 創造的思考力		
オフィスタイム	場所 教務部非常勤講師控室 時間 木曜日IV時限		
アクティブラーニング実施内容	解説を聴きながら生活文化博物館の見学をすることにより、展示されている時代衣装についての知識と関心を深め、さらに見学後にディスカッションや文献調査を行い、レポートをまとめることにより、創造力、構成力を養う。また、授業で学んだ内容の中で最も関心を持った事柄について自ら文献を調べて考察し、レポートをまとめることにより、能動的学習力、課題解決力を養う。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 授業計画の提示 生活文化博物館見学・服飾解説	授業計画を提示し、授業目標ならびに授業内容について説明する。 図書館1階の生活文化博物館を見学し、当館に展示されている装束、ならびに時代背景についての解説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。	生活文化博物館見学の感想を配付用紙に記し、第2回の授業時に提出する。（1回目レポート）	60
2	なぜ衣服を着るのか 衣服の機能 衣服の表現・感情移入	衣服が持つ様々な機能について知る。また、衣服の機能のひとつである社会性について考えるとともに、衣服による表現と衣服への感情移入について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
3	着心地とはなにか	着心地には物理的な着心地と、心理的な着心地とがある。ここでは衣服を着るとき心の状態を通して、個人・集団・文化のレベルの着心地について知り、衣服が着る人の心にどのように働きかけているかを考える。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
4	衣服の流行	衣服の流行はどのように発生して広がり、交代していくか、また、それに付随してどのような現象が現れるか、また、それはどのような意味をもっているかについて、文献および絵画等の資料を参照しながら学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
5	日本の色と西洋の色	日本の色彩が季節感と密接に結びついているのに対して、西洋の色彩は季節感とほとんど結びついていないこと、また、日本と西洋では色彩の意味や使い方等に大きな違いがあることを知り、日本と西洋の色彩感情、色彩感覚が異なっていることを理解する。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
6	制度と慣習	日本の律令制における位の色や禁色、江戸時代の服飾に関する禁令、西洋の身分制度と服装等について知るとともに、日本の更衣(ころもがえ)や祝い着などにみられる慣習について学ぶ。また、更衣に連動して日本で伝統的に行われてきた衣料を使い切る衣生活について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	衣服の美感	日本の近世の美感である「だて」と「いき」とはどのようなことを表し、服飾の上にどのように現れているのかを絵画資料、図版資料、文献等を通して知る。また、あわせて西洋の「ダンディズム」、日本の明治期の「ハイカラ」について、それが服飾上にどのように現れ、どのような影響を及ぼしたかを理解する。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。 第2回～第7回の中から最も興味深かった回を一つ選び、概要ならびに感想をまとめ、「めばえ」に提出する。（2回目レポート）	60
8	「壺装束」と「むしのたれぎぬ姿」	平安時代に高貴な女性の外出着として、壺装束とむしのたれぎぬ姿が見られた。これらは文学作品や絵巻物にしばしば登場し、その多くは当時盛んに行われていた寺社詣の際の旅装であった。これらがどのような装束で、どのような意味をもっていたかを学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
9	「近世小袖」と町人服飾	近世小袖文様の流行と町人文化が花開いた元禄期の町人服飾について、文様の効果、「近世小袖」と雛形本、小袖の二通りの鑑賞法、小袖文様の題材と技法、読み解く文様について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
10	日本近代の衣生活① 文明開化と衣生活の変化	明治維新後の文明開化期は服飾にも大きな変化をもたらした。日本において洋服がどのように用いられるようになっていったかを絵画や写真資料ならびに文献等を基に年代を追って見ていき、当時の人々が衣服についてどのような思いをもち、どのような衣生活をしていたのかを知る。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
11	日本近代の衣生活② 束髪流行と女学生の袴 婚礼服と喪服	一時は流行するかに見えた女性の洋装の衰退と女性の改良髪型、女学生の袴の流行について知る。また、婚礼服の変化と日本の伝統的な喪の色の「白」や「浅黄」が西洋の喪の色の「黒」に変わり、黒の喪服が浸透し始めたことを学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
12	日本近代の衣生活③ 洋風の防寒衣料	西洋から羊毛織物がもたらされたことにより、防寒着として男性の「二重廻し」、女性の「東コート」などの外套、「赤毛布」や「肩掛」などのはおりものが流行した。これらの和服に組み合わせる防寒衣料が日本の衣生活に急速に浸透していったことについて知る。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
13	日本近代の衣生活④ 働く女性と洋装の採用 学生服・子供服の洋装化	女性の洋装化は男性に比べて遅れたが、明治末から大正にかけては女性の社会進出に伴い洋装化が進んだ。大正末から昭和初期には「モボ」・「モガ」が現れた。合わせて、学生服・子供服の洋装化について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
14	日本近代の衣生活⑤ 繊維工業の進展 戦時体制下の衣生活	明治から昭和初期まで、日本の繊維工業は目覚ましく発展したが、日中戦争以降、戦争が拡大していくにしたがって衰退した。衣料品が不足し、市民は窮乏生活を強いられた。戦時体制下での劣悪な繊維「ス・フ」や衣料切符制度など、戦時体制下の衣生活について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
15	授業のまとめと期末筆記試験	授業のまとめを行う。 期末筆記試験を実施する。	試験において筆記した内容について、配付資料を参照し、再検討を行う。	60

授業名	家庭福祉論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎知野 愛			
開講期	Ⅳ			
授業の概要	子ども家庭福祉を中心に学び、現代の親子が置かれている状況、少子高齢社会の展望、子ども家庭福祉の基本的枠組み等に焦点をあてる。授業提出物・筆記試験を返却しフィードバックする。			
授業の到達目標	毎回授業後半に意見提出を求め、最終的に筆記試験により理解度を確認します。単位認定の最低基準:内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	筆記試験(50点)、課題提出物(50点)	
テキスト	資料を配布する			
参考書	『子どもと福祉』林浩康、福村出版、2009			
学生への要望	課題を出しますので必ず提出して下さい。			
位置付け・水準	位置付け・水準:CD2141			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係: 知識理解、課題解決力			
オフィスタイム	月曜Ⅱ限、Ⅲ限。 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			
アクティブラーニング実施内容	第5回概要を理解した上でネット検索をしてレポートにまとめて提出、代表者が発表する。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業概要、目標、成績評価法等についてシラバスに基づき説明する。	予習:関連する書籍を読む。復習:リアクションペーパー記入のキーワード等の詳細を調べる。	60
2	現代の親子が置かれている状況	現代の親子が置かれている社会的状況について理解する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
3	少子高齢社会の展望	少子高齢社会の現状を理解し今後の展望を考察する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
4	子ども家庭福祉の基本的枠組み	子ども家庭福祉の基本的枠組みを理解し社会資源や援助技術等について理解する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
5	子ども・子育て支援新制度※	子ども・子育て支援新制度と、幼保連携型認定子ども園について概要を理解した上、ネット検索をしてレポートにまとめて指定日まで提出し代表者が発表する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
6	海外の子育て支援	子育て支援の先進国、北欧の事例を知り今後の方向性について考察する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
7	子育て支援・日本の取り組み	北欧の子育て支援を日本でもどのように取り入れているか。今後の方向性について考察する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
8	子ども虐待の防止	子どもへの虐待と地域の取り組みについて理解し考察する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
9	子ども虐待の防止	子ども虐待の状況、子ども虐待への対応、児童相談所の対応について考察する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
10	児童養護施設の生活状況	児童養護施設で暮らす子ども達の生活状況と社会的支援を理解する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
11	児童相談所について	児童相談所の実態等について具体的に学ぶ。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
12	乳幼児期・学童期における生活状況	乳幼児期・学童期における生活状況と社会的支援を理解する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
13	まとめ、振り返り	授業で扱ったテーマを振り返り、ポイントをまとめる。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
14	ポイント確認、筆記試験	全体的な内容を振り返り、要点を理解しているか筆記試験で確認する。	予習:関連する書籍を読む。復習:課題が出た場合は作成し締切日までに提出する。	60
15	授業のまとめ、フィードバック	答案返却後、正解を確認しフィードバックする。全体的に授業内容のまとめを行う。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:学修内容を振り返る。	60

授業名	ビジネスマナー	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎山口 猛 仲田 佐和子		
開講期			
授業の概要	就職活動を視野に入れ、社会人として働く際のビジネスマナーを様々な角度から実践的に学ぶ。最終授業で全体に対するフィードバックを行います。		
授業の到達目標	①各回授業で出される課題に挑戦し、授業受講前よりも自信をもって就職試験・面接に臨むことができるようになる。②各回の授業で課題を遂行し提出物を提出する。③めばえドリルを達成度100%を目指して何度も挑戦すること。※単位認定の最低基準:各回の提出物を確実に出し、課題に対して8割以上の理解度であること。		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	①各回授業提出物70点(35点×担当者2名)、②めばえドリル達成度30点
テキスト	随時資料を配布		
参考書	随時提示する		
学生への要望	めばえドリル達成度100を目指して取組む。基礎学力を向上させることは就職試験対策になる。		
位置付け・水準	CD2134		
ディプロマポリシーとの関係	3)課題解決力、4)主体的行動力		
オフィスタイム	山口 月曜1限,月曜3限、芸術館2階地域創成学科研究室NO.3 仲田 火曜Ⅴ限,水曜Ⅴ限 創学館4階NO.4研究室☒		
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してめばえドリルの実施、マインドマップや履歴書作成などの作業を要する		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス (山口、仲田)	授業の進め方をシラバスに基づいて説明する。めばえドリルの目標設定を説明する。	資料配布物などをよく読み、次回の予習をする。	60
2	マインドマップ (山口)	就職活動に向けた自己分析を行うための手法を学ぶ。分析事例として、	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	60
3	マインドマップを実現するために何をするか (山口)	第1回で作成したマインドマップを実現するため何をすればよいのかグループディスカッションする。	〃	60
4	就職活動対策（1）企業研究 (山口)	本学の求人状況の理解、求人票の見方および企業研究について。※めばえドリルの進捗状況について講評し、必要に応じて注意する。	〃	60
5	就職活動対策（2）履歴書対策 (山口)	面接の受け方、自己アピールの仕方等について模擬面接で実践的に学ぶ。	〃	60
6	就職活動対策（2）履歴書対策の続き(山口)	本学の履歴書を記入する際の注意事項、応募書類を送付する際の送付状の書き方を学ぶ。	〃	60
7	就職活動対策（3）面接対策(山口、仲田)	面接の受け方、自己アピールの仕方等について模擬面接で実践的に学ぶ。	〃	60
8	SPI対策（1）(山口、仲田)	めばえドリル 3 SPIを実施する。	めばえドリルで不正解であった箇所の解説を読み、復習をする。	60
9	ビジネスマナー(1)社会人のマナー(仲田)	テキストや検定試験の問題を参考に、社会人として大切なマナーについて考える。※めばえドリルの進捗状況について講評し、必要に応じて注意する。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	60
10	ビジネスマナー(2)接遇のマナー(仲田)	好感の持たれる服装・身だしなみ・立ち居振る舞いについて理解するとともに、来客対応の基本マナーについて学ぶ。	〃	60
11	ビジネスマナー(3)交際のマナー(仲田)	社会人として身に着けておくべき慶事、弔事に際してのマナーについて学ぶ。	〃	60
12	公務員試験対策（1）(仲田)	公務員試験の準備方法や、試験スケジュールについて理解する。公務員ではなく民間企業等の就職を希望する者も、就職活動全体のスケジュール感覚を養うために把握をする。	公務員試験を含めた就職活動スケジュールの全体像を理解できるよう、配布資料等を復習する。	60
13	公務員試験対策（2）(仲田)	公務員試験対策の問題に取り組み、試験内容を理解する。公務員ではなく民間企業等の就職を希望する者も、一般常識試験の対策として、取り組む。	公務員試験対策の問題で不正解であった箇所の解説を読み、復習をする。	60
14	SPI対策（2）(山口、仲田)	めばえドリル 3 SPIを実施する。	めばえドリルで不正解であった箇所の解説を読み、復習をする。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	まとめ・講評(山口、仲田)	※めばえドリルの進捗状況について講評し優秀者を発表、提出物の状況を確認し授業を振り返りフィードバックする。	授業終了後も関連書籍を読み各自で学び続ける。	60

授業名	ビジネスホスピタリティ		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎知野 愛 田辺 真弓 吉田 いくよ			
開講期	Ⅱ			
授業の概要	就職活動や社会人となってから役に立つように、ビジネス面を意識したホスピタリティの精神の重要性や実践例を具体的に学ぶ。吉田いくよ先生は現在アナウンス業の会社取締役としての経験を活かして、社会人としての心構えや電話対応の仕方などの授業を行う。知野は元日本看護協会調査研究室での調査研究員経験を活かし授業ガイダンス・全体的運営に携わる。最終授業で課題全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	授業目標は、将来どのような職に就職しても重要となるホスピタリティの精神を学び実践できる人になること。達成目標は、授業中の課題を確実に提出すること、レポートを指定通りに提出すること。 単位認定の最低水準:内容の8割を理解していること。			
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	①授業時の提出物(60点)②レポート(40点)	
テキスト	指定しません			
参考書	必要に応じて紹介します			
学生への要望	最終的に「私が考えるホスピタリティ」についてレポートを提出し発表することを目標とします。			
位置付け・水準	位置づけ・水準:CD2135			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、3)課題解決力、4)主体的行動力			
オフィスタイム	月曜Ⅱ限、Ⅲ限。 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			
アクティブラーニング実施内容	吉田いくよ先生担当3回目、4回目では実際の電話対応をアクティブラーニングで学ぶ			
実務家教員の経歴	実務経歴】(吉田)有限会社ヴォイス・プロ代表取締役・元福島中央テレビアナウンサー、(知野)元日本看護協会調査研究室勤務、調査研究員			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、ホスピタリティを学ぶ意義(知野)	シラバスに基づいて授業の概要、目標、成績評価の付け方等を説明する。「ホスピタリティ」の重要性を文献から紹介し、ホスピタリティの重要性を考える。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
2	社会人としての心構え(吉田いくよ先生1)	社会人としての心構え、言葉遣いの基本と敬語、クッション言葉、職場での態度、心得ておくべき点を具体的に学ぶ。(「授業概要」記載の実務経験による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
3	看護や介護現場でのホスピタリティを学ぶ(知野)	介護の場で実施されている様々な事例を紹介し、真のホスピタリティの実践とは何かを考える。「利用者の気持ちを感じ取るトレーニング」視聴。(「授業概要」記載の実務経験による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
4	パフォーマンス技術を磨く(吉田いくよ先生2)	自己表現の重要性。自分の思いをいかに相手に伝えるか、様々な年齢の人々とコミュニケーションをとれるようになる。(「授業概要」記載の実務経験による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
5	電話対応の仕方(吉田いくよ先生3)	電話のかけ方・受け方の基本(1)、伝言メモの取り方、クレーム対応の仕方、伝言依頼電話への対応等を実践的に学ぶ。(「授業概要」記載の実務経験による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
6	ビジネスシーンでの様々な留意事項(吉田いくよ先生4)	電話のかけ方・受け方の基本(2)、伝言メモの取り方、クレーム対応の仕方、伝言依頼電話への対応等を実践的に学ぶ。(「授業概要」記載の実務経験による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
7	発達障害を抱える子どもとホスピタリティ(知野)	障がいを抱える人々との共生、相手を思いやる心について、様々な事例を基に学ぶ。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
8	衣服とホスピタリティ(1)(田辺真弓先生1)	服装が初対面の人に与える印象に大きくかわることを知り、社会人として知っておくべき服装のマナーとして、ビジネスの場にふさわしい服装ならびに冠婚葬祭時の服装について学ぶ。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
9	衣服とホスピタリティ(2)(田辺真弓先生2)	衣服は人間の心と深くかわっており、衣服には着る人の健康や幸福を願う心情が託されてきた。このことを理解し、衣生活におけるホスピタリティについて考える。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
10	ホテルにおけるホスピタリティ(ゲストスピーカー、知野)	講話を聴く。ホテル・旅館等の宿泊施設でのホスピタリティの実践例、社会人として心掛けるべきこと、キャリア形成、就職活動で気をつけるべき点などを学ぶ。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
11	前回講義の感想発表(知野)	感想や意見を発表する。他の人の考えを知り理解を深める。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	レポート作成	テーマ:授業を通じて(または関連書籍を読み)考えた「私が考えるホスピタリティとは」をA4版1枚(32字×40行)にまとめて提出する。PC、書籍、資料などを持参すること	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
13	レポート結果を発表する(1)	3つのグループに分かれて第1グループが発表する。質疑応答、講評をする。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
14	レポート結果を発表する(2)	3つのグループに分かれて第2グループが発表する。質疑応答、講評をする。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
15	プレゼンテーション(3)、全体の講評、フィードバック	3つのグループに分かれて第3グループが発表する。講評する。レポートにコメントをつけてフィードバックする。	自分が興味関心をもった分野の書籍を読む。	60

授業名	マーケティング論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎佐藤 啓三		
開講期	前期		
授業の概要	■「マーケティング」は一部の人が理解して取り組みばよかった時代から、今やビジネスパーソンの誰もがマーケティングを意識しなければならない時代となった。マーケティングとは何か？ マーケティングが世の中でどのような役割を果たしているのか？ マーケティングをうまく実行していく上で「理論」がどのように役に立つのか？ デジタルの進化でマーケティングはどう変化しているのか？ そしてマーケティング活動を推進していく上で最も理解しておくべき「消費者行動」とは何か？ 企業が目指すべき今後のマーケティングの方向性とは何か？ について学ぶ。そして終盤では「一消費者」という立場（視点）から見た社会の様々な課題と、それに対する消費者としての向き合い方などを学ぶ。 ●流通業と総合広告業の双方で、マーケティング分野を含む総合企画部門での勤務経験を活かして、企業がどのようにマーケティングに取り組んでいるのかを実例を挙げながら講義していく。 ■課題に対してのフィードバックは、レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	■本授業における達成目標は次の通りとする。 1. これからのビジネスパーソンの誰が必要とされるマーケティングの基礎知識を身につける。 2. マーケティングと社会責任の関係についての基礎知識を身につけ、これからの自分の取るべき消費行動についても考えられるようになる。 ※ 単位認定の最低基準 = 「内容の6割以上は理解できること」		
履修条件	・地域創成学科1年（2年の希望者含む）	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題により評価する。課題は中盤に1回、終盤に1回の合計2回提示し（レポート提出形式にて）確認を行う。評価の比率は中盤を40％、終盤を60％とする。
テキスト	なし		
参考書	なし		
学生への要望	・授業内容を自分の実生活（消費行動）に置き換えて考えることで、理解を深めて欲しい。		
位置付け・水準	CD2137		
ディプロマポリシーとの関係	2)創造的思考力、4)論理的な課題探求力と課題解決に向けた主体的行動力		
オフィスタイム	・月曜日 12:10～12：30 教室（授業終了後必要に応じて）		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴	大手百貨店やショッピングモールの営業計画マネジャー及びファッション専門店ビルの館長を経験、その後大手専門店チェーン本社にて販売促進の責任者を経験した後に地元総合広告代理店にて執行役員企画制作部長を経験。現在はフリーのコミュニケーションプロデューサーとして活動中。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	I. イントロダクション (1)マーケティングとは何か？ (2)マーケティングの変遷 ・マーケティング1.0～5.0 (3)マーケティングの考え方 ・考え方で最も大切なこととは	この授業の目的・内容・成績評価等について説明する。 ■マーケティングの入口（序章）についての講義。 ・マーケティングとは何か？ ・マーケティングが誕生した背景とは？ ・マーケティングの中心的考え方の変遷とは？ ・マーケティングの考え方で最も大切なこととは？ 以上を通してマーケティング活動の目的（神髄）を学ぶ。	■復習として 身近にある商品やサービスで、実際にどのようなマーケティング活動がなされていたのかを考えてみる。	45
2	II. マーケティングの基本 (1)マーケティングの本質的要素 ①マーケティングの中核概念 ②顧客価値 (2)マーケティング活動の流れ ①環境分析（Analysis）	■マーケティングの基本についての講義。 マーケティング活動の流れ（マネジメント・プロセス）がわかれば、それを実施して管理できることを学んでいく。 まずはマーケティングの中核となる概念と顧客価値についてを理解し、次にマーケティング活動のスタート地点となる環境分析についてを学ぶ。	■復習として 身近な企業を想定して、内部資料と外部資料で具体的にどんなものがあるかを想像してみる。家族や先輩などにヒアリングしてみるのもよい。	45
3	II. マーケティングの基本 (2)マーケティング活動の流れ ②計画策定(STP/MM) ③実行(Implementation) ④統制（control）	■マーケティングの基本についての講義。 マーケティング活動の流れ（マーケティング・マネジメント・プロセス）がわかれば、それを実施して管理できることを学んでいく。 前回の環境分析に引き続き、計画策定・実行・統制についてを学ぶ。	■復習として マーケティング活動の計画策定のスタートであるSTPについて、自分に身近な商品をいくつか取り上げ、それをあてはめて考えてみる。	45
4	II. マーケティングの基本 (3)マーケティングの戦略的視点 ①戦略とは何か？ ・戦略と戦術の違いと重要性 ②戦略構築のためのポイント	■マーケティングの基本についての講義。 まずは、「戦略」と「戦術」の違いを理解。 マーケティング戦略の重要性（マーケティング・マネジメント・プロセスとの関係）、そして、様々なマーケティングの戦略の種類とその考え方についてを学ぶ。	■復習として 身近な企業などを想定してその企業の「戦略」について調べてみる。各企業のホームページやCSRレポートなどから考察してみるのもよい。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	II. マーケティングの基本 (4)マーケティング戦術の策定 ①4P各項目ごとの戦術策定 ・重要な4Cからの視点 ②テストとコントロール	■マーケティングの基本についての講義。 ターゲットに働きかける（＝戦術）ために必要な4P、それらを効果的に組み合わせること（＝マーケティングミックス）こそがマーケティングの鍵。4P各項目ごとの戦術策定の留意点（4Cとの関係含め）について学ぶ。	■復習として 身近なお店（コンビニ）などを想定して、その店の4Pはどのように策定されているかを考察してみる。	45
6	II. マーケティングの基本 (5)マーケティングリサーチ ①リサーチの方法・手段 ②消費者インサイトとは？	■マーケティングの進め方（プロセス）についての講義。 マーケティングで最も重要なのは「顧客ニーズ」を知ること。そのためにマーケティングリサーチがある。また、顧客の表面には出てこない深層心理の中の意識をインサイトという。これらについて学んでいく。	■復習として 自分でも不合理な消費行動をしたことを思い出し、なぜそのような行動になったかを考えてみる。	45
7	II. マーケティングの基本 (6)現代マーケティング ①近年注目の事例 ②デジタルマーケティング ・リーチとリッチネス ・基本概念 ・SNSマーケティング	■マーケティングの基本についての講義。 現代のマーケティングの事例及び進化し続けるIT・ソーシャルメディア系マーケティングについての概要を講義。 デジタル・マーケティングの基本及びメーカーと消費者の協働、SNS等の利用(SNSのプラス面とマイナス面)についての注意点も学ぶ。	■復習として アマゾン、ライン、インスタ、FBなど、普段自分たちが何気なく関わっているデジタル・マーケティングについて、講義内容を振り返りながら結び付けて考えてみる。	45
8	II. マーケティングの基本 (7)顧客関係のマネジメント ①顧客満足（CS） ・顧客ロイヤルティとの関係 ②リレーション・シップ ③ブランドマネジメント (8)サービス・マーケティング	■マーケティングの基本についての講義。 マーケティング活動の基本中の基本となる「顧客満足」を理解し、顧客との間に、リレーションシップと呼ばれる友好的で、持続的で、安定的な結びつきを構築することで、長期的にみて好ましい成果を実現しようとする「リレーションシップ・マーケティング」について学ぶ。また、「顧客満足」がの重要度が他業種よりも非常に高い「サービス業」のマーケティングの特徴についても学ぶ。	■復習として 自分がずっと購入し続けている商品やサービスについて、なぜ自分は長く購入し続けているのをリレーションシップやブランドの視点で考えてみる。	45
9	III. 消費者行動 (1)個人としての消費者とは ①知覚について ②学習について ③記憶について ④態度について ⑤意思決定について	■生活者が消費行動をとるときに製品やサービスなどのそれらに関連する情報を「知覚」するプロセス、経験によって引き起こされる行動の永続的変化のことを指す「学習」、生活者が消費活動をする際に大きな役割を果たしている「記憶」、何かを対象にする際に「好き・嫌い」や「良い・悪い」などの評価をする「態度」、生活者が消費についてどのように「意思決定」しているのかの各基本ポイントを、一連の流れとして学ぶ。	■復習として 「知覚」と「学習」について、自分の生活の中で実際にあった消費行動を振り返りながら当てはめてみる。	45
10	III. 消費者行動 (2)個人消費者へのマーケティング ①セグメンテーション ②コミュニケーション ③店頭マーケティング	■個人消費者へのマーケティング編の最初は「市場のセグメンテーション」について、デモグラフィックスとサイコグラフィックスを中心に学ぶ。 ■企業が発信している「説得的コミュニケーション」について「メッセージ効果」と「発信源効果」を中心に学ぶ。 ■店舗には消費者に購入してもらうための知恵や工夫が詰まっていることを事例を通して学ぶ。	■復習として CMなどで多くみられる説得的コミュニケーションをピックアップし、なぜ多いのかを考えてみる。	45
11	IV. 行動経済学について ■不合理な消費者行動の存在 ①行動経済学とは何か？ ②私達は常に合理的とは限らない ③行動経済学の基礎 ④マーケティングの活用事例 ⑤活用が広がる行動経済学	従来の経済学では「経済活動において人は合理的な判断をする」というのが定説であるが、実際の消費者行動をみると実に不合理にあふれていることがわかる。リチャード・セイラー教授がノーベル賞を受賞したことで注目されてきた「行動経済学」についての概要と、それを企業がマーケティング上でどのように活かしているかについて学ぶ。	■復習として 自分でも不合理な消費活動をしたことを思い出し、なぜそのような行動になったかを考えてみる。	45
12	V. パーソナル・マーケティング ①WHO(誰に) ②WHAT (何を) ③HOW (どのように)	■これまで学習してきた内容を活かし、自分を商品に見立ててのマーケティングについて考えてみる。 ■就活の際に、企業に入社後の他部署への人事異動希望の際に、様々なオーディションの際に等々、「自分」という商品を、「誰に」対し「どのように」伝えることで行動を起こしてもらえるかについて考える。	■復習として 自分が思う自分の「強み」「弱み」と他人が思っている自分の「強み」「弱み」を比較分析してみる。	45
13	VI. これからのマーケティング (1)社会責任のマネジメント ①CSRとは ②CSVとは？ ③SDGsとは？ ④SDGsとCSVの関係	過去、マーケティングとCSRは別ものと考えられがちだったが、現在ではCSRはマーケティングの今後の広がりとして期待されている。そして、新たにCSVを経営の中核として取り組む企業も出てきた。また、SDGsとは何か？企業はSDGsにどう取り組んでいこうとしているのか？ここではこれらを学んでいく。	■復習として 企業の公共性とはどのような考え方か？どのような問題があるかを考えてみる。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	VI. これからのマーケティング (2)消費者としての責任 ①地球環境問題 ②エネルギー需給問題 ③もう一度SDGsを考える	■エネルギーや環境の問題は、地球全体で知恵を出し合っ て考えていかなければならず、そこに住む1人ひとりの意識 と消費行動が将来を大きく左右することとなる。これらは SDG s の取り組みの中でも重要な課題でもある。ここで は、企業側のマーケティング視点ではなく、ひとりの生活 者としてどう意識を変えて向き合っていかなければならな いかということを学ぶ。	■復習として 個人としてすぐに取り組めるSDG s につい て考えてみる。	45
15	VII. 全体を通しての振り返り ①今後のマーケティングとは？ ②企業が今後目指すべきマーケ ティングとは？ ③今後あるべき消費者像とは？	■加速度的にテクノロジーが進化し益々便利な世の中に なっていく反面、環境問題（温暖化）や格差社会の拡大な どの問題も山積したままの現代。企業が目指すべき今後の マーケティングの方向性とはどうあるべきか？そして「一 消費者」という立場（視点）から消費行動をどうしてい べきなのかについて各自で考えてみる。	■復習として 10年後、20年後、30年後の社会と自分を 想像し、どうあって欲しいか、そのために は何かが必要かについて考えてみたり、友人 や家族などとも話し合ってみる。	45

授業名	経営学基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎長谷川 貴弘			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	経営学とは、急速に変化する社会の中で組織をいかに効率的に運営するかという組織論的側面と、「企業」という特定の存在を扱う企業論的側面の二つがある。本講義では、経営学の基礎的な内容を学修することを通じて、公務員試験の経営学の問題に答えることのできる知識を養うことを目標とする。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。			
授業の到達目標	経営学の基礎的な知識を習得し、公務員試験の過去問題等に対応できるだけの能力を培うことを目標とする。この目標の8割程度を達成することをもって単位認定の最低基準とする。			
履修条件	地域創成学科 1年生	成績の 評価方法・基準	小テスト20点（1回×20点） 定期試験80点	
テキスト	プリントを配布。			
参考書	担当教員が適宜紹介する。			
学生への要望	プリントを配布するので、授業内容の把握に活用すること。授業中の私語を慎み、確実に理解を深めること（小テスト等で確認する）。			
位置付け・水準	CD2138			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解			
オフィスタイム	月曜日 4コマ目 木曜日 4コマ目 食品経営学研究室			
アクティブラーニング実施内容	特になし			
実務家教員の経歴	特になし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス及び企業論①	授業の内容について紹介し、併せて経営学の中心的概念である「企業」とは何か、その企業の二つの側面について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	30
2	企業論②	様々な企業の形態について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
3	企業論③	企業集中（カルテル、トラスト、コンツェルン）について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
4	企業論④	株式会社制度とコーポレート・ガバナンスについて学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
5	伝統的管理論①	テイラーとファヨールの伝統的管理論について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
6	伝統的管理論②	テイラーとファヨールの伝統的管理論について学修する（前回の続き）。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
7	伝統的管理論③	ホーソン実験と人間関係論について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
8	伝統的管理論④	D.マクレガーのX理論・Y理論他各種理論について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
9	伝統的管理論⑤	V.H.ヴルームの期待理論他各種理論について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
10	経営組織論①	経営組織の基本構造（ライン組織、ファンクショナル組織、ラインアンドスタッフ組織、事業部制組織等）について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
11	経営組織論②	その他の経営組織の形態（プロジェクトチーム等）について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
12	経営組織論③	組織の一般原則について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
13	経営戦略論①	経営戦略の定義、経営資源、経営の各種戦略について学修する。	プリントを読んで内容を把握し、小テストや定期試験に備えること。	90
14	経営戦略論②	経営の各種戦略について学修する。（前回の続き）	プリントを読んで内容を把握し、小テストや定期試験に備えること。	90
15	学修内容の復習	これまでの学修内容を過去の公務員試験問題等を通じて復習し、小テストを実施する。	プリントを読んで内容を把握し、定期試験に備えること。	90

授業名	地域デザイン論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	本講義ではソーシャルデザインの方法と事例について学ぶ。外部講師を招聘して、地域課題に対する理解を深めるとともに、実践上の問題を取り上げていただき、どのように解決していったかをお話しいただく。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：各回でミニツペーパーを配布する。興味・関心や疑問点、理解度について確認を行いフィードバックする。 ・位置づけ・水準 CD2139		
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りとする。 ①「ソーシャルデザイン」の理論と方法について、その意味と価値を理解する。 ②「ソーシャルデザイン」の考え方を援用した地域社会の課題解決について理解する。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
履修条件	地域創成学科2年	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①授業への態度・意欲（30%）②授業内容の理解度（30%）③レポート（40%）
テキスト	適宜、ハンドアウトを配布する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	地域デザイン論の授業内容、目標、成績評価、教科書、参考書について説明する。	シラバスの内容を確認する。	60
2	ソーシャルデザイン	ソーシャルデザインの方法と事例について解説する。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。	60
3	デザイン思考①	ソーシャルデザインにおいてデザイン思考は有効な方法とされている。デザイン思考の歴史、方法について講義を行う。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。	60
4	デザイン思考②	デザイン思考の「共感」「課題定義」のプロセスについて講義を行う。対話、インタビューの方法について実践する。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。ループリックをもとに対話の振り返りを行う。	60
5	デザイン思考③	デザイン思考の「共感」「課題定義」のプロセスについて講義を行う。対話、インタビューの方法について実践する。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。ループリックをもとに対話の振り返りを行う。	60
6	デザイン思考④	デザイン思考の「アイデア創出」プロセスについて講義を行ない、グループワークで実践する。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。	60
7	デザイン思考⑤	デザイン思考の「プロトタイプ」「テスト」のプロセスについて講義を行う。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。	60
8	外部講師による講演Ⅰ-①	外部講師による講義を前に、事前学習を行う。	事前学習をもとに質問事項を考える。	60
9	外部講師による講演Ⅰ-②	外部講師による講演を行う。※実施日に変更が生じる場合がある。	講演内容をもとにレポートを作成する。	60
10	外部講師による講演Ⅰ-③	外部講師から提案された議題について、グループディスカッションを行い、内容をまとめる。	ループリックをもとにディスカッションの振り返りを行う。	60
11	外部講師による講演Ⅰ-④	外部講師から提案された議題について、グループディスカッションの結果を発表する。	他のグループの発表内容を確認する。	60
12	外部講師による講演Ⅱ-①	外部講師による講義を前に、事前学習を行う。	事前学習をもとに質問事項を考える。	60
13	外部講師による講演Ⅱ-②	外部講師による講演を行う。※実施日に変更が生じる場合がある。	講演内容をもとにレポートを作成する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	外部講師による講演Ⅱ-③	外部講師から提案された議題について、グループディスカッションを行い、内容をまとめる。	ループリックをもとにディスカッションの振り返りを行う。	60
15	外部講師による講演Ⅱ-④	外部講師から提案された議題について、グループディスカッションの結果を発表する。	他のグループの発表内容を確認する。	60

授業名	チーム発想法概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎山口 猛		
開講期			
授業の概要	社会では、チームの目的達成のためにリーダーシップ・フォロワーシップを意識ながら適切な手法を用いて議論する力を身に着けていることが望まれます。チームで課題解決を行うための各種手法（ブレインストーミング・KJ法・マインドマップ等）を学び、協調して建設的な課題解決のスキルを身に付けます。授業は基本的にアクティブラーニング形式を取り進めます。 随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。		
授業の到達目標	1. チームでの課題解決方法の考えを理解すること 2. 問題解決に向けた議論ができること 3. 主体的・能動的に自分の意見を出したり、他人の意見を尊重し建設的なチームワークが発揮できること 単位認定の最低基準：内容の70%程度を達成していること		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは、チーム発想法実践で作成する各種成果物で評価する。具体的な採点配分は、「ブレインストーミング20%」「KJ法20%」「マインドマップ20%」「マンダラート20%」「プレゼンテーション20%」である。
テキスト	担当教員作成のプリント		
参考書	なし		
学生への要望	自分の発言に自信を持ち、主体的に各種アクティブラーニングに参加してください。		
位置付け・水準	CD2140		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力		
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室		
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してグループワークによるアイデア発想のアクティブラーニングを実施		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・チーム編成	授業内容を解説するとともに、授業の最も重要なチーム編成を決定する	ガイダンスのあった内容を理解する。	30
2	アイスブレイク	チーム編成直後は、お互いを知らないために、チームワークを発揮することが難しい。そこで、さまざまな方法でチームメンバー間の信頼や緊張感緩和を促すアイスブレイクが有効である。授業では、いくつかのアイスブレイク方法の解説と、実践を行う。	自分の所属チームのメンバーと連絡先の交換などをおこない、コミュニケーションを図る。	30
3	ブレインストーミングの理解・実践	アレックス・F・オズボーン氏が考案したチーム発想法「ブレインストーミング」を学ぶ。ブレインストーミングのルールを学んだ後、チームで実践を行う。以降の授業で実践するチーム実践は、共通テーマの課題解決を想定し、行っていく。テーマは授業内で説明する。	ブレインストーミングを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
4	ブレインストーミングの実践・まとめ	前回の授業から継続し、ブレインストーミングの実践を行う。また、実践後には、ブレインストーミング手法のメリット・デメリットを理解するための、まとめ作業を行う。	ブレインストーミングを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
5	KJ法の理解・実践	川喜多二郎（かわきた じろう）氏が考案した情報をまとめる手法「KJ法」を学ぶ。KJ法のルールを学んだ後、チームで実践を行う。KJ法には、前回の授業までに実施したブレインストーミング実践結果を用いる。	KJ法を理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
6	KJ法の実践・まとめ	前回の授業から継続し、KJ法の実践を行う。また、実践後には、KJ法のメリット・デメリットを理解するための、まとめ作業を行う。	KJ法を理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
7	マインドマップの理解・実践	トニー・ブザン氏が考案した思考手法「マインドマップ」を学ぶ。マインドマップのルールを学んだあと、チームで実践を行う。マインドマップには、前回の授業までに実施したブレインストーミングおよびKJ法の実践結果を用いる。	マインドマップを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
8	マインドマップの実践・まとめ	前回の授業から継続し、マインドマップの実践を行う、また、実践後には、マインドマップのメリット・デメリットを理解するための、まとめ作業を行う。	マインドマップを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	マンダラートの理解・実践	今泉浩晃（いまいずみ ひろあき）氏が考案した発想法「マンダラート（マンダラチャートとも呼ばれる）」を学ぶ。マンダラートのルールを学んだあと、チームで実践を行う。マンダラートには、前回の授業までに実施したブレインストーミング、KJ法、マインドマップの実践結果を用いる。	マンダラートを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
10	マンダラートの実践・まとめ	前回の授業から継続し、マンダラートの実践を行う。また、実践後には、マンダラートのメリット・デメリットを理解するための、まとめ作業を行う。	マンダラートを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
11	プレゼンテーション準備	ブレインストーミング、KJ法、マインドマップ、マンダラートの実践結果を踏まえて、チームで議論した結果を、プレゼンテーションするための、準備を行う。	プレゼンテーション準備のためにチーム内で分担した役割や作業を、次回の授業で遅延がないように作業を進める。	60
12	プレゼンテーション準備（続き）	前回の授業から継続し、プレゼンテーション準備を行う。	プレゼンテーション準備のためにチーム内で分担した役割や作業を、次回の授業で遅延がないように作業を進める。	60
13	プレゼンテーション実施	プレゼンテーションを実施する。プレゼンテーション実施チームは、全体の半分とし、残りは、次回の発表とする。プレゼンテーションを行わないチームは、評価者として、プレゼンテーション内容の採点を行う。	プレゼンテーションを実施したチームは、プレゼンテーション内容を反省する。評価者となったチームは、評価結果をまとめる。	60
14	プレゼンテーション実施（続き）	前回の授業から継続し、実施する。	プレゼンテーションを実施したチームは、プレゼンテーション内容を反省する。評価者となったチームは、評価結果をまとめる。	60
15	総合まとめ	授業内で学んだチーム発想法を振り返る。	成果物（ブレインストーミング・KJ法・マインドマップ・マンダラート）を復習し、チーム発想に自身が果たした役割や、課題について整理する。	60

授業名	日本文化史	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐藤 愛未			
開講期				
授業の概要	日本社会の移り変わりに影響を受け、様々な発展を遂げた日本文化について近世を中心に検証を行う。社会と文化の関わりから、その特質・独自性を考えてみる。 授業テーマは、「江戸～明治時代の政治・社会と文化」である。徳川幕府成立から明治新政府の行った政策などとの関わりからどのように日本の文化が形成されていったのかを紹介する。 なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
授業の到達目標	現代に通じる日本文化形成の理解を深め、日本史や現代社会においての視野を広げる。を達成目標とします。 単位認定の最低基準は、 ①授業内容の7割を理解していること。			
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	①課題レポート25点 ②授業毎のミニットペーパーの提出15点 ③期末試験60点	
テキスト	プリントを配布する。			
参考書	尾藤正英『日本文化の歴史』岩波新書、2000年 青木美智男『近世庶民文化史 日本文化の原型』小学館、2009年 ほか適宜指示する			
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。			
位置付け・水準	CD2151			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解・創造的思考力			
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目・水曜日Ⅱ時間目。創学館4階、No5研究室			
アクティブラーニング実施内容	ミニットペーパーの提出			
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・南蛮文化の伝来と安土桃山文化	ガイダンスを行う。その後、以下の内容で授業を行う。15世紀に始まった「大航海時代」の波は天文12年(1543)ポルトガル人の種子島上陸により、日本にも押し寄せた。渡来したポルトガル人・スペイン人えお南蛮人とよび彼らがもたらした南蛮文化と呼ばれる。その当時の日本文化とされる安土桃山文化との関わりを検討する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	寛永文化と「鎖国」	徳川家康は慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いに勝利し、同8年に征夷大將軍就任、江戸幕府を開いた。その頃の17世紀前半の文化を寛永文化とよぶ。サロンの文化と呼ばれ茶の湯や和歌が中心となった寛永文化と幕府の「鎖国」政策との関係を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	文治政治への転換と文化	江戸幕府4代目將軍家綱の治政の後半にあたる寛文期は武断政治から文治政治へと転換した時期である。この時期は文化の面でも同じく転換期とされており仏教・学問など様々な変容が見られる。そこから、文治政治と文化の関わりを検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	「浮世」の元禄文化と町人	17世紀末から18世紀のはじめにかけての元禄の頃は、上方を中心に都市がにぎわい、文化が栄えた時代である。そのため、元禄文化は「浮世」という言葉で代表され、独特の民衆文化が芽生え始めた時代とされている。一方で、身分制社会の文化としての特徴を持っていた文化でもある。この文化を理解するために時代背景と合わせて文化を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	松尾芭蕉と俳諧	元禄文化では武士階級出身の担い手も多く、『奥の細道』で知られる松尾芭蕉もその一人であり、俳諧で蕉風を確立させる。福島県内にも立ち寄りいくつかの俳句を残している。また、芭蕉の旅は地方の門人によって支えられていた。そこで、芭蕉が福島県での旅で出会った相楽等躬をはじめとする人々との関わりなどを検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
6	実学の発展と『会津農書』	元禄時代には諸産業の発達にともない、実学が発展する。実学とは、人々の日々の生活に実際に役立つ学問、実際の見聞にもとづく学問のことである。それは、本草学・和算・医学・農学など様々である。農学では、会津藩の村役人である佐瀬与次右衛門が記した『会津農書』が著名である。そこで、生活を豊かにする実学を中心に当時の庶民の生活を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	宝暦・天明文化と洋学	宝暦・天明期になると学問世界にも新しい動きが現れてくる。その中でも、西洋学術の研究が本格的にはじまり、洋学が大いに発展することになった。なかでも、医学や天文暦学などが中心となり、研究が進められ多くの分野にわたり特異な能力を発揮する人々があらわれた。この時代に活躍した伊能忠敬や平賀源内などを通して文化を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	亜欧堂田善と洋風画	須賀川で生まれた永田善吉（後の亜欧堂田善）は、白河藩主松平定信との出会いから、洋風画家の谷文晁や銅版画家の司馬江漢の弟子となり技術を学び、数々の作品を生み出した。江戸で活躍し、晩年に郷里へ戻った亜欧堂田善の生涯を検証していく。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	町人の文化「化政文化」	江戸時代後期になると文化の中心が江戸に移っていく。この時期の文化は化政文化と称される。浮世絵や遠方の寺社や名所への旅も盛んに行われるようになった。「いき」と遊興から、当時の町人の生活を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	学問の発展と諸藩教育	江戸時代では、幕府・藩による学問の奨励や経済の変化により、武士・庶民を問わず教育が普及した。そこで諸藩には、主に藩士の子弟教育を行う機関として藩が運営した藩校が数多く誕生する。会津藩の「日新館」など福島の中にも藩校を創設した藩がいくつかあった。そこで、福島にあった藩校教育から、藩の教育について探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	伝統工芸品と諸藩	現在、「伝統工芸品」が全国各地で生産されているが、その中には美術工芸品として重要文化財・重要有形民俗文化財に登録されているものもみられる。この工芸品は江戸時代に藩の政策により奨励された例もいくつかある。このことについて工芸品と藩政策の関係を検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	洋学と留学生	開国後、欧米の国々との交流を行って、欧米の文化や学術を取り入れて近代化を目指そうとした。そのため、幕府及び諸藩は、文化・学術を学ぶために国内外へ留学生を派遣した。それらの留学がそのようなものだったのかを調べる。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	文明開化と「和魂洋才」	明治初期、欧米の文物・制度を取り入れ日本の近代化を図ることが国家目標になった。文明開化の風潮がひろまり、政府主導で積極的な西洋文化の導入が図られ急激な西洋化が図られたが、日本の伝統を見直そうという反動の動きも起こり「和魂洋才」という言葉もよく使われた。文明開化と「和魂洋才」について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	万博とジャポニスム	日本は慶応3（1867）年に初めて万国博覧会（パリ万博）へ出品参加をする。また、明治6（1873）年のウィーン万博にも参加する。それをきっかけに、日本美術（浮世絵、琳派、工芸品など）が注目され、西洋の作家たちに大きな影響を与えた。日本の万博参加と西洋で広まったジャポニスムについて考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	明治政府とお雇い外国人	日本には幕末から明治にかけて、「殖産興業」などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人であるお雇い外国人を官庁や学校に招聘した。そのなかで東京の宮内省の顧問になり、ヨーロッパの宮廷儀式を導入したドイツ人外交官のオットマール・フォン・モールという人物がいる。そこで、オットマール・フォン・モールを中心にお雇い外国人について探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

授業名	ヨーロッパ文化史		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎桑野 聡			
開講期	Ⅰ			
授業の概要	現代社会の共通要素として大きな意味をもつヨーロッパ文明（欧米文化）の形成と近代化について、古代・中世～近現代にいたる過程を概観します。また歴史を大学の学問として学ぶ際の一つの切り口として歴史学の歴史と歴史観の問題に着目します。同じ事実が異なった解釈を生むことで歴史像が作り上げられ、変容することを学ぶことで、歴史とは単なる暗記科目ではないことを体感したいと思います。 毎回のワークとレポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。 CD2152			
授業の到達目標	大学で歴史学を学ぶ基本姿勢を整え、現在の日本が直面する歴史問題や周辺諸国との関係、国際社会における役割などを正しく考える基本姿勢を育むことを目的とします。その成果として単位認定の最低基準は、課題の期末レポートに対して歴史学の知識を用いて論理的な文章を書くことが出来ることです。 ディプロマ・ポリシーとの関係： 知識理解・創造的思考力			
履修条件	地域創成学科 1・2 年生・一般聴講生（生涯学習参加者等）	成績の 評価方法・基準	毎回の確認ワーク（最大 4 × 15 = 60点）と必須期末レポート（40点）で評価	
テキスト	特に使用しないが、参考書が本講義の骨子部分は網羅しているため、一読を薦める（本学図書館所蔵）。WLRにパワーポイント資料を掲載。授業時に配布資料あり。			
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説』全2巻 DTP出版 2006年 （希望者は購入可能）			
学生への要望	①地図を見る姿勢、②新聞・ニュースを見る姿勢、③高校世界史の基礎知識の確認を期待する。			
位置付け・水準	CD2152			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解・創造的思考力			
オフィスタイム	水曜Ⅰ時限目（8:50～10:20）・金曜Ⅴ時限目（16:10～17:40） 考古学研究室			
アクティブラーニング実施内容	毎回のワークとレポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。	講義で話した3つの基本姿勢を大切に、次回からの授業のために準備をする。	60
2	歴史学のあゆみ	大学で歴史を学ぶための一つの切り口として「歴史学」の歴史を取り上げる。19世紀に確立した近代歴史学が、現在どのような状態にあるかを解説する。これによって歴史学とは、単なる暗記科目ではなく、現代社会と自己の関係を考えることになることを確認する。	高校までの西洋史の知識を思い出すだけでなく、「歴史ってなんだろう？」と考えてみる。そして、参考文献の手に取ってみる。	120
3	古代世界①	ギリシア・ローマをオリエント世界と共に古代地中海世界という独自の文明世界として考える立場を紹介する。	地中海世界をイメージしてみる。そのために必要な情報を集める。	120
4	古代世界②	ケルト・ゲルマンを中心に古代地中海世界の周辺民族文明について紹介し、ローマの滅亡が単純な「蛮族の侵入」として理解されるべきではないことを解説する。	文明の中心と辺境の関係を理解する。日本の場合の畿内（西日本）と東北の関係などを自分で想像してみる。	120
5	古代世界③	古代末期（4～7世紀頃）に地中海世界が分裂していく過程を概観し、H.ピレンヌやH.オパンのテーゼなどを例に発想の転換の重要性を確認する。	同じ事実をどう解釈するかで歴史像が違ってくことを理解し、その背後にある歴史観を考える。	120
6	中世世界① 前期中世（カロリング・ルネサンス）	前期中世（7～10世紀頃）の西方世界がヨーロッパとして分離・形成されてくる上で重要なカロリング朝フランク王国の役割について解説する。	同じ国名でも時代と関係によって役割が異なることで歴史が動くことを理解する。	120
7	中世世界② 盛期中世（12世紀ルネサンス）	盛期中世（11～13世紀頃）にキリスト教世界として確立するヨーロッパ文明圏の形成を概観し、この時期にヨーロッパが古代文明やビザンツ・イスラム世界などから継受した多様な文化を融合させながら独自の文化を確立した「12世紀ルネサンス」について解説する。	12世紀にヨーロッパ文明が誕生したという考え方を理解し、疑問があれば議論できる準備をする。	120
8	中世世界③ 後期中世（ルネサンス時代）	後期中世（14～16世紀頃）のヨーロッパが封建制の危機の中で新しい価値観（人文主義）を手掛かりに、ルネサンスや宗教改革、大航海時代などに象徴される歴史の転換点に立ったことを解説する。	かつて近代のはじまりとされたルネサンスが、現在は中世として扱われる理由を理解する。	120
9	近世① 絶対主義時代	近世（16～18世紀頃）を特徴づける絶対主義の構造を解説し、宗教戦争や重商主義政策などがヨーロッパ文明の世界への拡大と不可分に結びついていたことを確認する。	近代化のステップと発展のプロセスを理解する。封建制・封建社会が7世紀と12世紀、そして18世紀では全く違うことを理解する。	120
10	近世② 啓蒙主義と市民革命	近世（16～18世紀頃）に顕著となる12世紀以来の個人主義・現実主義などがさまざまな形でヨーロッパ文明を特徴づけ、近代のヨーロッパ社会の形成へと繋がることを解説する。	私たちの近代市民社会の理念を確立した啓蒙主義と市民革命とは何かを理解する。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	近代① ヨーロッパの世紀	19世紀のヨーロッパの変容を概観します。前半のウィーン体制の崩壊による近代市民社会の形成、後半のビスマルク体制の崩壊による世界大戦への疾走の歴史を解説する。	19世紀という時代のダイナミズムを感じる。同じ時代に日本も幕末から明治への転換を経験することと連動した理解が重要。	120
12	近代② 産業革命と帝国主義	ヨーロッパの経済発展が民主的な近代市民社会の発展に大きな貢献を果たす一方で、帝国主義による世界支配を作り上げていったメカニズムを解説する。	ヨーロッパの功罪二つの側面を正しく理解することが21世紀の課題に応えるための大切な前提であることを理解。	120
13	近代③ 二つの世界大戦とファシズム	列強の帝国主義政策が招いた二度の世界大戦の中で台頭した共産主義とファシズムという二つの亡霊の中で、まずファシズムのもつ現代的危険性について解説する。	ファシズムという現象を過去の歴史ではなく、現在も散在する問題として理解する。	120
14	近代④ 社会主義・共産主義と20世紀	19世紀ヨーロッパで生まれたマルクス主義は、第一次大戦末期のロシア革命で最初の社会主義国家建設に成功し、第二次大戦後は東西冷戦の構造を作り出した。社会主義・共産主義を単なる遺物としてではなく、私たちの未来像との関係で捉え直したい。	社会主義・共産主義を単ある前世紀の遺産としてではなく、現在進行形の未来にとって欠かせない警告であることを理解する。	120
15	まとめ 現代ヨーロッパの課題	イギリスの離脱とロシアのウクライナ侵攻の長期化、米トランプ政権による西側陣営の分裂などで揺れる統合ヨーロッパの歴史を概観し、EUが抱える今日的問題と私たちの関係を考えたい。	EUというヨーロッパの実験が何故、重要なのかを考えることで、日本の未来像をイメージする。	120

授業名	考古学	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎館内 魁生		
開講期	Ⅱ期		
授業の概要	考古学は過去の人々が遺したモノから、人類の過去を研究する学問です。モノ資料には様々な制約がありますが、考古学は独特な手法や枠組みを使って過去にアプローチします。中には非常に難解な概念もありますが、本講義ではなるべく実際の資料や遺跡に即しながら、その内容について幅広く講義を行います。特に、教員の専門である歴史時代（古代～中世）の東北地方については詳しく取り上げつつ、福島県内の重要な遺跡も紹介します。また、データベースや遺跡マップ等の効果的な使い方を紹介しますので、受講者は興味関心のある時代・地域の考古資料を自分で調べられるようになります。講義中に課題レポートの内容を指示しますので、期限内に提出してください。		
授業の到達目標	・考古学の基本概念、用語を理解し、考古学に関する論文や専門書などを理解するのに十分な知識を得る。 ・各種データベースや地図を利用して、地域にある遺跡や埋蔵文化財を検索し、情報を整理できる。		
履修条件	地域創成学科	成績の 評価方法・基準	1：出席と講義毎のコメントペーパーの提出（60%） 2：課題レポート（40%） 60点以上を合格とするが、考古学で卒業論文を作成する学生は80点を 目指してほしい。
テキスト	山本孝文ほか2022『考古学概論』（ミネルヴァ書房） 松木武彦2021『はじめての考古学』（ちくまプリマー新書） ※購入の必要はありませんが、事前に目を通しておくことをお勧めします。		
参考書	講義の中で紹介します。		
学生への要望	・専攻科進学希望の学生、考古学あるいは文化財に関連する職業を考えている学生はぜひ履修してください。 ・インターネット環境にアクセスできるPCかタブレット（スマートフォンでも可）を使用することがあります。難しい場合は事前に相談してください。		
位置付け・水準	CD2153		
ディプロマポリシーとの関係	・考古学は遺跡やそこから出土した資料を対象とするため、地域に根付いた学問という側面があります。考古学を通して自身の身近にある歴史や文化を理解し、地域社会に貢献する力を身に付けます（ディプロマポリシー1と関連）。 ・本講義では考古学に関する様々な情報の検索方法を学びます。知識をインプットするだけでなく、必要な情報を取捨選択し自ら考える能力を身に付けます（ディプロマポリシー3と関連）。		
オフィスタイム	講義の前後。あるいは講義で紹介するメールアドレスに連絡をください。		
アクティブラーニング 実施内容	・講義は対話型で行う場合があります。 ・講義中にPC等を操作する課題があります。		
実務家教員の経歴	東北大学埋蔵文化財調査室にて、東北大学構内の遺跡の調査や管理、展示活動を行っています。また、スペイン・ポルトガルの先史墓の保存・活用のためのプロジェクト、3次元計測の普及活動、自治体での講演や展示への協力などに取り組んでいます。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	考古学とはなにか？ 考古学者とは誰か？（1）	世間での考古学に対するイメージを映画やアニメから読み取りつつ、実際の考古学と考古学者について紹介する。考古学という学問の目的や、考古学者が社会の中でどのような役割を果たしているかを考えてほしい。	考古学と考古学者に対してのイメージを整理してから講義に臨んでください。	30
2	考古学とはなにか？ 考古学者とは誰か？（2）	文字史料から歴史を研究する文献史学と考古学の違いについて説明する。また、資料の性質から生じる考古学の難しさについて自分の考えを整理してほしい。	講義の内容の復習	30
3	遺跡論（1）	考古学のフィールドである遺跡について、種類や調査の方法、法的な定義や開発との関わりを紹介する。データベースや地図を利用して、身近な遺跡を検索する方法を紹介する。	全国遺跡報告総覧 (https://sitereports.nabunken.go.jp/ja) に目を通しておいってください。	30
4	遺跡論（2）一東北地方の古代・中世遺跡1ー	遺跡の実例を紹介する。東北地方に特有な城柵遺跡や、福島県内の著名な古代遺跡を取り上げる。	講義の内容の復習	30
5	遺跡論（3）一東北地方の古代・中世遺跡2ー	遺跡の実例を紹介する。古代末から中世前期にかけての遺跡を特に取り上げる。	講義の内容の復習	30
6	遺跡論（4）一祭祀遺跡・生産遺跡ー	遺跡の実例を紹介する。福島県内の鉄生産や須恵器生産に関わる遺跡を取り上げる。また、沖ノ島祭祀遺跡や日光男体山など著名な祭祀遺跡を紹介する。	講義の内容の復習	30
7	文化財保護法と遺跡	文化財保護法と埋蔵文化財について概説する。また、発掘調査報告書を実際に読んで遺跡の概要を理解できるスキルを身に付ける。	全国遺跡報告総覧 (https://sitereports.nabunken.go.jp/ja) に目を通しておいってください。	30
8	考古資料論（1）一考古資料とはなにか？ー	考古学の資料について、種類や特徴について概説する。	講義の内容の復習	30
9	考古資料論（2）一型式学ー	考古学の基本的な考え方である型式学について理解を深める。特に、資料を分類することの重要性和限界を実践的に理解する。	講義の内容の復習	30
10	考古資料論（3）一型式学ー	横山浩一「型式論」（岩波講座『日本考古学1 研究の方法』、1985）をテキストにしなが、その内容を解説していく。	指定したテキストに事前に目を通してください。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	考古資料論（4）－型式学－	型式学の背景に何があるのか？という問いは考古学では永遠の謎である。研究史を踏まえて、自分なりの考えを整理してほしい。	講義の内容の復習	30
12	考古資料論（3）－年代・時代区分－	相対年代と絶対年代の違いを理解するとともに、層位学、セリエーション、放射性炭素年代測定法など関連する概念や手法を学ぶ。また、考古資料に基づく時代区分について概説する。	講義の内容の復習	30
14	考古資料論（4）－記録－	考古資料の記録方法について、その歴史や最新の技術について紹介する。特に基本的なスキルとしての実測とその特性について考えを深める。	講義の内容の復習	30
15	海外の考古学	海外の考古学について学ぶことで、日本考古学を相対的に理解してほしい。特にアメリカ考古学におけるニューアーケオロジー前後の変化を説明する。	講義の内容の復習	30

授業名	美術史	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎斎藤 美保子		
開講期	I 期		
授業の概要	学芸員補（認定資格）選択科目。日本と西洋の美術史の基礎を理解し、鑑賞する力を身につける。 フィードバック：毎回ミニッツペーパーの提出を求め、次の回にコメントを付して返却する。		
授業の到達目標	①地域や時代によって特徴のある美術が作られてきたことを理解する。②重要な作品と美術家についての確な知識を得る。 単位認定の最低基準：日本美術、西洋美術、それぞれの時代様式の違いが見極められること。		
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	授業内で指示する課題（50点） 記述式の期末試験（50点） 60点以上で合格だが、80点以上を目指すこと。
テキスト	必要に応じてコピーを配布する。		
参考書	辻惟雄監修『カラー版日本美術史』美術出版社、高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』美術出版社		
学生への要望	図書館、美術館を積極的に活用すること。授業内で指示した資料を良く読み、作品鑑賞に努めること。		
位置付け・水準	地域創成学基礎 CD2154		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	火曜日16：10-17：05 金曜日10:30-11：30		
アクティブラーニング実施内容	第4回の授業でがないの生活文化博物館を案内する。その後は各自で見学に行き、学修に役立てる。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	古代ギリシア美術	紀元前6世紀から紀元前1世紀までの神殿建築、彫刻、陶器画を映像等で鑑賞、その様式の変遷を理解する。	ギリシア神話の知識をふやす。	90
2	古典期様式のカノン	パルテノン神殿（BC.5C）を中心に古典期様式の美の規範を理解する。定規とコンパスで黄金比を作図する。	身の回りのものから、黄金比を探す。	90
3	ガンダーラ美術	初期の釈迦像を映像等で確認しヘレニスム美術が西インドで仏教と融合、仏像が誕生した経緯を理解する。	アレキサンダー大王について調べる。	90
4	日本古代美術	神社建築等に見られる日本古来のさやかな美に、仏教伝来後に大陸的な美が加わった経緯を理解する。	開成山大神宮を参詣し、千木の形を確認する。	90
5	日本仏像美術史	飛鳥、白鳳、天平、平安、鎌倉と変化した仏像の様式史を理解する。	図書館等で仏教伝来と仏教美術について、知識を深める。	90
6	中世後期キリスト教美術	巡礼路沿いに残るロマネスク様式と、都市の大聖堂に多いゴシック様式の違いを理解する。	近隣の教会建築を見る。	90
7	平安時代の美術	遣唐使廃止後の国風化した王朝美術を、『源氏物語』第二十二帖「玉鬘」の一部「歳暮の衣配り」と装束から理解する。	『源氏物語』について知識を深める。	90
8	鎌倉、室町時代の美術	鎌倉五山、鹿苑寺、慈照寺と水墨画を中心に、武士と禅宗の美術を理解する。	生活文化博物館で、各時代の服装の変遷を理解する。	90
9	初期ルネサンス	15世紀フィレンツェの彫刻、絵画を映像等で鑑賞理解する。一点透視の遠近法の作図をする。	一点透視を使って、季節の絵を描く。	90
10	盛期ルネサンス	16世紀初期のレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロの代表作を映像等で鑑賞理解する。	画集等で、三巨匠の作品を見極められるようにする。	90
11	桃山美術	戦国大名の美意識を表現した大胆で絢爛豪華な美術を映像等で鑑賞理解する。南蛮文化、茶の湯にも言及。	身近な人から、茶道や華道について話を聞いてみる。	90
12	バロック、ロココ美術	17世紀、18世紀の神話画、宗教画、人物画、風景画を映像等で鑑賞理解する。パステル画に挑戦する。	画集等で、バロックとロココの違いがわかるようにする。	90
13	近代西洋絵画	19世紀のフランスを中心とする西洋絵画の変遷を、映像等で鑑賞理解する。近隣の美術館案内をする。	郡山市立美術館、または、福島県立美術館を見学する。	270
14	浮世絵とジャポニスム	江戸時代末の浮世絵木版を鑑賞理解し、それらがフランスでジャポニスムを引き起こした経緯を理解する。	配布したコピーを読み込み、理解を深める。	90
15	印象派から20世紀美術へ	日本と欧米の交流が盛んになり、東西の美術が刺激し合って発展した経緯を理解する。	配布したコピーとノートを整理し、日本と西洋の大まかな美術の流れを理解する。	90

授業名	宗教文化史	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎福島 寅太郎		
開講期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。 ②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。 〔授業の概要〕 本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。 宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。 本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。 本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当てて、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。 位置づけ・水準:CD2155		
授業の到達目標	〔到達目標〕 ①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係: 知識理解、創造的思考力		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	試験成績60点、授業における発表20％、授業における参加態度20％など。理解度8割で、合とする。
テキスト	とくに指定しない。必要に応じて、授業で指示する。		
参考書	特になし。		
学生への要望	ノートをこまめにとること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。	初回に当たり、とくになし	1.5
2	生活と宗教（１）～アップル製品は何故シンプルか～	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしながら、生活における禅の役割を考える。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
3	生活と宗教（２）～今どうして禅なのか～	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
4	生活と宗教（３）～今はどうして生活禅なのか～	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
5	生活と宗教（４）～ダルマとは誰か～	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがあろう。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
6	生活と宗教（５）～般若心経とはどんな教えを説いているのか～	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
7	生活と宗教（６）～心の三次元～	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にする文化的装置である。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
8	生活と宗教（７）～心の成長物語～	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	生活と宗教（８）～悩みはどこから来るのか～	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
10	生活と宗教（９）～特別授業～	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
11	生活と宗教（１０）～特別授業～	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
12	生活と宗教（１１）～生活と宗教との関わり～その一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	0
13	生活と宗教（１２）～生活と宗教との関わり～その二	前回の続き。人間らしく生きるためにはどうしたらいいか、人間の本質とは何かについて教科書を参考にしながら、考えてみる。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
14	生活と宗教（１３）～まとめ～	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
15	最終回～まとめ～その②	授業の内容を踏まえつつ、建学精神である「尊敬・責任、自由」の意義を再び考えることにする。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

授業名	介護概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎廣野 正子			
開講期				
授業の概要	介護の社会化の背景を理解し介護の意義について演習や映像などを通して考える。さらに、「介護」について自分自身に起こりえることを想像し、そこから人間の理解として、からだのメカニズムを基に健康なからだを考察して介護が必要な方の理解につなげる。 また、リアクションペーパー・レポート提出後は次ぎの授業においてフィードバックを行います。			
授業の到達目標	介護は生活の中に存在する身近な行為であることを理解し、介護を通して生活の質を考慮した人生を考えることができる。 １．介護の社会化による介護保険制度を理解する。 ２．地域における高齢者を把握し、介護を必要とするひとを理解する。 ３．からだのメカニズムを理解し、自身の体調管理につなげることができる。 単位認定の最低基準：からだのメカニズムについて7割理解していること。			
履修条件	地域創成学科 2 年生	成績の 評価方法・基準	リアクションペーパー14回分（60点） 筆記試験（40点）	
テキスト	なし 授業毎に必要な資料等を配布します。			
参考書	授業の中で随時紹介します。			
学生への要望	介護は身近な課題であることを理解し、主体的に学んでください。			
位置付け・水準	CD2142			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力			
オフィスタイム	廣野：火曜日Ⅱ限・木曜日Ⅴ限 創学館4階 No2研究室			
アクティブラーニング実施内容	介護の実践の映像から介護について考察する。			
実務家教員の経歴	実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護概論の授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 授業の目的とシラバスについて説明	「介護」のイメージをまとめる。	30
2	介護の歴史	1. 介護の意義 2. 日本における介護の成り立ち	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
3	介護の歴史	1. 老人ホームの質的变化 2. 介護の社会化	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
4	介護事例	1. 介護の実践（事例から考察） 2. 脳血管障害	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
5	介護の理解	1. 介護福祉の概念 2. 自己実現「マズローの欲求」	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
6	高齢者の理解	1. 目の病気、難聴、加齢による変化（消化）	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
7	高齢者の理解	1. 老化の定義 2. 介護保険制度	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
8	認知症の理解	1. 認知症の定義 2. 中核症状、周辺症状	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
9	認知症の理解	1. 認知症に種類 アルツハイマー型認知症と脳血管認知症	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
10	認知症の理解	1. 長谷川式簡易スケール 「認知症の第一人者が認知症になった」	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
11	認知症の理解	1. 認知症予防 2. 介護予防	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
12	ストレス	1. ストレス 2. アンガーマネジメント	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
13	アロマセラピー	1. アロマセラピーのメカニズム 2. 女性のからだのリズム	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
14	アロマセラピー	1. 高齢者、介護者のアロマセラピー 2. アロマセラピーの取り入れ方	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
15	介護概論のまとめ	1. 高齢者の日常から介護を考える 2. これまでの授業の総括	「介護」の意義を考察し、加齢に伴う身体 のメカニズムについて理解する。	30

授業名	社会福祉概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎山脇 功次		
開講期	I 期		
授業の概要	本科目では、「社会福祉」を以下のテーマに基づいて学習を進める。 （１）社会福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ。 （２）ソーシャルワークの基本的知識と援助技術を学ぶ。 （３）社会福祉の法や制度について学ぶ。 * 授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	【達成課題】 （１）地域福祉の役割を理解し実行できる。 （２）社会福祉の「価値」を説明することができる。 （３）社会福祉の視点を取り入れた課題解決が立案できる。 【単位認定の最低基準】 地域福祉の課題とニーズについて 7 割が理解できている。		
履修条件	地域創成学科 1年	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト100点（2回実施：50点/回）
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。		
参考書	山縣文治・岡田忠克 編「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房		
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。		
位置付け・水準	CD2143		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、課題解決力		
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）		
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク		
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の概略を説明します。 みなさんが住む街と福祉の関係を考えます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
2	社会福祉の意義・理念	現代社会における福祉の課題について考えます。	現代社会で問題となっている、あるいは関心のある福祉課題を書き出しておく	30
3	社会福祉の歴史① 世界史	社会福祉の歴史について勉強します。はじめに世界史から学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
4	社会福祉の歴史② 日本史	社会福祉の歴史について勉強します。日本の歴史から福島県の社会福祉についても学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
5	社会保障	社会福祉の諸制度について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
6	地域福祉①	社会福祉の中の地域福祉とはどのようなものかを学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
7	地域福祉②	地域福祉の理論や実践について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
8	地域福祉③	福祉でまちづくりをしていく意義や展望について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
9	福祉ニーズのあるこども①	障害のあるこどもを中心に、福祉ニーズのあるこどもの理解について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
10	福祉ニーズのあるこども②	障害のあるこどもを中心に、福祉ニーズのあるこどもの支援の実際を学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
11	福祉ニーズのあるこども③	障害のあるこどもを中心に、施設入所についてや、自立支援について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
12	高齢者福祉	高齢者を取り巻く環境や諸制度について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
13	福祉でまちづくり①	授業内で学んだことをもとに、みなさんが住む街を分析し、地域の強み（ストレングス）についてグループワークを行います。	みなさんが住む街がどのような地域かを整理する	30
14	福祉でまちづくり②	地域の強み（ストレングス）等を分析し、どのようなまちづくりが必要かグループワークにて検討します。	みなさんが住む街がどのような地域かを整理する	30
15	福祉でまちづくり③	グループワークにて実施した検討内容を発表します。	発表準備等を行っておく。	30

授業名	デッサンⅠ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎黒沼 令		
開講期			
授業の概要	「デッサンは芸術の実体そのものであり輪郭をなぞるだけではない。－中略－デッサンもまた独自の表現であり内的なフォルムであり計画であり肉付けなのである。アングル（画家）」このようにデッサンには最小限の材料や色彩によって表現されたシンプルな美しさと厳しさが 있습니다。本授業では造形活動の基礎となるよう「見る・描く・造る」を繰り返し、ものの本質に迫り描写力と表現力そして造形力を養います。提出された作品は最終授業で講評会を行い学生へのフィードバックとします。		
授業の到達目標	デッサン素材の鉛筆や木炭などの特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけのデッサン空間を創りあげていくことを目標とします。 単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70％以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	特になし		
参考書	例－アングル・ダヴィンチ・ラファエロ・ロダンなどのデッサン集・その他、授業に関連する画集等は適宜指示をする。		
学生への要望	すべての造形活動の基礎であるデッサンの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
位置付け・水準	CD2160		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、主体的行動力		
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No.1工芸室		
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション及び静物デッサン－1	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 静物デッサン ・これまでのデッサン経験に合わせてモチーフを設定する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
2	静物デッサン－2	静物デッサン ・構図などについて学習する。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
3	静物デッサン－3	静物デッサン ・陰影、空間の表現などについて学習する。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
4	静物デッサン－4	静物デッサン ・細部の表現、完成などについて学習する。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
5	静物デッサン－5	静物デッサン ・同上	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
6	石膏デッサン－1	石膏像を木炭を用いて描く ・木炭デッサンは形や空間について試行錯誤することを理解する学習として優れた特性を持っている。 ・石膏像を選択する。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	石膏デッサン－2	石膏デッサン ・構図などについて学習する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
8	石膏デッサン－3	石膏デッサン ・陰影、空間の表現などについて学習する。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	石膏デッサン－4	石膏デッサン ・細部の表現、完成などについて学習する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
10	石膏デッサン－5	石膏デッサン ・同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	人物デッサン－1	人物を鉛筆を用いて描く ・友人をモデルに人物デッサンに取り組む。 ・技術的な面だけでなく、心情や内面的な表現も意識する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
12	人物デッサン－2	人物デッサン ・構図などについて学習する。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	人物デッサン－3	人物デッサン ・陰影、空間の表現などについて学習する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	人物デッサン－4	人物デッサン ・細部の表現、完成などについて学習する。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	人物デッサン－5	人物デッサン ・合評会を行う。	【事前学習】授業に関連する描画材や参考作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

授業名	デッサンⅡ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期	Ⅱ		
授業の概要	デッサンは主に線的な手段を用いて対象の輪郭、構造、量感、質感などを探り出す技術の総称です。また絵画表現の基礎的な物の見方の訓練としても大切なものであります。ここではデッサンⅠの授業内容を引き継ぎ、更に一步踏み込んで各自の個性に合わせ、徐々に表現内容、素材の幅を広げていき、平面 or 立体作品を制作していきます。提出された作品は最終授業で講評会を行い学生へのフィードバックとします。 CD2260		
授業の到達目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえでより確かな描写力と表現力を養うことを目標とします。単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は創造的思考力・主体的行動力となります。		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	特になし		
参考書	授業に関連する画集等は適宜指示する。 例－画家のスーラ・ゴッホ・セザンヌ・ピカソなどのデッサン集		
学生への要望	デッサンすることの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。 【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関連、研究しておく。（1時間） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理し、必要な場合はポートフォリオなどを製作する。（1時間）		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。CD2260		
ディプロマポリシーとの関係	作品制作を通して創造的思考力・主体的行動力を養う。		
オフィスタイム	火曜Ⅱ限（No.2 地域創成研究室）		
アクティブラーニング実施内容	すべての課題作品制作において、学生が自主的に判断・工夫し取り組む。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	デッサンⅡ授業内容、提出課題の内容等説明を行う。	【事前学習】デッサンⅠ授業での内容を復習しておくこと。 【事後学習】デッサンⅡで行う課題制作において不明な点を各自で調べておくこと。	60
2	人物クロッキー	短時間で対象の特徴を捉える練習として人物クロッキーを行う。	【事前学習】クロッキーについて調査して練習しておくこと。 【事後学習】自身が制作した作品をよく観察し復習をすること。	60
3	同上	同上	【事前学習】クロッキーについて調査して練習しておくこと。 【事後学習】自身が制作した作品をよく観察し復習をすること。	60
4	静物デッサン	透明フィルムを含んだ静物を描く。 ・透明フィルムと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。 ・前回のねらいとほぼ同じだが透明感及び光沢を表現するという事でより高度なデッサン力が要求される。	【事前学習】静物デッサンについて調べ準備しておくこと。 【事後学習】自身が制作した作品をよく観察し復習をすること。	60
5	同上	同上	【事前学習】静物デッサンについて調べ準備しておくこと。 【事後学習】自身が制作した作品をよく観察し復習をすること。	60
6	同上	同上	【事前学習】静物デッサンについて調べ準備しておくこと。 【事後学習】自身が制作した作品をよく観察し復習をすること。	60
7	同上	同上	【事前学習】静物デッサンについて調べ準備しておくこと。 【事後学習】自身が制作した作品をよく観察し復習をすること。	60
8	自由制作（平面or立体）－1	自由制作 ・ダンボールを支持体として平面（コラージュ含む）or 立体を制作する。 ・ダンボールは木炭や鉛筆描画の他、地塗りや彩色、更には切り張りといった加工がしやすい材料である為、様々な可能性がある。 ・スケッチブックや更紙に構想を練る。	【事前学習】支持体や技法について各自検討を行うこと。 【事後学習】教員と検討を行い必要な用具の準備と、構想画を作成してくること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	同上	同上	【事前学習】支持体や技法について各自検討を行うこと。 【事後学習】教員と検討を行い必要な用具の準備と、構想画を作成してくること。	60
10	自由制作（平面or立体）－ 2	自由制作 ・エスキース（下絵）を提出。画面構成、色の配置が決まり次第作品制作に取り掛かる。	【事前学習】エスキースの提出準備を行う。画面構成、色の配置についてよく検討すること。 【事後学習】自主制作を進める。	60
11	同上	同上	【事前学習】エスキースの提出準備を行う。画面構成、色の配置についてよく検討すること。 【事後学習】自主制作を進める。	60
12	自由制作（平面or立体）－ 3	自由制作 ・墨汁や彩色、あるいは接着剤使用で乾燥が間に合わない場合はドライヤー等も使い来週の完成を目指す。	【事前学習】自主制作を進めておくこと。 【事後学習】大きな変更ができるのはこの回頃迄。客観的に作品を観察し検討と作業を行う。	60
13	同上	同上	【事前学習】自主制作を進めておくこと。 【事後学習】大きな変更ができるのはこの回頃迄。客観的に作品を観察し検討と作業を行う。	60
14	自由制作（平面or立体）－ 4	自由制作 ・講評会に向けて作品の最後の調整を行う。客観的に作品を観察し、修正等を丁寧に慎重におこなう。	【事前学習】自主制作を進めておくこと。 【事後学習】講評会に向けて最後の調整を行う。	60
15	講評会	各自の制作した作品について講評会を行う。 他者の制作した作品も鑑賞し、授業のまとめを行う。	【事前学習】講評会での説明準備を行う。 【事後学習】デッサンⅡ授業の振り返りを各自で行う。	60

授業名	油彩画Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期	Ⅰ期		
授業の概要	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し愛され生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないでしょう。 その中でも油絵は油彩絵具によるもので非常に便利で自由、しかも高度な表現が可能とされています。それだけに可能な限りの新造形運動の実験の場となり総合的な表現スタイルをとっている分野でもあります。本授業では基礎的な技法の理解と研究を行ない、一步一步、作品の制作向上を計りながら描写力と表現力を養うことを目的とします。提出された作品は講評会を行い学生へのフィードバックとします。		
授業の到達目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りだしていくことを目指します。		
履修条件	地域創成学科 1 年生、生涯学習講座受講生	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70％以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	特になし		
参考書	・新技法シリーズ絵画技術入門…佐藤一郎（美術出版社） その他、授業に関する画集、資料などは適宜指示する。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、技法に早く慣れ、自分の世界を創っていく。また主体的、積極的な姿勢で授業に望む。		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。CD2161		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力を、油彩画作品制作を通し養う。		
オフィスタイム	火曜Ⅱ限（No.2 地域創成研究室）		
アクティブラーニング実施内容	すべての課題作品制作において、学生が自主的に判断・工夫し取り組む。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	ガイダンス ・授業内容や使用道具の説明。（静物画、自由画制作） ・道具点検…各自、油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（F 20号、F6号キャンバス必須）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	60
2	静物画ガイダンス	静物画のモチーフ（描画対象）制作 ・静物画制作では身近な"物"の美しさを発見し自分の内的感情を追求してゆく。 ・全員でモチーフ倉庫に行き各自好きな静物を選びそれを組み合わせでモチーフを作る。	【事前学習】授業に関連する道具やモチーフなどを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	60
3	静物画制作－ 1	作品制作 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。 ・静物の全体感を損なわないように気を使いながら構図を徐々に決めてゆく。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	60
4	静物画制作－ 2	作品制作 ・油絵具、オイルなどの基本的な使用方法を具体的に解説しながら指導する。 ・まず、固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	60
5	静物画制作－ 3	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・ペインティングナイフ（油彩画専用コテ）や絵画用砂を使いマチエール（画肌）や画面に変化を与える。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
6	静物画制作－ 4	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
7	静物画制作－ 5	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば反対色は強烈な効果が生まれ、同色系は統一した効果が生まれる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
8	静物画制作－ 6	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探るべく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	静物画制作－ 7	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握してゆく。描きこむことによって表現が硬くならないように注意する。	【事前学習】 授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
10	静物画制作－ 8	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の形とバランスを再確認しながら完成へと向かう。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成にする。	【事前学習】 授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
11	静物画講評会	静物画講評会 ・仕上がった静物画作品を並べ講評する。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指す。	【事前学習】 授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
12	自由画制作ガイダンス	自由画制作 ・静物画制作で培った経験を活かし、F6号を支持体にして自由画を制作する。 ・ガイダンスを受け小品の魅力を理解し制作する自由画のスケッチ、エスキースを作成し提出する。	【事前学習】 制作をしてみたい作品、自分好みの作品を閲覧・研究しておく。 【事後学習】 ガイダンスを受け、次週までにエスキースを完成させる。	60
13	自由画制作－ 1	自由画制作 ・エスキースの提出が出来た者から自由画制作に取り組む。 ・画面上の主役を明確化させ構図と配色のバランスを客観的に観察しながら制作を進める。	【事前学習】 授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
14	自由画制作－ 2	自由画制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の形とバランスを再確認しながら完成へと向かい、最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成にする。	【事前学習】 授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
15	自由画作品講評会	静物画講評会 ・仕上がった自由画作品を並べ講評する。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画制作の目標達成を目指す。	【事前学習】 授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】 実技授業実施内容を踏まえ、制作したスケッチを整理しておく。	60

授業名	油彩画Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期	Ⅱ		
授業の概要	油彩画Ⅰで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追究します。提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。		
授業の到達目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。		
履修条件	地域創成学科 1 年生、生涯学習講座受講生	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70％以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	教科書は使用せず適宜資料を配布します。 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法（美術出版社）、絵具材料ハンドブック（中央公論美術出版）その他、授業に関する画集等は適宜指示します。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。CD2162		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力・主体的行動力を油彩画制作を通して養います。		
オフィスタイム	火曜Ⅱ限（No.2 地域創成研究室）		
アクティブラーニング実施内容	すべての課題作品制作において、学生が自主的に判断・工夫し取り組む。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 風景画ガイダンス、スケッチ	ガイダンス（風景画、人物画の説明） ・授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検…各自、油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（F 20号キャンバス必須） 風景画ガイダンス ・風景画制作のポイントや具体的方法を指導する。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。 ・各自、大学構内の好きな場所で油彩画制作を視野に入れながらスケッチをする。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	60
2	風景画制作－1	作品制作 ・風景写生は外に出て自然の美しさの中にひたり、そこでの一体感から始まる。 ・風景画制作の為の場所（大学構内）を決定する。 ・カリキュラムスケジュール上、期間が晩秋に至るので風景の色合いや雰囲気の変化なども考慮にいれる。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	60
3	風景画制作－2	作品制作 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。 ・参考資料や画集、デッサン集も適宜見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	60
4	風景画制作－3	作品制作 ・キャンバスに入る風景の全体感を損なわないように気をつけながら構図を徐々に決めていく。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	60
5	風景画制作－4	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば木の葉の塊、道、空などを色面で捉えてみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
6	風景画制作－5	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握していく。 ・画面をまとめるにあたり、もう一度画面構成を確認してみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	風景画講評会	風景画講評会 ・仕上がった風景画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画風景制作の目標達成を目指す。 ・人物画の準備物について説明。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
8	人物画ガイダンス	人物画ガイダンス ・人物画制作のポイントや具体的方法を指導する。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
9	人物画制作－1	作品制作（クロッキー） ・人物モデルによるクロッキーを4回実施し、その中から固定ポーズを決める。 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
10	人物画制作－2	作品制作（固定ポーズ） ・人物の全体感を損なわないように気をつけながら徐々に構図を決めていく。 ・単純な描写だけではなく、人物の内に秘められたキャラクターや美しさなども同時に表現しようと試みる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
11	人物画制作－3	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・光の方向や色彩の取り入れ方なども工夫してみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
12	人物画制作－4	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・バックとの関係に気をつけながら人物の顔や衣装を描き込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
13	人物画制作－5	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランス（特に人物とバックの関係）を整えて完成へと向かう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
14	人物画制作－6	作品制作（ポーズ無） ・モデル無しで最終制作を行う。 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランス（特に人物とバックの関係）を整えて完成へと向かう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
15	人物画講評会	講評会 ・仕上がった人物画作品を並べ、画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画人物制作の目標達成を目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	60

授業名	油彩画Ⅱ（2年）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期	Ⅲ		
授業の概要	油彩画Ⅰで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追究します。提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。		
授業の到達目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。		
履修条件	油彩画Ⅰを履修していることが望ましい。	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	教科書は使用せず適宜資料を配布します。 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法（美術出版社）、絵具材料ハンドブック（中央公論美術出版）その他、授業に関する画集等は適宜指示します。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。CD2261		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力・主体的行動力を油彩画制作を通して養います。		
オフィスタイム	水曜Ⅴ限（No.2 地域創成研究室）		
アクティブラーニング実施内容	すべての課題作品において、学生が自主的に判断・工夫し取り組む。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・授業目標と内容、および授業の進め方について。 ・油彩画の特色や歴史についての復習。 ・道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（制作キャンパス含む）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
2	自由画制作－1	・表現は具象・抽象のどちらでも可。モチーフは静物・風景・人物・構成画など選定は自由。 ・各種モチーフの組み合わせによる心象表現でも可。 ・F50号以上のキャンパス及びF6号程度の小キャンパスを数枚準備する。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
3	自由画制作－2	基底材（キャンパス）の準備… ・木枠に布を張る（2人組共同作業）。または市販の張りキャンパスを使用。各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。 ・表現したいテーマについての取材やモチーフ選定、セット。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
4	自由画制作－3	エスキース制作… ・スケッチやエスキース（下絵）などで構想を練る。 ・表現のイメージがある程度かたまったら50号または小キャンパスに制作を始める。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
5	自由画制作－4	作品制作… ・表現意図をなるべく明確にする。 ・固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
6	自由画制作－5	作品制作とさまざまな技法の試み… ・50号制作と並行させて、小キャンパスにさまざまな技法を試みる。 ・大画面の絵具の乾燥を待つ間や発想の転換を図る際に有効。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	自由画制作－6	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－グリザイユ（単色描画法）、グラッシ（おつゆ描き）、ドリップング（液状絵の具の滴下）、フロETTE（刷り込み）、フロウイング（流し込み）、スクラッチング（引っかき）など。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	自由画制作－ 7	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－絵の具の掻き取りや盛り上げ、異物混入、コラージュ、デカルコマニー、フィンガーペインティング、プリンティング、その他。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	自由画制作－ 8	作品制作とさまざまな技法の試み… ・制作意図に応じて様々な技法を画面に応用したり、発想の転換を図ることなどを繰り返しながら画面上で各自の表現意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
10	自由画制作－ 9	作品制作… ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿ったものであるかどうかを確認しながら、また全体の関係を見ながら制作を進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	自由画制作－ 1 0	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面創りを目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
12	自由画制作－ 1 1	作品制作… ・制作意図が十分に表現できているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	自由画制作－ 1 2	作品制作… ・完成に近づきつつある作品を前に、更により深い表現を追究する。 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
14	自由画制作－ 1 3	作品制作… ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の構成要素のバランスを整えて完成に向かう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	自由画制作 < 講評会 >	・完成した作品を並べて一点一点講評する。 ・学生、教員の意見交換をおこない、作品制作の、より高い目標達成を目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、	30

授業名	塑造基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎黒沼 令		
開講期			
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。塑造とは彫刻の技法の一つで、粘土などの可塑性のある素材で彫刻作品をつくる事を言います。塑造基礎の授業では粘土による造形、テラコッタ（焼成による造形）を体験し、彫刻の基礎的な技法や表現を身につけ、ものをつくる喜びや達成感を味わう事を目標とします。 最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。		
授業の到達目標	塑造作品の制作を通して、塑造の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。 ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。		
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、 授業理解度は7割以上を求めます。
テキスト	特に無し。		
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等		
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。		
位置付け・水準	CD2167		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No1工芸室		
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	塑造基礎の授業について	・塑造基礎の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習		0
2	テラコッタ－1	◆塑造（モデリング）の表現の一つである、テラコッタについて学習する。粘土の練り方や保管の方法など、理解する。 テーマは自由。各自彫刻性を意識したものを構想し、制作する。 《アイディアデッサン》 ・自由に構想を練りながらデッサンする	・作品の構想を練りながら、取材、デッサンを用意する	120
3	テラコッタ－2	《モデリング・1》 ・粘土の練り方を練習する ・手びねり（芯棒を用いない）で制作する	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
4	テラコッタ－3	《モデリング・2》 ・第3回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
5	テラコッタ－4	《モデリング・3》 ・第3回に同じ	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
6	テラコッタ－5	《モデリング・4》 ・第3回に同じ	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
7	テラコッタ－6	《モデリング・5》 ・第3回に同じ	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
8	テラコッタ－7	《モデリング・6》 ・焼成の準備 1、少し乾燥させた作品の内側を空洞にする 2、量のある部分は穴を開けるなど、空気の逃げ道を作る	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
9	テラコッタ－8	《モデリング・7》 ・第8回に同じ	・焼成できる状態まで完成させる	60
10	テラコッタ－9	《モデリング・8》 ・第8回に同じ	・焼成できる状態まで完成させる	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	テラコッタ－10	《モデリング・9》 ・第8回に同じ ・やすりをかけるなど、乾燥した粘土でなければ出来ない造形を行う	・焼成できる状態まで完成させる	60
12	テラコッタ－11	《モデリング・10》 ・第8回に同じ	・焼成前に作品をやすりがけする	60
13	テラコッタ－12	《モデリング・11》 ・第8回に同じ ・着色について学習する	・焼成前に作品をやすりがけする	60
14	テラコッタ－13	《台座の制作》 ・台座の制作を行う	・台座をサンドペーパーなどで磨く。 着色を行う。	120
15	合評会	《合評会を行う》 ・制作したテラコッタ作品についてのプレゼンテーションを含めた合評を行う		0

授業名	基礎デザイン	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎松田 理香			
開講期	I 期			
授業の概要	この授業ではでデザインの基本的な考え方や提示の仕方を学びます。点・線・面など構成の基礎となる造形の諸要素を知り、色彩を体系的に把握します。5つほどの課題に取り組みながら、他者への発信の仕方やその技法などを学びます。 提出した作品のいくつかは全員で鑑賞し意見などを述べ合います。また提出したレポートを返却する際はコメントなどによるフィードバックを行います。 CD2168			
授業の到達目標	日常生活の中で一定の情報をわかりやすく視覚的に伝えていく表現の一つにデザインがあります。「視覚言語としてのデザイン」が社会で果たす役割について考えてください。 ・単位認定の最低基準：課題作品の提出（ルーブリック評価の基づいて判定します） ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力			
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	制作姿勢(20%)課題作品の提出状況と達成度(80%)の他、授業目標への意欲や関心などを含めて総合的に判断します。	
テキスト	必要に応じて関連資料を配布します。			
参考書	○参考書 ・デザイン概論（ダヴィッド社）など ○画材・道具など （画材についてガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します） ・アクリル絵具、マスキングテープ、筆、定規、カッターなど			
学生への要望	・生活の中にあるデザインについて興味・関心を持ってください。 ・美術館・博物館などへ足を運び、ワークショップなどにも積極的に参加してください。			
位置付け・水準	CD2168			
ディプロマポリシーとの関係	①知識理解 ②創造的思考力			
オフィスタイム	金曜日Ⅰ・Ⅱコマ 研究室			
アクティブラーニング実施内容	学生相互に表現方法についての意見交換を行い、お互いの作品を鑑賞し感想を述べ合います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	基礎デザインの授業内容について説明し、生活の中のデザインについて考える。	ガイダンスで配布された資料を参考に生活の中にあるデザインの役割について考える。	30
2	造形の要素 「点・線・面」	・点が平面構成の原点であることを理解する。点と点の関連性から線や面への可能性を考える。美しいデザインを考えるときに必要とされるいくつかの要素には、リピテーション（リズム）、コントラスト、シンメトリー、グラデーション、アクセント、ムーブメントがある。ここではシンメトリー（左右対称、点对称、平行移動など）について理解する。 ・課題1についてのガイダンス	造形の要素「点・線・面」についての理解を深める。	60
3	点の構成	【課題1】 正方形の内側に●を配置して、秩序のある構成を心掛けながら課題に取り組み、提出する。 （条件） ・以下の6つのテーマに従って自由に表現する。 ①集合のイメージ ②拡散のイメージ ③感情のイメージ ④匂いのイメージ ⑤色のイメージ ⑥音のイメージ	課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	30
4	点の構成	・課題1の作品鑑賞と講評 提出された作品を鑑賞し合い、造形の要素としての点について考える。 ・造形の要素としての線と面についてガイダンスを行う。	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	30
5	線の構成	【課題2】 正方形の内側にさまざまな太さの線を自由に構成する課題に取り組む。 （条件） ・タテ ヨコ 斜め／ の3種類を使用すること ・線の太さは任意 ・点線や二重線は使用しない	課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	30
6	線の構成	・課題2の作品鑑賞と講評 提出された作品を鑑賞し合い、造形の要素としての線と面について考える。 ・課題3についてのガイダンス	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	面の構成	【課題3】 正方形の内側に、面の要素を利用した構成の課題に取り組む。 (条件) ・任意の国の国旗を選ぶ ・国旗にある色の再現する ・面の構成に使用するパーツを2種類以上、それぞれ同じ形でサイズを2種類以上考える	課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	60
8	面の構成	・課題3の作品鑑賞と講評 提出された作品を鑑賞し合い、造形の要素としての線と面について考える。 ・課題4についてのガイダンス	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	30
9	名刺のデザイン	【課題4】 課題1～3の点・線・面の構成をもとに名刺のデザインを行う。 (条件) ・点を文字に置き換えてレイアウトする(書体・サイズなど自由) ・線と面の要素を取り入れる(線の太さ・色など自由) ・名刺はタテとヨコのデザインを1つ以上制作して提出する	課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	30
10	名刺のデザイン	同上	課題に取り組む。	60
11	名刺のデザイン	・課題4の作品鑑賞と講評 ・課題5についてのガイダンス	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	60
12	ブックカバーのデザイン	【課題5】 美しいレイアウトを心掛けてブックカバーのデザインを行う。 (条件) ・指定されたサイズに、表表紙、裏表紙、背表紙がわかるようなデザインを考える ・表表紙にはタイトル、出版社、作者名を必ず挿入する ・裏表紙には、出版社、価格の他に、架空のバーコード、ISBNを配置する ・イラストや写真を使ってもよい	課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	30
13	ブックカバーのデザイン	同上	課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	30
14	ブックカバーのデザイン	・課題5の作品感想と講評	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	30
15	まとめ	【まとめ】 これまでの課題について振り返り、生活の中のデザインについて考える。	生活の中におけるデザインの役割について改めて考え理解を深める。	30

授業名	絵本とイラストレーション		配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎松田 理香			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	簡易な絵本を制作しながらイラストレーション表現のためのさまざまな技法について学び、「伝える」ことの重要性を学びます。表紙、扉、本文、裏表紙を合体して16ページの絵本を制作します。既刊の代表的な絵本も参考にしながら、文字やイラストレーション、写真、切り絵、飛び出す絵本など、各自のコンセプトに合わせた表現方法で絵本を制作し完成させ提出してください。 授業のフィードバック：完成した作品を全員で鑑賞し感想などを述べ合う際や提出したレポートを返却する際に、コメントなどによるフィードバックを行います。			
授業の到達目標	編集デザインの視点から絵本を制作します。絵本を手にする対象(年齢や場面など)を具体的にイメージしながら制作してください。 ○単位認定の最低基準：課題作品およびレポートの提出（ルーブリック評価に基づいて判定します） 作品は7割以上の完成度を旨すること。			
履修条件	地域創成学科の学生 専攻科幼児教育学専攻の学生	成績の 評価方法・基準	提出作品〔絵本〕(80点)、本の装丁や編集デザインの理解度など(20点)を総合的に判断します。	
テキスト	簡易な制作手順資料を配布します。			
参考書	既刊の絵本や写真集等の資料を提示します。			
学生への要望	各自の表現方法を活かしながらオリジナルの手作り絵本を完成させてください。また、アニメーションなどの映像表現との違いを知り、あるいはコラボレーションの可能性など、これからの絵本のあり方についても追求してください。			
位置付け・水準	CD2169			
ディプロマポリシーとの関係	①知識理解 ②創造的思考力			
オフィスタイム	金曜日Ⅰ・Ⅱコマ 研究室			
アクティブラーニング実施内容	学生相互に表現方法についての意見交換を行い、お互いの作品を鑑賞し感想を述べ合います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 本の装丁について学ぶ。特に、絵本の装丁の魅力を再確認する。 2. イラストレーション表現に面白さがある本、構成や造本、色調に工夫がある本など、デザイン的な視点から絵本を見る。本の構造や種類、本の部位の名称について学ぶ。 3. 材料、制作上の諸注意、作業の下がれについて確認する。	配布された資料を参考に絵本の魅力を改めて考え理解を深める。	30
2	絵本の表現技法	4つのテーマに基づいていろいろな画材で描く ①花 線描き ペン・色鉛筆で描く ②太陽 くれよんで描く ③風景（山・川・海・空・草原など） 水彩絵の具で描く ぼかし 擦筆など ④私のお弁当 切り絵 ハサミで切る 紙をちぎる マスキングテープなど	図書館や書店などで実際に絵本を手に取り、絵本についての理解を深める。	60
3	〃	〃	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。	30
4	絵本の構成と構造	<絵本の構成>（ストーリーを考える） ①ページの順番を確認しながら中身を制作する。既成の絵本やイラストレーション作品なども参考にしながらオリジナルの表現方法を探る。 ②キャラクターなど主人公が登場する場合は、同一人物であることがわかるようにする。	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。	30
5	〃	〃	16ページの展開をイメージしてスケッチを行う。	60
6	表紙の台紙を作る	<表紙の台紙制作> ○絵本の完成形状（タテ型にするかヨコ型にするか） 1）本のページ構成の確認 ①表紙と裏表紙・背 ②見返し（接着面・遊び紙・奥付） ③本文16ページ（両面使用のため用紙は8枚） 2）中身（本文）に合うように表紙・裏表紙となる色紙を選ぶ。 3）表紙・裏表紙に合わせて見返し紙を選ぶ。	16ページの展開をイメージしながらスケッチを行う。 自分の作品に合う表現方法について考え、さまざまな素材で試作する。	60
7	〃	〃	自分の作品に合う表現方法について考え、さまざまな素材で試作する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	中身（本文）の検討	本文制作　＜ストーリーを考える＞ ①ストーリーが読み手にとって内容が伝わる構成になっているか確認しながらラフスケッチを進める。 ②読み手を意識して制作する。	自分の本文に合う表現方法を検討する。	60
9	〃	〃	〃	0
10	中身(本文)の制作	本文制作　＜16ページの展開＞ ・幼児向け絵本の展開（色・文字・図鑑的表現　他） ・年齢制限を撤廃した絵本　等 1．文字や文章を配置する場合は、誤字・脱字がないかなどを確認する。 2．全体の仕上がりがイメージ通りとなっているか、効果的な流れになっているか確認しながら制作する。	本文内容・表現の検討と制作の継続	60
11	〃	〃	〃	60
12	〃	〃	〃	30
13	表紙の完成・合本作業 最終確認	○表紙と裏表紙のデザイン 1）作品タイトル、作者名、出版社名、また価格やバーコードなど絵本に必要な情報を決める。必要な情報をどのようにレイアウトするかも含めてバランスを見ながら検討すること。 2）中身（本文）に合わせた表現の表紙と裏表紙を制作する。 3）合本作業。最終的な仕上がりを予想して表紙と中身を組み合わせてみる。	既存の絵本なども鑑賞し絵本全体の完成イメージを固め作業を行う。	30
14	〃	〃	〃	60
15	まとめ（鑑賞と講評）	○合評会と作品提出 1）作品発表　お互いの作品を鑑賞し、内容や仕上げについて感想を述べ合う。 2）まとめ	感想や意見を受け、自分の作品について客観的に検証する。	30

授業名	C G 基礎Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	コンピュータ上で写真やイラストレーション、図形、文字、記号などの視覚的要素を作成・編集するために必要なソフトウェアの基礎知識・操作方法を学ぶ。特に本演習では、Draw系グラフィックソフトウェアの操作方法を中心に学習する。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作におけるコンピュータ利用についての実践的な指導も行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：提出物の内容が不十分である場合は、修正箇所を指示した上で再提出を受け付ける。 ・位置づけ・水準：CD2164		
授業の到達目標	本演習の達成目標は以下の通りとする。 ①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的知識が理解できている。 ②Draw系グラフィックソフトウェアの基礎的操作方法を習得している。 ③ベクトル画像の描画・編集ができる。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。		
履修条件	地域創成学科 1 年	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①課題の提出状況 20%、②課題の内容 60%、③模擬試験の成績 20%
テキスト	Illustrator®クイックマスターCC Windows&Mac、株式会社ウイネット		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・Microsoft Teamsを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・教科書に対応した動画教材を準備している。学習内容に不明な点があれば参照すること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準	CD2164		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	火曜日Ⅰ・Ⅱ時限、木曜日Ⅰ・Ⅱ時限、CG演習室		
アクティブラーニング実施内容	なし		
実務家教員の経歴	広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作におけるコンピュータ利用についての実践的な指導も行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	C G 基礎Ⅰの授業内容、目標、成績評価、教科書、参考書について説明する。コンピュータの設定、及び授業で使用するソフトウェアのダウンロード・設定をおこなう。	コンピュータの設定、ソフトウェアの設定方法について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
2	基本操作	Illustratorの起動と作業エリア、アートワークの表示とプリント、環境設定について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter1」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
3	オブジェクトの基本操作	塗りと線、オブジェクトの描画、基本的な編集操作について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter2」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
4	カラー設定	基本的な編集操作、カラーパネルによるカラー設定について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter3」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
5	レイヤー、文字	レイヤー、オブジェクトの組み合わせによる編集、文字の作成、文字関連の機能について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter4・5」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
6	パスの描画・編集の基礎	パスの基本的な描画、パスの編集について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter6」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
7	オブジェクトの描画、線	オブジェクトの描画方法と線の描画・設定について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter1」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	レイアウトの補助、スウォッチ・パターン	レイアウトの補助機能、スウォッチ、パターンの作成方法について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter2」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
9	グラデーション、アピアランス	グラデーションの作成・編集、アピアランスの設定方法について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter2」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
10	レイヤー、文字の応用	レイヤーの応用操作、パス上の文字入力、文字の種類、文字関連の機能について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter3・4」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
11	パスの編集	応用的なパスの編集方法について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter5」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
12	コンテンツの作成①	名刺のデザインを通して、DTPの基礎を学修する。	教科書「第3部 基本操作編 Chapter5」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
13	コンテンツの作成②	DMのデザインを通して、DTPの基礎を学修する。	教科書「第3部 基本操作編 Chapter5」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
14	知識理解の確認①	実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について復習する。	模擬テストの内容を復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
15	知識理解の確認②	実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について復習する。	模擬テストの内容を復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60

授業名	C G 基礎Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	コンピュータ上で写真やイラストレーション、図形、文字、記号などの視覚的要素を作成・編集するために必要なソフトウェアの基礎知識・操作方法を学ぶ。特に本演習では、Paint系グラフィックソフトウェアの操作方法を中心に学習する。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作におけるコンピュータ利用についての実践的な指導も行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：提出物の内容が不十分である場合は、修正箇所を指示した上で再提出を受け付ける。 ・位置づけ・水準 CD2264		
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りとする。 ①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的知識が理解できている。 ②Paint系グラフィックソフトウェアの基礎的操作方法を習得している。 ③ビットマップ画像の描画・編集ができる。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。		
履修条件	地域創成学科 1 年	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①課題の提出状況 20%、②課題の内容 60%、③模擬試験の成績 20%
テキスト	Photoshop®クイックマスターCC Windows&Mac、株式会社ウイネット		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・Microsoft Teams活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準	CD2264		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	火曜日 Ⅰ・Ⅱ時限、水曜日Ⅰ・Ⅱ時限、CG演習室		
アクティブラーニング実施内容	なし		
実務家教員の経歴	広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作におけるコンピュータ利用についての実践的な指導も行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	C G 基礎Ⅱの授業内容、目標、成績評価、教科書、参考書について説明する。コンピュータの設定、及び授業で使用するソフトウェアのダウンロード・設定をおこなう。	コンピュータの設定、ソフトウェアの設定方法について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
2	Paint系アプリケーションとは	ファイル操作、作業エリア、画面表示と色の選択、環境設定について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter1」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
3	選択範囲の作成	選択ツールとその他の選択方法について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter2」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
4	画像の移動と変形	画像解像度とサイズ変更、画像のコピー&ペースト、画像の変形について学修する。	【事前学習】テキスト「第1部 基本操作編 Chapter3」について予習する。 【事後学習】演習課題作品に取り組む。	60
5	カラーモードと色調補正	カラーモード、色調補正について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter4」について復習する。	60
6	ペイント	ペイント系のツール、レタッチ系のツール、ペイント系のコマンドについて学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter5」について復習する。	60
7	レイヤーの操作	レイヤーの基本操作、調整レイヤーと塗りつぶしレイヤーについて学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter6」について復習する。	60
8	パスとシェイプ、テキスト	パスの作成と編集、シェイプについて学修する。 テキストの入力と編集、文字の加工について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter7およびChapter8」について復習する。	60
9	フィルター	フィルタの概要と使用について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter9」について復習する。	60
10	画像の入出力	保存形式、プリントとスキャナーについて学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter10」について復習する。	60
11	コンテンツの制作①	ロゴデザインの制作を通して、擬似テクスチャの作成方法を中心に学修する。	教科書「第2部 コンテンツの制作編 Chapter1」について復習する。	60
12	コンテンツの制作②	フォトコラージュの制作を通して、写真の合成方法について学修する。	教科書「第2部 コンテンツの制作編 Chapter4-1」について復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	コンテンツの制作③	イラストと写真の合成を通して、手書きイラストレーションのデータ化と活用方法を中心に学修する。	教科書「第2部 コンテンツの制作編 Chapter4-3」について復習する。	60
14	知識理解の確認①	実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について復習する。	模擬テストの内容を復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
15	知識理解の確認②	実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について復習する。	模擬テストの内容を復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60

授業名	写真基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎吉村 友紀			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	写真とカメラの基本的な知識を学び、撮影に対して柔軟な対応ができるよう技術の習得を目指します。 フォトスタジオでの実務経験をもとに、現場および被写体の捉え方や、実際に使用する撮影・修正技術の指導を行います。またカメラマンとして感じてきた写真の価値や、その変化を伝えるとともに。人や社会にとって写真とはどういうものなのか、その本質や将来性を考えていきます。 全体をとおして写真を「撮る力」と「見る力」を身に付けます。(提出された課題は添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。)			
授業の到達目標	1. 写真の基本的な教養、撮影の感覚を身につける。 2. 学生各自の研究領域に活かせるような写真の撮影、加工修正ができるようになる。 3. 現代社会における写真の価値や役割への理解を深め、写真に対する感性を磨く。			
履修条件	地域創成学科1年	成績の 評価方法・基準	①課題提出 40％ ②学習態度 60％	
テキスト	特に指定しません。			
参考書	授業内で掲示します。			
学生への要望	1. デジタルカメラ（コンパクトデジタルカメラ、ミラーレス一眼カメラ、一眼レフカメラ）の場合は、カメラに対応した8GB以上のメモリーカードを準備すること。カメラは1,200万画素以上が望ましく、Wi-Fi対応機種なら尚良い。 2. スマートフォンの場合は標準のカメラアプリを使用すること、アウトカメラで1,200万画素以上が望ましい。OSやアプリのアップデートは欠かさずおこない、写真を撮影するためのストレージを必ず確保しておくこと、一回の授業での撮影目安は50枚とする。(写真一枚あたりの容量は1,200万画素で2～4MBほど) 【参考】iPhone 15 Pro：広角 約4,800万画素(f/1.78) 超広角 約1,200万画素(f/2.2) 望遠 約1,200万画素(f/2.8) 3. 授業内で撮影した写真を編集印刷し、課題として提出する。【イディアノート】必ずA4サイズ・糸綴じにしてください、30Pあれば十分です。			
位置付け・水準	CD2170			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解			
オフィスタイム	授業前後			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴	カメラマンとして、Total Photo Studio しょこら郡山店に9年間ほど勤務したのち 現在、有限会社ジェットプリントサービスにて幼稚園写真の撮影に従事。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	写真とは何か	写真の本質や社会での在り方、なぜ人は写真を撮るのかについて考える。	カメラ準備・自主撮影	30
2	写真の歴史とカメラの構造	写真の誕生から現在までの歴史、およびカメラの構造と種類を学習する。	カメラ準備・自主撮影	30
3	現代写真家に学ぶ	「自分以外の誰かが撮った写真」と向き合い、多様な感性に触れ、自分にとっての写真表現について考える。	課題提出【イディアノート】	30
4	【撮影】基本	写真撮影における光の役目、構図と技術を学ぶ。	自主撮影・編集	30
5	【撮影】人物写真	人物写真の基本「全身・七分・アップ」から撮影する。	自主撮影・編集	30
6	【画像編集】	加工修正技術と印刷方法を学び、作品として仕上げる。	編集・印刷	30
7	写真をどう使うか	営業・広告・報道における、その写真の役割や価値。 また写真による自己表現や、SNS等への掲載など。 写真を世界へ向けて「発信」する意味について考える。	課題提出【人物写真・第7回授業感想】	30
8	【撮影】静物写真	銅像や彫刻等を被写体とした撮影、物撮りを学ぶ。	自主撮影・編集	30
9	【撮影】ロケーション撮影	屋外での植物や風景の撮影、ロケーションに合わせた光の使い方や構図を学ぶ。	自主撮影・編集	30
10	【撮影】日常写真	日常の中での、写真表現を考える。	自主撮影・編集	30
11	【画像編集】	文字に合わせた、写真表現を学ぶ。第9回・10回の写真を使用し、詩がイメージできるように編集する。	編集・印刷	30
12	写真表現(1)	写真による自己表現を考え、必要な素材を自らプランを立て撮影し、写真集として編集していく。	課題提出【静物写真・ロケ日常写真】	30
13	写真表現(2)	写真による自己表現を考え、必要な素材を自らプランを立て撮影し、写真集として編集していく。	自主撮影・編集	30
14	写真集仕上げ	テーマに沿った表現ができているか推敲し、印刷時には色やレイアウトを確認すること。	編集・印刷	30
15	まとめ	写真集の発表、合評会。	課題提出【写真集・イディアノート】	30

授業名	木彫基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎黒沼 令		
開講期			
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。木彫とは彫刻の技法の一つで、木を素材として彫刻作品をつくる事を言います。木彫基礎の授業では木による造形を体験しながら、木彫の基礎的な技法を学ぶ、また、木の素材的な魅力を味わう事を目標とします。 最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。		
授業の到達目標	木彫作品の制作を通して、木彫の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。 ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。		
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、授業理解度は7割以上を求めます。
テキスト	特に無し。		
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等		
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。		
位置付け・水準	CD2172		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No.1工芸室		
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	木彫基礎の授業について	・木彫基礎の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習		0
2	しおり制作－1	◆木彫について学習する 木彫の初めての学習として、しおりをつくることで、木彫の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、木彫の基礎的な技法（木の材質の特徴、魅力や造形方法）の習得を目指す。 《課題についての説明とアイディアスケッチ》 ・しおりをつくる目的、意義について ・木についての学習 ・アイディアスケッチを行う	・アイディアスケッチを進めながら構想を練る	120
3	しおり制作－2	《材料選び》 ・アイディアスケッチを基に材料を選択する ・鋸などを使い、材料を加工する	・材料を短冊型に加工する	60
4	しおり制作－3	《しおり作り・1》 ・彫刻刀などを使い、造形する ・道具の扱い等学習する	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
5	しおり制作－4	《しおり作り・2》 ・第4回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
6	しおり制作－5	《しおり作り・3》 ・サンドペーパーなどを使い、木を磨く ・磨くことで感じる材質的な変化や魅力について学習する	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
7	しおり制作－6	《しおり作り・4》 ・着色する ・飾ひなどを付けて仕上げる	・授業内容を振り返りながら作品を完成させる	60
8	自然物をモチーフとした木彫作品制作－1	◆動物や植物などの自然のものをモチーフとして小さな木彫作品を制作する。その際、モチーフの選択など、木彫に適したものであることを考慮し、構想する。 《アイディアデッサン・1》 ・自由に構想を練りながらデッサンする	・自分がつくりたいものを基に取材、デッサンを進める	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	自然物をモチーフとした木彫作品制作－2	《アイディアデッサン・2》 ・自由に構想を練りながらデッサンする ・立体的にデッサンする	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
10	自然物をモチーフとした木彫作品制作－3	《木彫・1》 ・素材を選択する ・素材にデッサンを入れる	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
11	自然物をモチーフとした木彫作品制作－4	《木彫・2》 ・鋸、鑿などを使い、粗どりをを行う	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
12	自然物をモチーフとした木彫作品制作－5	《木彫・3》 ・第11回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
13	自然物をモチーフとした木彫作品制作－6	《木彫・4》 ・彫刻刀、ヤスリなどで総計する	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
14	自然物をモチーフとした木彫作品制作－7	《木彫・5》 ・第13回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
15	合評会	《合評会》 ・作品についてのプレゼンテーションを含めた合評会を行う		0

授業名	版画基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎斉藤 弘久		
開講期			
授業の概要	版画の基本的4版種を実習を通して学んでいく。実際の版に触れ積極的に様々な技法を試し用いて描いて行く。そして試し刷りを繰り返すことによって、イメージした物がどのように完成して行くかを思い浮かべながら作品を仕上げる。手作業やパーソナルコンピュータによる制作も加え授業を展開していく。(CD2162)		
授業の到達目標	版画表現の豊かさを感じ、人間相互のコミュニケーションとしての極めて重要な役割を担っている印刷への理解を深めて行く事を目標としている。		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（20点）
テキスト	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	多種多様な素材と表現方法により未だ経験のしたことのない表現を体験するために、各版種の面白さを実感し、可能な限り版から得るイメージを想像し膨らませ制作してください。日頃から版から受けるイメージを想像し、学んだことを工夫して発見したり活かしたりしながら課題内容の充実を図ってください。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	版画とはどういう物なのか。歴史と人に与える影響などを解説する。	授前、4版種の基礎を自学習 授後、 版画の認識を深める	180
2	木版画の基礎	木版画と言っても表現の幅はいろいろで、簡単な表現から高度な表現を学びます。	授前、木版画の基礎を自学習 授後、 木版画を深める	180
3	銅版画の基礎	銅版画の直接技法と間接技法を学びます。	授前、銅版画の基礎を自学習 授後、 銅版画を深める	180
4	石版画の基礎	石版画は現代の印刷手段であるオフセット印刷の基本であることを学びます。	授前、石版画の基礎を自学習 授後、 石版画を深める	180
5	シルクスクリーンの基礎	古来より用いられて来た技法から、現在使われている特殊な印刷方法を学びます。	授前、版画の歴史を自学習 授 後、版画の歴史を深める	180
6	デジタル版画の基礎	デジタルを、アナログではない版とする版画の意味と表現を学びます。	授前、現代の印刷を自学習 授 後、印刷全般を深める	180
7	版種の併用	学んだ様々な版形式を併用して、単独の版種では得られない効果を学びます。	授前、版形式の再確認 授後、版を選択する	180
8	版画制作	ここまで学んだ版種を基に、作品を制作していきます。表現方法を考えます。	授前、表現方法を考える 授後、イメージを膨らませる	180
9	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの様々な技法に取り組みます。	授前、試作を試みる準備 授後、試作の結果を判断する	180
10	版画制作	技法を身につけるために、失敗を恐れなくて試し刷りをしながら制作してください。	授前、試作を試みる準備 授後、試作の結果を活かす	180
11	版画制作	技法が身に付いて来たところで、自分で考えたイメージを作品にしていきます。	授前、制作準備 授後、 次の制作に活かす判断をする	180
12	版画制作	試し刷りを重ねながら、加えるところ、削るところを調整していきます。紙によっても刷られた表情が違うので、いろいろな紙で刷りを試みてください。	授前、制作準備 授後、 次の制作に活かす判断をする	180
13	版画制作	完成を視野に入れながら版の調整、色の調整などをします。	授前、制作準備 授後、 次の制作に活かす判断をする	180
14	版画制作	作品を完成させる。	授前、制作準備 授後、 完成作品の扱い方を考える	180
15	版画制作	完成した作品の扱い方や、展示方法などを説明しながら教員が講評する。	授前、展示方法などを調べる 授 後、作品を鑑賞する	180

授業名	日本史演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐藤 愛未			
開講期				
授業の概要	江戸時代は徳川氏が江戸幕府を開いた17世紀初頭から、戊辰戦争により新政府が誕生する19世紀半ばまでの約260年間の時代である。幕府と諸藩による長期間の全国統治により、現代社会の仕組みはこの時代に形づくられることになった。現代社会につながる江戸時代および明治時代初期について考えてみる。 江戸時代は、なぜ長期にわたり継続し、そしてなぜ倒れたのか。これを成立期～解体期前後の国内外の情勢から日本史の流れの概略を、各講義内容に関連する史料を読みながら、政治体制や社会構造、経済、外交などを基本的な視点に据えて把握する。あわせて近世・近代における福島県内で起こった出来事についても合わせて学ぶ。 なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
授業の到達目標	過去と現在とを対比し理解を深めること。過去を学ぶことにより、現在・未来の自信を展望すること。を達成目標とします。 単位認定の最低基準は、 ①授業内容の7割を理解していること。 ②資料読解の基礎を7割理解していること。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点	
テキスト	プリントを配布する。			
参考書	佐々木潤之助ほか『概論日本歴史』吉川弘文館、2000年 松尾正人『維新政権』吉川弘文館、1995年 児玉幸多監修 丸井佳寿子ほか『県史7 福島県の歴史』山川出版社、1997年 ほか適宜指示する。			
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。身近にある歴史に関心・興味を抱くこと。			
位置付け・水準	CD2251			
ディプロマポリシーとの関係	課題解決力・主体的行動力			
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目・水曜日Ⅱ時間目。創学館4階、No5研究室			
アクティブラーニング実施内容	ミニットペーパーの提出、史料読解			
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス及び資料の読み方について	この授業では、実際に史料（くずし字の文書史料を含む）を読み、これまでに学んできた日本史をさらに深く学ぶことを目的としているため、導入として史料の読み方や、それに伴う必要な知識（度量衡など）について説明する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	関ヶ原の戦いと徳川三代と江戸幕府の成立	関ヶ原の戦いについて史料を基に紹介する。また、その戦いで勝利した家康は慶長8（1601）年に征夷大将軍に就任し、江戸幕府を開き、江戸を建設させた。その後、秀忠・家光の時代を経て、政治や社会の仕組みが確立する。近世の政治や社会の仕組みが確立するまでを、織豊期から江戸幕府開設に至るまでの時代背景との関連で考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	「鎖国」への道と四口	日本におけるキリスト教禁教のため、幕府は「鎖国」への道を進むこととなった。一方で、幕府の管理・独占のもと長崎・対馬・薩摩・松前でオランダやアジアとの交易が行われることとなった。この場をまとめて四口と呼ぶ。「鎖国」と四口について検証し、江戸時代の海外交流について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	交通網の整備と商業発展	江戸時代は、人々や物（商品）の往来が盛んになり商業経済が発展した時代でもある。その1つの要因として、街道と宿場町の整備、海運・舟運の整備の陸上・海上における交通網の整備行われたためである。これらの整備がふくしまにおいてもどのように実施され、商業発展に影響したのかを論じてみたい。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	江戸幕府の政治構造と藩の設立	江戸時代は将軍以下の武士階級がその社会を掌握・支配するために、幕府・藩として構築された幕藩体制が確立した。そのため、全国各地には藩が成立し、多岐にわたる格式序列が形成された。幕府と藩、将軍と大名など江戸幕府の構造について論じる。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
6	ふくしまの藩と城下町	本県下には、会津・中通り・浜通りに大中小の諸藩が置かれた。各藩の成り立ちを大名配置および城下町の形成との関連から検証し、その特色について学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	近世の村社会	江戸時代、人口の大部分を占め、幕府や大名の経済基礎である米年貢を負担する農民は生産と生活のために相応しいように村をかえていった。村組織・申し合わせや掟、村の共同整備などについても村々で整えられた。村のあり方は社会の変容と共に少しずつ変化し、農民の自立を可能にした背景について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	寛政改革と地域諸産業の発展	宝暦・天明期には、飢饉や災害などによって政治的・社会的危機が引き起こされた。そこで、松平定信が寛政改革を遂行し、幕府が直面していたさまざまな課題や問題の解決に尽力した。また、諸藩でも、財政窮乏対策のため商品生産や特産物生産の奨励などを行い藩政を立て直した。諸藩の政策と産業発展について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	天保改革と飢饉～諸藩の改革～	天保期、江戸幕府は内憂外患の本格的な危機の時代をむかえ、その対応策として天保改革を断行した。多くの諸藩も幕府同様に危機に直面し、藩政改革を行う。それらの改革を紹介し、寛政期の藩政改革との相違、および天保期の藩政改革がその後の社会にどのように影響したのかを考察する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	朝幕関係と尊号事件	寛政元（1789）年の尊号事件により朝廷と幕府の間に江戸時代初期以来の緊張が走った。江戸時代の朝廷と幕府の関係について、寛永4（1627）年に起こった紫衣事件と尊号事件が前後について学び、その後の国内情勢への影響について考察する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	異国船の来航と沿岸防備	江戸時代後期以降、ラクスマン来日で現実化した対外的危機に直面し、対応策が幕府の重要課題になった。幕府が実施した沿岸防備にも多くの諸藩が動員された。本県下の会津藩・白河藩なども命じられた。沿岸防備の実態について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	開港の影響と動揺	安政5（1858）年幕府は米蘭露英仏の5ヶ国と修好通商条約を締結した。それによって、日本は資本主義的世界市場のなかに強制的に組み込まれることとなり、政治・経済などに大きな混乱と影響がおよんだ。開港による社会にもたらした影響と揺らぐ幕藩体制について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	戊辰戦争と明治維新	慶応4（1868）年1月から始まった戊辰戦争によって、それまで長期にわたって続いた江戸幕府が倒れ、明治政府（維新政府）が誕生した。明治政府の基本方針や実施した政策などについて紹介し、藩体制の解体がどのように進められたのかを検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	お雇い外国人と文明開化	明治政府は、「殖産興業」や文明開化などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人（お雇い外国人）を官庁や学校に招聘した。交通・工業技術・軍備・教育面で活躍し、日本の近代化に大きく貢献した。お雇い外国人と文明開化の関係について紹介する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	廃藩置県と福島県設立について	明治4（1871）年に全国の藩を廃止して府県に統一する、廃藩置県により藩体制が解体された。全国には府県が成立し、本県にも県が置かれ、現在の福島県になるまでには、いくつかの県の統合が行われた。現在の福島県が出来るまでの過程を探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

授業名	ヨーロッパ史演習		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎桑野 聡			
開講期	IV			
授業の概要	1年次のヨーロッパ文化史では、ヨーロッパの形成から近代化の歴史を駆け足で学んだ。この時間では、その後に日本文化史や考古学、美術史、宗教学などを学ぶと共に、学芸員ユニット・図書館司書ユニット、情報処理士ユニットおよびアート系諸科目を広く学んだ学生が、歴史の知識を生活の中で活用していくためのアカデミック・トレーニングを行うと共に、卒業研究に取り組む学生には、論文執筆のサポートとなる歴史的思考力の育成に努める。			
授業の到達目標	授業で取り上げられる話題に関心をもって取り組み、現代社会との相違点を発見すると共に、その意味や役割を考える力を育成する。			
履修条件	ヨーロッパ文化史履修学生	成績の 評価方法・基準	毎回のワークないしリアクションペーパー（90％）・授業時の質疑応答（10％）	
テキスト	指定しない			
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説 1 古代・中世篇』DTP出版 2006年 桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説 2 近現代篇』 DTP出版 2006年 堀越宏一・甚野尚志 編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』ミネルヴァ書房 2013年、など必要に応じて提示する			
学生への要望	基本用語を『世界史B用語集』や高校の教科書、資料集などを用いて自主的に調べる姿勢も期待したい。 新聞やニュースの国際情報にアンテナを張って欲しい。			
位置付け・水準	CD2252			
ディプロマポリシーとの関係	課題解決力・主体的行動力			
オフィスタイム	水曜日のⅠ時限目（9:00～10:30）・金曜Ⅴ時限目(16:10～17:40) 考古学研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業時間内でのディスカッション等			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方を解説し、次回からのウォーミングアップを行う。	授業の目的と仕組みを理解する。原作の歴史小説を手にとってみる。	30
2	映画の歴史	写真から映画の歴史を解説する。	視覚資料として映画を考えてみる。	60
3	眠れる森の美女①	眠れる森の美女（いばら姫）について解説します。	メルヘンが歴史学の対象となることを理解しましょう。	60
4	眠れる森の美女②	映画「眠れる森の美女」（ドイツ）を視聴します。	ストーリーだけでなく、視覚資料として見てみよう。	60
5	眠れる森の美女③	作品の中に潜む史実や文化の痕跡を解説する。	受け身ではなく、自分自身でも確認してみよう。	60
6	眠れる森の美女④	同上	同上	60
7	バラの名前①	14世紀のヨーロッパ社会について解説する。	「ヨーロッパ文化史」の講義を振り返ろう。	60
8	バラの名前②	映画「バラの名前」（前編）を視聴します。	「12世紀ルネサンス」と「封建制の危機」をキーワードに理解しよう。	60
9	バラの名前③	映画「バラの名前」（後編）を視聴し、解説する。	同上	60
10	バラの名前④	二つのルネサンスの狭間について解説する。	中世の「知」について考えてみよう。	60
11	80日間世界一周①	19世紀のイギリスについて解説する。	「ヨーロッパ文化史」の講義を振り返ろう。	60
12	80日間世界一周②	英語「80日間世界一周」（前編）視聴。	世界地図と歴史地図を確認しよう。	60
13	80日間世界一周③	英語「80日間世界一周」（後編）視聴。	同上	60
14	80日間世界一周④	「パクス・ブリタニア」の時代について解説する。	「パクス・アメリカナ」が動揺する現代と比較してみよう。	60
15	まとめ	半期の授業を振り返って、視覚資料と歴史学習について考えてみよう！	積極的に議論に参加する姿勢を持ちましょう。	60

授業名	美術史演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎斎藤 美保子		
開講期	Ⅳ期		
授業の概要	今期のテーマ：女性像の鑑賞と意味 1年生の「美術史」の知識を元に、古今東西の女性像鑑賞し、そこに表現されている意味を読み取る。 仏画および日本画の女性像、ギリシア神話の女性彫刻、キリスト教美術の聖母マリア、寓意画、肖像画等が対象となる。授業中の課題は提出後1か月以内に評価を記して返却する。		
授業の到達目標	多様な女性像の意味を、制作年代の時代背景や地域性、思想宗教等から読み取れるようになる。 女性像の意味を的確な言葉で表現できるようになる。 単位認定の最低基準：寓意的な女性像をスケッチやCGを用いて、自ら提案する。		
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	①授業中のテキスト読解と意見交換（30点）②寓意像の簡単な作画（20点）③記述式の期末試験（50点）
テキスト	斎藤美保子著「アングルとドラクロワのカヴェ夫人像」「上村松園作品展を読み解く」の抜刷を配布する。 その他、授業内でコピー資料を配付する。		
参考書	神林恒道編著『西洋美術 1 0 1』三元社、2008年		
学生への要望	美術館や美術書に親しみ、女性像に関する多くの知識を得ること。 スケッチブックに気軽に線を描くように、心がける。		
位置付け・水準	地域創成学探求 CD2254		
ディプロマポリシーとの関係	課題解決力、主体的行動力		
オフィスタイム	火曜日16：10-17：05 金曜日10：30-11：30		
アクティブラーニング実施内容	第13回第14回で寓意画を実作し、第15回で合評する。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	「美術史」の知識を確認し、授業の進め方を理解する。	参考文献を準備する。	90
2	神道および古代の女性像	神道の美術では女神像を表すことが稀であること、高貴な女性は<源氏物語絵巻>の様に引き目鉤鼻で描かれることを理解する。	開成山大神宮に参詣し、天照大神の表し方を確認する。	90
3	上村松園等の女流作家の女性像	上村松園についての資料を読み、図版等で鑑賞理解する。 松園の後輩の小倉遊亀、荘司福と共に、同時代のパリ派のマリー・ローランサンの女性像を比較検討する。	学内の美術品をを鑑賞する。	90
4	ギリシア神話の女性彫刻	パルテノン神殿東破風について幾つかの解釈を比較する。	配付資料を読み込む。	90
5	ギリシア神話の女性彫刻 つづき	サモトラケのニケについて、鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。	90
6	キリスト教美術の聖母マリア像	マリアの生涯を名作でたどる。	美術書を渉猟する。	90
7	キリスト教美術の図像学	キリスト教絵画の寓意を読み取る。	美術書を渉猟する。	90
8	寓意画における女性像	『図像学事典』から17世紀の図像学を理解する。	真理、正義等の寓意像を探す。	90
9	寓意画における女性像 つづき	フランス革命期の図像学を理解する。	自由、平等、友愛の寓意像を探す。	90
10	肖像画における女性像	アングルの女性肖像画を鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。	90
11	肖像画における女性像 つづき	アングルとドラクロワの女性肖像画の違いから、古典主義とロマン主義を理解する。	配付資料を読み込む。	90
12	花の女神フローラの変遷	古代から近代までの、同一主題の絵画を比較検討する。	配布資料を読み込む。	90
13	寓意像の作画	正義、平和の寓意像のアイディアを出す。	アイディアスケッチの数を増やす。	90
14	寓意像の作画 つづき	「寓意像になった私」を描く。	作品を完成させる。	90
15	作品の合評 まとめ	作品を持ち寄り、感想を述べ合う。美術における意味について考える。 試験の準備指示。	合評のマナーを身につける。試験の準備をする。	180

授業名	宗教文化史演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎福島 寅太郎			
開講期				
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①必要な文化知識を習得させること。 ②幅広い専門知識を養わせること。 ③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。 〔授業全体の内容の概要〕 この授業は、末木文美士氏の『日本宗教史』（岩波新書）を教科書として使い、毎回輪読をし、日本宗教の歴史と文化を学ぶ。新書版だから、読みやすいというイメージがあるが、実際に読んでみると読めない言葉、わからない用語が多々ある。一字一句を声を出して読むという読書の経験が少なく なってきた今日では、一冊の本を時間をかけてじっくり読むという姿勢が珍しいと思われるかも知れないが、必要なことであり、学ぶという本来あるべき姿勢だと考える。なお、後期の概要については改めてお知らせする。 〔授業終了時の到達目標〕 ①文化としての宗教を理解する。 ②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。 ③紹介された諸事例について学問的な理解をする。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。 位置づけ・水準:CD2255			
授業の到達目標	〔授業終了時の到達目標〕 ①文化としての宗教を理解する。 ②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。 ③紹介された諸事例について学問的な理解をする。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係:課題解決力、主体的行動力			
履修条件	短大地域創成学科 2年	成績の 評価方法・基準	試験成績60点、授業における発表20％、授業における参加態度20％など。理解度 8割で、合とする。	
テキスト	特に指定していないが、途中から必要に応じて指定する場合がある。その場合は事前に詳細を知らせる。			
参考書	末木文美士『日本宗教史』、岩波新書。担当教員個人が持っているが、授業でよく参考にするので、できればそれぞれが一冊を購入することをおすすめする。			
学生への要望	・ 授業に積極的に参加すること。 ・ ノートをこまめにとること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	各回の内容や計画、成績評価の方法などについて説明するほか、教科書のことや参考文献購入のことについても話す予定ですので、必ず出席してください。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
2	日本宗教史とはなにか	これまで日本史の立場に日本宗教史の研究が多かったが、宗教学独自の視点によるものはあまりないようである。宗教学独自の「日本宗教史」は可能か。これまでの議論を踏まえつつ考えてみる。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
3	記紀神話の世界	古事記や日本書紀に伝えられている神々の構造を分析し、記紀時代の神話はいったい何を意味するのかを考える。丸山真男の「古層」の問題も話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
4	神と仏	仏教の伝来と神々の変容、神仏習合の諸相などについて、指定された教科書を一緒に読みながら、理解する。神話から歴史への移行に見られる宗教の役割を考えることも課題として予定されている。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
5	神仏論の展開	これまでの話を踏まえ、中世の神仏論の展開を考えてみる。具体的には、実践しそうとしての仏教思想、王法と仏法との関係を取り上げて話題にする。『日本霊異記』を参考しながら授業を進める予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
6	神仏と中世（1）	習合神道の理論や中世的の思维と神仏の関係を具体的に引き上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	神仏と中世（2）	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的に引き上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
8	世俗と宗教（1）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを引き上げて話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
9	世俗と宗教（2）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを引き上げて話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
10	神道とナショナリズム（1）	近世の神道の展開などを話題にしなが、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
11	神道とナショナリズム（2）	近世の神道の展開などを話題にしなが、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
12	近代化と宗教（1）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に引き上げてみることにしたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
13	近代化と宗教（2）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に引き上げてみることにしたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
14	民衆宗教の形成	前半は新宗教の誕生、戦後宗教の消長を概観する。後半は「宗教」という概念の生成の背景に注目しつつ、宗教とはなにか、宗教史とは果たして可能かを総括的に考えてみる予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
15	前期のまとめ	レポートを書いて提出する。		1.5
16	後期のガイダンス	絵画に見る「天神さま」について		1.5
17	天神信仰における東福寺の位置づけについて	東福寺における天神信仰の伝承を探る	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
18	天神像の変容について	怨霊信仰から学問の神様への「変身」についての歴史的な過程をたどる	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
19	怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
20	天神信仰と陰陽道について	陰陽道の動向を視野に入れつつ、天神信仰の展開をさらに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
21	梅と天神信仰	菅原道真像を手がかりに梅と天神の変容のあり方を探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
22	北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
23	学問の神様としての菅原道真像の形成	学問の神様としての菅原道真像の形成とその確立について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
24	天神信仰の広がりについて	天神信仰の地方への広がりについて具体的な事例を上げて述べる。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
25	東北地方における天神信仰	東北六県における天神信仰の実体を写真などを通じて探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
26	会津地方における天神信仰の特徴	学問の神様へと変容された会津地方の天神信仰の実体とその特徴について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
27	庶民信仰としての天神信仰	地域の人々が天神信仰とどのように関わっているかを市町村の関連資料を基に探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
28	天神信仰の現在―地方神社における合格祈願を手がかりに―	神社と天神信仰の関係について、会津地方の事例を手がかりに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
29	まとめ～その①天神信仰の宗教性と歴史的 성격	まとめに当たって、天神信仰の宗教性と歴史的、地方的特徴について考える。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
30	まとめ～其の②天神信仰の宗教性と歴史的性	前回と同じ。期末試験については、レポートを提出すること。詳しいことは授業で指示する。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5

授業名	考古学実習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎會田 容弘 青木 要祐		
開講期			
授業の概要	史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実習を行う。5月に実施する実習発掘調査に向けて、様々な発掘調査の方法、実際について講義と実習を行ないながら学んでゆく。本年は5月18日から5月28日まで笹山原遺跡No. 16の実習発掘を実施する。受講者は発掘調査に参加しなくてはならない。発掘調査終了後は、発掘調査で出土した遺物の整理を行う。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CD2253		
授業の到達目標	<到達目標>発掘調査の全過程を理解し、実際の発掘調査を行う場合、作業、資料整理の流れを理解できるレベルに到達できること。発掘調査・報告書製作補助ができること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること		
履修条件	1年次において考古学を履修しているか、考古学の基本知識を有していること。	成績の 評価方法・基準	レポート及び実習課題と授業への積極的な貢献状況を100点を満点として評価する。60点以上で合格とするが卒業論文を考古学で作成する学生は80%以上の理解が必要である。
テキスト	文化庁文化財保護部記念物課監修『発掘調査のてびき』		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～21集,地域創成学科報告集第1～5集		
学生への要望	考古学実習を受講する学生は5月から6月に実施する笹山原遺跡No. 16の発掘調査に参加しなくてはなりません。多様な参加方法を提示しますが、何らかの事情で、全期間発掘調査に参加できない学生は會田に相談してください。		
位置付け・水準	考古学の深い専門性につながり、将来文化財調査の専門職を希望する場合、必須の経験となる。		
ディプロマポリシーとの関係	考古学の発展的理解。		
オフィスタイム	水曜日が授業が少なく、考古学実習室にいます。		
アクティブラーニング実施内容	発掘調査実習に参加すること、調査後の資料整理を行うこと、これらの実習は自主性が問われます。積極的に参加するほど、大きな成果が得られます。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	猪苗代湖の自然史	笹山原遺跡群の位置する猪苗代湖の自然史について、福島大学を中心とした研究成果を紹介する。磐梯山の火山学的研究と湿原のボーリング調査によって得られた植生史から、人類が生活できる環境の変遷を述べる。	過去の発掘調査の理解。	30
2	笹山原遺跡群の調査史	郡山女子大学短期大学部考古学研究室によって実施された、笹山原A遺跡、No. 8遺跡、No.16遺跡の発掘調査の調査成果を紹介する。	過去の発掘調査の理解。	30
3	発掘調査の方法	遺跡発掘調査方法について笹山原遺跡No.16の調査を示しながら講義を行う。	過去の発掘調査の理解。	30
4	発掘調査の実際（1）	発掘調査で用いる機材の名称、使い方について講義を行い、それを用いた実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。	30
5	発掘調査の実際（2）	発掘調査における記録方法を説明する。出土位置の記録方法、レベルの使い方、平面図の描き方、層序断面図の描き方を説明する。発掘現場で用いる野帳の使い方、毎日記録する調査日誌の書き方を説明する。	過去の発掘調査の理解。	30
6	発掘調査の実際（3）	教室内に発掘調査区を模擬的に作り、遺物の出土記録の取り方の実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。	30
7	発掘調査実習（1）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ a 層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	30
8	発掘調査実習（2）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ a 層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	30
9	発掘調査実習（3）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ a 層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	30
10	発掘調査実習（4）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ b 層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
11	発掘調査実習（5）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ b 層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
12	発掘調査実習（6）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱ b 層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
13	発掘調査実習（7）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
14	発掘調査実習（8）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
15	発掘調査実習（9）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	発掘調査実習（１０）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
17	発掘調査実習（１１）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。	30
18	発掘調査実習（１２）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。	30
19	発掘調査のまとめ	発掘調査経過、調査内容、最終的な調査成果について説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
20	資料整理実習（１）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
21	資料整理実習（２）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
22	資料整理実習（３）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
23	資料整理実習（４）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
24	資料整理実習（５）	縄文土器整理法。縄文土器の製作技術、型式、機能について観察方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
25	資料整理実習（６）	縄文土器の記録方法としての拓本、実測について説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
26	資料整理実習（７）	石器の実測法。石器製作技術の説明を行い、石器実測図の描き方を説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
27	資料整理実習（８）	石器実測実習。石器の実測図を描く実習を行なう。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
28	資料整理実習（９）	石器・縄文土器の写真撮影方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
29	資料整理実習（１０）	報告書作成のための図版作成方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
30	発掘調査・整理の成果	考古学実習の総まとめを行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30

授業名	地域歴史遺産論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎會田 容弘		
開講期			
授業の概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館建設・経営を担ってきた。また並行して埋蔵文化財保護行政の一環として里浜貝塚の国史跡指定その後の整備、管理運営の実務経験もあり、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、現実社会に応用できる実践的な文化財学として地域歴史遺産について講義を行う。歴史遺産とは有形無形の地域の財産を指す。地域の人々が長い年月の間守り続けてきた、あるいは継承し続けてきた地域共有の財産である。よって、歴史遺産とは広義の文化財である。文化財の範囲を文化財保護法にもとめ、具体的な地域の歴史遺産である文化財がどのようなもので、それらがどのようなもので、活用されているのかを実例をあげながら論じてゆく。さらに近年文化財を含む文化資源を「文化観光」に活用することが文化庁を中心に行われている。それらの動向を把握し、地域の活性化の手がかりとしたい。課題は「めばえ」を通じて発表し、学生は期限までに提出する。それを添削し、コメントを加えフィードバックを行う。 位置付け・水準CD2153		
授業の到達目標	地域の歴史資産に対する理解を深め、行政における文化財保護の実際を十分理解し、公的職業人としても、地域住民としても歴史遺産を守り、活用できる社会人としての基礎知識を獲得する。		
履修条件	地域創成学科学学生	成績の 評価方法・基準	試験結果と授業への積極的な参加度を評価し、100点を満点とする。 60点以上を合格とする。学芸員補資格を目指す学生は、講義内容の8割以上の理解が望ましい。
テキスト	文化財保護法、博物館法（令和5年4月施行）、文化芸術基本法、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律、福島県文化財保存活用大綱		
参考書	授業の中で紹介する。		
学生への要望	予習復習を行うこと。シラバスを参考にして、事前学習を行うこと講義で用いたパワーポイントは講義後、公開するので、復習で授業内容を確認すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	歴史遺産とは何か	歴史遺産にはさまざまなものがある。地域と密接に結びつく歴史遺産は地域の歴史そのものである。地域に残る歴史資料とはどのようなものか、受講生が意識する地域の歴史資料から、文化財として保護すべき要件は何かを整理する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
2	文化財保護法について	日本における文化財保護の考え方が歴史的にどのようなものであったのかからはじめ、文化財保護法成立までの前史と法隆寺火災を期に作られた文化財保護法の理念と改正の過程を示す。そして、改正文化財保護法のねらいと改正博物館法の目指す歴史遺産の保護、活用法について解説する。	授業で取り上げた文化財保護法を指定HPからダウンロードし、熟読すること。	30
3	有形文化財・無形文化財	建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で我が国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの（これらのものと一体をなしてその価値を形成している土地その他の物件を含む。）並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料をさし、福島県内の有形文化財について学習する。 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産で我が国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いものをさし、福島県内における国指定無形文化財について学ぶ。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
4	民俗文化財・記念物	衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で我が国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないものをさし、福島県内における国指定民俗文化財について学ぶ。貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとつて歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとつて芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとつて学術上価値の高いものをさし、福島県内の記念物について学ぶ。	授業内容を整理する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	文化的景観・伝統的建造物群	地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないものをさし、福島県内の文化的景観について学ぶ。周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いものである福島県内の喜多方市小田付、下郷町大内宿、南会津町前澤についてその活用法を検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
6	博物館法	令和5年4月から施行される改正博物館法について、改正点を理解する。博物館法が社会教育法に加え、文化芸術基本法に基づく法律になったことを理解する。そこで、特に文化観光の中核施設として位置付けられたことから、博物館の担う地域歴史遺産の活用についてその可能性を検討する。	授業で取り上げた博物館法・文化芸術基本法を指定HPからダウンロードし、熟読すること。	30
7	文化観光の推進について	地域が守り育んできた歴史遺産を「文化観光」資源として活用することが求められている。そのもとになる法律を理解する。そこから何をめざそうとするのか、地域はどれをどのように受け止め、活性化につなげるのかを考える。	授業で取り上げた「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」をHPからダウンロードし、熟読すること。	30
8	福島県文化財保存活用大綱	文化財保護法の改正に伴い策定された「福島県文化財保存活用大綱」に基づき、福島県の目指す文化財保護の方針を理解し、地域歴史遺産の保護と活用の針路を探る。	授業で取り上げた「福島県文化財保存活用大綱」を福島県HPからダウンロードし、熟読する。	30
9	文化財の保護 1	有形文化財のうち重要なものは重要文化財に指定することができる。重要文化財に指定されたものの管理と保存、活用、公開の方法について福島県内の実例を用いて検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
10	文化財の保護 2	重要文化財以外の有形文化財のうち、その文化財としての価値に鑑み保存及び活用のための措置が特に必要とされるものを文化財登録原簿に登録することができる。福島県内の実例を用いて検討する。	授業内容を整理する。	30
11	文化財の保護 3	記念物のうち重要なものを史跡、名勝又は天然記念物（以下「史跡名勝天然記念物」と総称する。）に指定することができる。史跡名勝天然記念物の管理と保存、活用、公開の方法について福島県内の実例を用いて検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
12	遺跡の保存活用の実例 1	福島県文化財保存活用大綱をテキストとして、福島県が進める豊かな歴史と文化に育まれた特色ある文化財について、保存と活用に係る本県の基本的方向性を明らかにし、県内市町村が各種の取組を進めて行く上で、共通の基盤とするために策定した大綱を学び、文化財保存活用の方向性を学ぶ。	授業内容を整理する。	30
13	遺跡の保存活用の実例 2	史跡浜貝塚の史跡指定から活用の事例。「奥松島縄文村構想」の計画から実施過程、そして完成まで。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
14	遺跡の保存活用の実例 3	山田上ノ台遺跡の保存活用の実例。「縄文の森広場」の構想と計画、そして運営実績。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
15	全体総括	身の丈にあわせた歴史遺産の活用に向けてこれから地域創成の核となる地域歴史遺産を発掘し、保存活用して行く方向性を考える。	授業内容を整理する。	30

授業名	地域社会と食生活Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎加藤 雅子			
開講期				
授業の概要	〔授業概要〕 私たちの食生活は、通常摂取する食事である「日常食」と、地域や家庭にとって特別な習慣や行事のために準備する「行事食」とに分類することができる。さらに行事食には「年中行事」や「通過儀礼」といった豊作への祈願や人生の節目を祝う行事など多種に亘る。これらの行事には食物との深い関連性があることを学び理解を深めることを目的とする。 〔課題に対するフィードバック方法〕 レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。			
授業の到達目標	①「日常食」と「行事食」について理解する。 ②地域社会における行事食について理解を深める。 ③実習を通じて食文化や食生活に関心を高める。 ④プレゼンテーション発表会を実施する。 単位の認定の最低基準は、内容の6割を理解していること。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	課題の取組み60％、プレゼンテーション発表内容40％の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とする。	
テキスト	特になし。授業内容について資料を配布する。			
参考書	必要に応じて連絡する。			
学生への要望	グループ内での学習が主となるため、無断で欠席しないこと。調理実習時は注意事項をよく守り、衛生的な配慮と安全に心がけること。			
位置付け・水準	CD2182			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
オフィスタイム	月曜日12:15-12:45、水曜日12:15-12:45、No.1 給食管理研究室（家政学館1F）			
アクティブラーニング実施内容	プレゼンテーション発表			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	地域社会と食生活ガイダンス	地域社会と食生活の授業目的について理解を深めるとともに、今後のスケジュール確認等を行う。	配布資料に「日常の食生活」を記入する。	30
2	日常における食生活について①	食生活における栄養バランスの良い食事について理解する。「献立マスターシール」を利用して自分の食生活を振り返り、栄養バランスを視覚的に確認する。	「献立作成マスターシール」の使い方について復習する。	30
3	日常における食生活について②	前回に続き、「献立マスターシール」を作成する。	「献立作成マスターシール」の使い方について復習する。	30
4	日常における食生活について③	完成した「献立マスターシール」を見て、普段の食事バランス、改善方法、今後の食生活において注意して取り組みたいこと等を確認する。感想をまとめて提出する。	「献立マスターシール」の感想をまとめる。	30
5	家族の食生活について①ー子どもの栄養ー	女性にとって、家族の食生活や健康管理に携わる機会は少なくない。子育てから介護と、ライフステージにおける食生活の注意点について理解する。本時は特に子どもの栄養について理解する。	配布資料にをもとに「子どもの栄養」を振り返り、調理実習の確認を行う。	30
6	家族の食生活について②ー介護食についてー	女性にとって、家族の食生活や健康管理に携わる機会は少なくない。子育てから介護と、ライフステージにおける食生活の注意点について理解する。本時は特に介護食について理解する。	配布資料をもとに「介護食」を振り返る。	30
7	家族の食生活について③	子どものおやつ調理実習と試食を行い、理解する。	調理実習の振り返りを行う。	30
8	家庭における行事食について、地域における行事食について	家庭において人生の節目を祝う「通過儀礼」など、特別な習慣や行事のために用いる行事食について理解し、家庭における行事食を振り返る。また、地域において、天地の恩恵に感謝し豊作を祈願する「年中行事」について調査するとともに、その際に振る舞われる行事食についても知る。	各自、家庭で行っている「行事食」について振り返る。「年中行事」について振り返る。	30
9	福島県内における行事と行事食について①	グループワーク：福島県内（会津地方、中通り地方、浜通り地方）における行事について取り上げ、食材と行事食について理解する。	発表準備を進める。	30
10	福島県内における行事と行事食について②	グループワーク：福島県内（会津地方、中通り地方、浜通り地方）における行事について取り上げ、食材と行事食について理解し、発表準備を行う。	発表準備を進める。	30
11	福島県内における行事と行事食について③	行事食に関わる調理実習と試食を行い、理解を深める。	調理実習の振り返りを行う。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	福島県内における行事と行事食について④	福島県内（会津地方、中通り地方、浜通り地方）における行事についてグループごとに発表を行い、県内の行事食について理解する。	福島県内の行事食を振り返る。	30
13	郡山市の行事食について、新しい行事食について①	郡山市における行事と、行事食について知り、地元の取り組みについても理解する。 これまで県内における行事食について理解を深めてきた。地域創成学科の学生として、今後新しい行事食として、県内をPRできるような献立について検討する。	郡山市と地元（出身地）の特徴を振り返る。また、新しい行事食を検討する。	30
14	新しい行事食について②	グループワーク:新しい行事食のアイデアを考え、他へ発信できるよう資料を作成する。	新しい行事食について、振り返る。	30
15	授業の確認とまとめ	これまでの授業をを通して学んだ内容について振り返る。	これまでに学んだ内容をまとめる。	30

授業名	地域社会と食生活Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎柳沼 和子		
開講期			
授業の概要	〔授業概要〕 私たちの食生活は、通常摂取する食事である「日常食」と、地域や家庭にとって特別な習慣や行事のために準備する「行事食」とに分類することができる。特に行事食では、「年中行事」や「通過儀礼」といった豊作への祈願や人生の節目を祝う行事など多種に亘る。今期では、これらの行事と日本の食物には深い関連性があることを学び理解を深める。さらに、県や市町村における食育推進計画を通じて、地元の食文化や食生活に関心を高めることを目的とする。 〔課題に対するフィードバック方法〕 レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。		
授業の到達目標	〔達成目標〕 ①地域社会における行事食について理解を深める。 ②地元の食文化や食生活に関心を高める。 ③プレゼンテーション発表会を実施する。 単位の認定の最低基準は、内容の6割を理解していること。		
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	確認テスト50点、課題への取組み30点、プレゼンテーションへの取組み20点の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とする。
テキスト	特になし。授業内容について資料を配布する。		
参考書	必要に応じて連絡する。		
学生への要望	講義・課題に対して意欲的に取り組み、グループでは積極的にディスカッションすること。調理実習時は注意事項をよく守り、衛生・安全に心がけること。		
位置付け・水準	CD2282		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力		
オフィスタイム	家政学館2階 NO.2給食管理研究室 金曜日3・4限目		
アクティブラーニング実施内容	調理実習		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーションおよび「日本の四季」について	シラバスをもとに授業概要や達成目標を確認し、課題を提示する。オリエンテーション後、日本の四季について二十四節気を通し、理解を深める。	配布資料をもとに、Ⅳ期の授業内容について理解を深める。	30
2	「米」について	稲作の伝播や年中行事について理解を深め、神事と関わりの深い日本の稲作文化について考える。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
3	「年中行事」について	年中行事と行事食について学び、特に五節句について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
4	「通過儀礼」について	通過儀礼と食事について学び、日本の米・餅文化について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。	30
5	「郷土料理」について①	郷土料理の特徴として、食材・地理・気候・歴史等が関係することを学ぶ。また、福島県の産業や特産物を学び、郷土料理について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
6	「郷土料理」について②	郷土料理の特徴として、食材・地理・気候・歴史等が関係することを学ぶ。また、福島県の産業や特産物を学び、郷土料理について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
7	「食育」について①	食育基本法の理念を学び、福島県が推進する「福島県食育推進計画」について学ぶ。 【個人課題】「自身の考える「地域の食育」について」	配布資料をもとに、地域の食育と出身地の食育推進計画について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
8	「食育」について②	各地の食育の事例をもとに、地域社会と食生活について考える。	配布資料をもとに、地域の食育と出身地の食育推進計画について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
9	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備①	グループワーク：グループワークの手法を学び、学生が地域に関わり、地元の食を継承していくためのディスカッションをする。 【グループ課題】「地域社会の食の伝承」の方法	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
10	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備②	グループワーク：料理の由来や作り方を学び、PRに関する課題点と、今後の伝承・発信方法等を考え、発表用のパワーポイント作成を行う。 【個人課題】「自身の考える「地域の食育」について」を提出	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	「正月料理」について	正月にまつわる行事や、「おせち」のいわれについて学ぶ。	実習前に、調理手順について理解する。	30
12	調理実習「正月料理」	前回の授業をふまえ、実際の調理を通して「正月料理」について学ぶ。	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
13	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備③	グループワーク：料理の由来や作り方を調査し、PRに関する課題点と、今後の伝承・発信方法等を考え、発表用のパワーポイント作成を行う。 授業の復習として、確認テストを行う。	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
14	授業のまとめ プレゼンテーション	グループごとに発表し、他グループとディスカッションする。 【グループ課題】「地域社会の食の伝承」の方法を提出	Ⅳ期の内容をまとめる。	30
15	授業のまとめ プレゼンテーション	グループごとに発表し、他グループとディスカッションする。 返却：Ⅳ期の提出物、確認テストの解説	Ⅳ期の内容をまとめる。	30

授業名	地域服飾文化論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎田辺 真弓		
開講期			
授業の概要	本演習は地域創成学科の選択科目として地域社会と衣生活の関わりについて学ぶ。授業概要をつぎに掲げる。 ①日本の伝統的な無駄のない衣生活と現在求められている持続可能な社会について学ぶ。 ②衣生活に関連する福島県内の産業について、古くから継承されてきたもの、その現在の状況、今後の展望について学ぶ。 ③福島県内のアパレルファッションビジネスについて学ぶ。 ④福島県内の農村を例とする伝統的な服飾文化、ならびに会津の地歌舞伎とその衣裳について学ぶ。 ⑤この授業で学んだ内容で特に関心を持った事柄の中からテーマを決めて各自で調査してまとめ、プレゼンテーションを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。		
授業の到達目標	目標は ①身近な生活圏の服飾・衣生活文化を理解し、地域社会に貢献できる力を身につけていること。 ②柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけていること。 ③現代の衣生活における多様な課題を発見し、分析・解決する能力を身につけていること。 ④衣生活文化に関する専門的知識を基に論理的に課題を探索し、他者と協調しつつ、主体的に問題を解決していく能力を身につけていること。 単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。		
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題レポート、パワーポイント、プレゼンテーションにより確認と評価を行う。 ①課題レポート提出 20点 ②パワーポイントデータ提出 40点 ③プレゼンテーション 40点 60点を合格点とする。
テキスト	教科書は用いず、プリントを配付する。		
参考書	福島県内自治体史、『衣服の百科事典』丸善出版株式会社・平成27年、一般社団法人日本家政学会編『被服学事典』平成28年、その他は授業で紹介する。		
学生への要望	地域社会で営まれている衣生活に関心をもち、また、新聞や雑誌の衣生活に関する記事や参考図書などを読み、広く知識を得ること。 事前学習:当日の内容をシラバスで確認しておく。 事後学習:授業内容を振り返り、ノートにまとめる。 11回から15回は学生各自がプレゼンテーションを実施するため、テーマを決めて調査することを念頭に置きながら受講することが望ましい。		
位置付け・水準	位置づけ・水準 CD2183		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係 1) 地域社会貢献力 2) 創造的思考力 3) 課題の発見と解決力		
オフィスタイム	場所 教務部非常勤講師控室 時間 水曜日V時限		
アクティブラーニング実施内容	福島県内の服飾文化についての講義を受けて、学生各自が最も関心を持った事柄について、文献調査、見学、聞き取り等を実施し、それらの内容のまとめと考察を行ってパワーポイントを作成する。これにより能動的学習力、課題解決力、構成力を養う。また、プレゼンテーションを行うことにより表現力を養う。プレゼンテーションに対して質疑応答を実施し、学びを深める。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業計画の提示 日本の伝統的な布を大切に使いきる衣生活	授業の目標ならびに授業内容について説明する。 日本のきものは直線裁ち、直線縫いの平面構成であり、長い間、季節毎にきものをほどこいて縫い直し、布を無駄なく使いきるという衣生活が実践されてきた。この衣生活について、文学作品や図版資料を基に考える。	シラバスの内容をよく読み、自分が関心を持つ内容について、どのように調べていくか考えてみる。 本日の授業内容についてまとめる。	60
2	衣服の廃棄とリサイクル (1)	現在、地球環境を守り、限られた資源を無駄なく活用しようとする意識が高まりつつある。「持続可能な社会」「サステナブル」「SDGs」などのキーワードについて確認するとともに、リサイクルの方法について理解する。また、衣服の大量廃棄が行われている現状と、その原因について学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
3	衣服の廃棄とリサイクル (2)	近年、アパレル産業でも環境問題に配慮した「サステナブルファッション」や、労働問題、社会問題に配慮した「エシカルファッション」等の言葉が使用されるようになってきた。その取り組みについて具体例を学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
4	福島県内の服飾関連産業(1) 昭和村のカラムシ栽培とカラムシ織	かつてカラムシは広く自生し、また栽培されていたが、現在では奥会津の昭和村のみで伝統的な方法を守って栽培されている。昭和村で行われているカラムシ栽培とカラムシ織の取り組みについて学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	福島県内の服飾関連産業(2) 川俣の絹生産と絹織物	江戸時代中期に伊達郡地方の養蚕業は高い技術を持ち、先進地として全国に知れ渡っていたという。明治期になるとこの地方で生産された生糸は輸出され、日本経済を支えた。その後外国産の安価な絹に押されて衰退したが、現在は技術革新によって優れた絹製品を作り出し、世界的に認められるようになってきている。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。 これまでの授業内容に関連して、最も関心を持った事柄について調べる。	60
6	福島県内の服飾関連産業(3) 会津木綿と新たな木綿産業	会津地方では16世紀末から木綿栽培が始まり、会津藩の綿花栽培・織物奨励により、会津木綿は特産品のひとつとして発展した。現在は民芸織物として生産されている。また、東日本大震災後の復興を目的として始められた木綿産業についても紹介する。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。 これまでの授業内容に関連して、最も関心を持った事柄について調べる。	60
7	福島県内の服飾関連産業(4) ニット・縫製業	福島県は縫製業が盛んな県として知られている。県内各地で多くの縫製工場が稼働している。大手アパレルメーカーと提携して縫製を行っている工場や、独自のブランドを立ち上げ、企画から販売までを行い、業績を上げている会社もある。それらの例を挙げ、福島県内のアパレル産業について学ぶ。	①計画 これまでの授業の中で、最も関心を持った内容を選び、それに関連するプレゼンテーションの計画を立てる。	60
8	福島県の伝統的衣生活	福島県の農村ではかつて、各戸で衣服材料となる繊維を生産し、機織りや染色をして生地とし、衣類に仕立て着用していた。また、蓑や笠、わらじ等も家内で生産していた。この自給自足を原則とした衣生活について学ぶ。	②資料の収集 関連図書、ホームページ、聞き取りなどにより、プレゼンテーションに必要な資料を集める。	60
9	会津の角巻	明治期に都会から流行した「赤毛布」が地方に伝わり、「角巻」に変化して雪国の防寒具として着用された。会津地方では「御高祖頭巾」と組み合わせて愛用されたという。会津地方の自治体史を基に雪国の衣生活を知る。	③パワーポイント作成 収集した資料を組み立て、パワーポイントを作成する。	60
10	会津の地歌舞伎と歌舞伎衣裳	会津地方は近世から近代にいたるまで、農民が自ら演じる地歌舞伎が盛んな地域であった。この地歌舞伎の歴史を知るとともに、その舞台上で使用された歌舞伎衣裳についての知識を得、地歌舞伎についての理解を深める。	④データの提出と練習 完成したパワーポイントのデータを「めばえ」に提出し、プレゼンテーションの練習をする。	60
11	プレゼンテーション(1)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。	60
12	プレゼンテーション(2)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。	60
13	プレゼンテーション(3)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。	60
14	プレゼンテーション(4)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。	60
15	プレゼンテーション(5) まとめ	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。 これまでの授業内容を振り返り、補足説明を行う。また、質問に答える。さらに、授業の目標について改めて確認し、達成度を確認する。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。 この授業で学んだことを今後どのように発展させていくかについて、自分の考えをまとめる。	60

授業名	油彩画Ⅲ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期	Ⅳ		
授業の概要	油彩画Ⅱで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追究します。提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。		
授業の到達目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。		
履修条件	油彩画Ⅰ・油彩画Ⅱを履修していることが望ましい。	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70％以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	教科書は使用せず適宜資料を配布します。 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法（美術出版社）、絵具材料ハンドブック（中央公論美術出版）その他、授業に関する画集等は適宜指示します。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。CD2361		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力・主体的行動力を油彩画制作を通して養う。		
オフィスタイム	水曜Ⅴ限（No.2 地域創成研究室）		
アクティブラーニング実施内容	すべての課題作品制作において、学生が自主的に判断・工夫し取り組む。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	後期ガイダンス	・授業の目標と内容、および授業の進め方についての説明。 ・用具材料の点検。（不足品については各自で購入補充する。） ・油彩画の特色や歴史についての復習。 ・道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（制作キャンバス含む）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	60
2	自由画制作－1	作品制作…主題の設定とモチーフの取材および選択 ・テーマの設定は自由とする。表現は具象、抽象どちらでも可。モチーフの設定も自由。 ・自分のテーマに合うモチーフや作家の作品等について取材し、制作のコンセプトを明確にしておく。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	60
3	自由画制作－2	作品制作…基底材（キャンバス）の準備 ・木枠に布を張る（2,3人組み共同作業）。F80号～F150号の木枠を準備する。 ・各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	60
4	自由画制作－3	作品制作…エスキース制作 ・自由な発想で画面構成を試みる。 ・油彩画Ⅰや油彩画Ⅱ前半で試みた様々な技法も応用して自分の制作意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
5	自由画制作－4	作品制作… ・木炭エスキース、淡彩画、小キャンバスの利用などいろいろ試みながら発想の柔軟性を図り、画面構成をおこなう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
6	自由画制作－5	作品制作… ・構想がまとまり、画面構成がおおまかに決まったら大画面制作をはじめる。 ・F30号以上のキャンバスを使用。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
7	自由画制作－6	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係を見ながら制作を進める。 ・自分の制作意図をより効果的に表現するための、技法の選択と組み合わせも考えながら進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	自由画制作－ 7	作品制作… ・制作意図に応じて、さまざまな技法を画面に取り入れてみる。 ・発想の転換を図ったりしながら画面上で自分の表現意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
9	自由画制作－ 8	作品制作… ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿っているかどうかを確認する。 ・全体の関係をみながら制作を進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
10	自由画制作－ 9	作品制作… ・制作意図に沿っているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探っていく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
11	自由画制作－ 1 0	作品制作… ・細部に捕らわれずに絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面づくりを目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
12	自由画制作－ 1 1	作品制作… ・自分の制作意図やイメージに沿った作品となっているかどうかを絶えず確認する。 ・密度のある画面作りを目指して更に描き込む。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
13	自由画制作－ 1 2	作品制作… ・完成に近づきつつある作品に対して、より深い表現となるよう追究する。 ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
14	自由画制作－ 1 3	作品制作… ・必要に応じて強調や省略等を加え、画面全体の構成要素のバランスを整えて魅力ある完成度の高い画面づくりを目指す。 ・制作もかなり進んできたが、描きこむことによって表現が硬くならないように注意する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	60
15	自由画制作　＜講評会＞	完成した作品を並べ講評。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅲの総評。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	60

授業名	水彩表現	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎米本 順子			
開講期	Ⅱ			
授業の概要	水彩絵の具は水を加えるだけで手軽に使用でき、誰もが子供の頃、手にした事のあるなじみの深い彩色材料です。しかも他の描画材料との併用も容易であり、この素材の特性から水彩画は柔軟性にとみ、多くの可能性を秘めた表現媒体であるといえます。			
授業の到達目標	授業では、水彩絵の具のほかにその他の水性絵の具の使用方法も含めて、それらの素材の特性の理解と技術の習得を目指し、技法の開拓を図ることにより更に水彩画の表現の可能性を追求する。			
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	①授業目標の達成度が70%以上であること。（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）	
テキスト	担当者が資料を配布する。			
参考書	担当者が紹介する。			
学生への要望	水彩絵の具の表現方法の工夫。例えばティッシュで拭き取ったり、ニードルで引っ掻いたりと様々な表現を納得のいくまで追求すると共に制作そのものを楽しみましょう。また、空き時間を利用して画材に触れるよう心掛けてください。			
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。CD2171			
ディプロマポリシーとの関係	作品制作を通して創造的思考力・主体的行動力を養う。			
オフィスタイム	火曜Ⅱ限（No.2 地域創成研究室）			
アクティブラーニング実施内容	すべての課題作品制作において、学生が自主的に判断・工夫し取り組む。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目標と内容について、および授業の進め方について説明する。 水彩画の特色と歴史および用具と材料について説明し、透明絵の具と不透絵の具、透明描法と不透明描法について理解を深める。	授前、水彩画について調査 授後、次回の制作に向けて用具等の準備	60
2	風景画ガイダンス	・風景画ガイダンス ・キャンパス風景写生 大学校舎内外で描きたい場所を選ぶ。 作品参考例を鑑賞した上で、構図（近景、中景、遠景の関係と組み合わせ等）を検討する。	授前、制作の準備 授後、構図、配色の検討	60
3	風景画	○キャンパス風景写生 描きたい風景を2～3箇所を選び、スケッチして淡彩で塗る。クロッキーやデッサンには鉛筆、コンテ、各種の素材を試す。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
4	風景画	○キャンパス風景写生 大気に漂う瑞々しい季節感を肌で感じ取りながら、描いている対象の中心（主題）を見極める。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
5	風景画	○キャンパス風景写生 淡彩スケッチ2～3枚の中から制作場所を選び、四つ切り水彩用紙（コットマン紙）に描写する。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
6	風景画	○キャンパス風景写生 主題と構図の関係を考えながらデッサンしましょう。対象の風景に含まれるいろいろな物には省略や移動を加えて効果的な構図を検討する。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
7	風景画	彩色に入る。（透明描法、不透明描法の何れか） 各自の主題、コンセプトに合わせ、基調色を選ぶ。 全体の色調のバランスを考えながら、大まかに色を置いてみる。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
8	風景画	細部に拘らずにための筆でのびのびと彩色するよう心掛ける。構図や色調が各自の主題表現に沿っているかどうか確認しながら追究し加筆する。 完成を目指す	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
9	風景画 講評会	各自の作品を発表するとともに、他の学生が制作した作品を鑑賞し意見交換を行う。	授前、制作の準備 授後、完成作品についてのまとめ	60
10	静物画ガイダンス	・静物画ガイダンス ・モチーフ選び、モデル組み 2箇所を設置する。（2グループでモチーフ組みを行う。） 写生による写実的表現を原則とするが心象的表現を試みても構わない。	授前、静物画について情報を集める 授後、静物画に対しての認識を深める	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	静物画	2種類のモデルより一つを選ぶ。複数のモチーフの中から各自描きたいものを選び、画面構成を考えながらデッサンをする。 モチーフは多すぎないように注意し、半切の水彩用紙を使用する。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
12	静物画	画面上でのモチーフの省略や移動も試みて、各自のコンセプトをより明確に表現できるような構図を検討する。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
13	静物画	単なる写生に止まらず、モチーフに対する感情移入を大切にして、心象表現の試みなども可能。表現の方針が決まり、デッサンが済んだら彩色に入る。 色は透明描法、不透明描法および両者の併用など各自のコンセプトに合わせて使い分ける。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
14	静物画	作品を完成させる。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	60
15	静物画 講評会	各自の作品を発表するとともに、他の学生が制作した作品を鑑賞し意見交換を行う。	授前、制作の準備 授後、完成作品についてのまとめ	60

授業名	塑造表現	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎黒沼 令		
開講期			
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。塑造とは彫刻の技法の一つで、粘土などの可塑性のある素材で彫刻作品をつくる事を言います。塑造表現の授業では粘土による造形、石膏取りなどの技法を体験し、彫刻の基礎的な技法や表現を身につけ、ものをつくる喜びや達成感を味わう事を目標とします。 最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。		
授業の到達目標	塑造作品の制作を通して、塑造の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。 ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。		
履修条件	地域創成学科2年生 生涯学習生	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、授業理解度は7割以上を求めます。
テキスト	特に無し。		
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等		
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。		
位置付け・水準	CD2267		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力		
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No.1工芸室		
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	塑造表現の授業について	・塑造表現の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習		0
2	頭像制作－1	◆塑造について学習する 塑造の初めての学習として、友人の頭像をつくることで、彫刻の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、塑造の基礎的な技法（芯棒づくり、石膏取りなど）の習得を目指す。 《課題についての説明とデッサン》 ・頭像をつくる目的、意義について ・具象彫刻についての学習 ・グループ分けを行いデッサンする	授業外でもモデルの正面と側面のデッサンを進める	120
3	頭像制作－2	《頭部のデッサン》 ・前回に続きデッサンを行う。 ・様々な角度から対象をとらえる。		0
4	頭像制作－3	《芯棒制作と粘土練り》 ・芯棒を作る ・粘土を練る	粘土を練り制作の準備を行う。	120
5	頭像制作－4	《芯棒制作と粘土練り》 ・芯棒を作る ・粘土を練る		0
6	頭像制作－5	《モデリング・1》 ・荒づけ ・モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する	荒づけの段階を進める	120
7	頭像制作－6	《モデリング・1》 ・荒づけ ・モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する		0
8	頭像制作－7	《モデリング・1》 ・第7回に同じ。	細部の造形に入る前の全体的な形をつくる。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	頭像制作－ 8	《モデリング・2》 ・荒づけ ・モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する		0
10	頭像制作－ 9	《モデリング・2》 ・第9回に同じ	細部の造形に入る前の全体的な形をつくる。	120
11	頭像制作－ 1 0	《モデリング・3》 ・前段階を踏まえて、全体のバランスを考えながら、部分的造形に移行していく ・注意する点 1、彫刻性を意識しているか（構造、量塊感など） 2、全体の中で破綻がないか 3、イメージを持って表現しているか		0
12	頭像制作－ 1 1	《モデリング・3》 ・第11回に同じ。	彫刻性を意識し、作品制作を進める。	120
13	頭像制作－ 1 2	《モデリング・4》 ・前段階を踏まえて、全体のバランスを考えながら、部分的造形に移行していく ・注意する点 1、彫刻性を意識しているか（構造、量塊感など） 2、全体の中で破綻がないか 3、イメージを持って表現しているか		0
14	頭像制作－ 1 3	《モデリング・4》 ・第13回に同じ	彫刻性を意識し、作品制作を進める。	120
15	頭像制作－ 1 4	《モデリング・5》 ・完成をイメージしながら、表面処理、細部の表現など、仕上げていく		0
16	頭像制作－ 1 5	《モデリング・5》 ・第15回に同じ。	仕上げに向けて作品を進める。	120
17	頭像制作－ 1 6	《モデリング・6》 ・引き続き完成をイメージしながら、表面処理、細部の表現など、仕上げていく		0
18	頭像制作－ 1 7	《モデリング・6》 ・第17回に同じ	粘土段階を完成させる。	120
19	頭像制作－ 1 8	《石膏取り・1》 ・石膏取りについて学習する ・雌型をつくる 1、石膏取りの環境をつくる 2、粘土作品に切り金を差し込む 3、石膏液を振りかける 4、石膏を盛り上げる		0
20	頭像制作－ 1 9	《石膏取り・1》 ・第19回に同じ	雌型の完成まで行う。	120
21	頭像制作－ 2 0	《石膏取り・2》 ・雄型をつくる 1、離型剤を雌型に流し込む 2、雌型に石膏液を流し込む 3、スタッフで補強する		0
22	頭像制作－ 2 1	《石膏取り・2》 ・第21回に同じ	雄型の完成まで行う。	120
23	頭像制作－ 2 2	《石膏取り・3》 ・割り出し、修正を行う ・乾燥後着色		0
24	頭像制作－ 2 3	《石膏取り・3》 ・第23回に同じ	割り出し修正作業を進める。	120
25	頭像制作－ 2 4	《石膏取り・4》 ・割り出し、修正を行う ・乾燥後着色		0
26	頭像制作－ 2 5	《石膏取り・4》 ・第25回に同じ	作品に着色し仕上げる。	120
27	頭像制作－ 2 6	《台座制作》 ・台座について理解する ・木材で台座を制作後		0
28	頭像制作－ 2 7	《台座制作》 ・木材で台座を制作後、頭像を設置する	台座を仕上げる。	120
29	頭像制作－ 2 8	《台座制作》 ・台座の着色など仕上げを行う。		0

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	合評会	《合評会を行う》 ・制作した作品についてのプレゼンテーションを含めた合評を行う	合評会の反省を踏まえて作品を完成させる。	120

授業名	木彫表現	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎黒沼 令			
開講期				
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。木彫とは彫刻の技法の一つで、木を素材として彫刻作品をつくる事を言います。木彫表現の授業では動物をモチーフとした木による造形を体験しながら、木彫の基礎的な技法を学ぶ、また、木の素材的な魅力を味わう事を目標とします。 最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。			
授業の到達目標	木彫作品の制作を通して、木彫の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。 ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、授業理解度は7割以上を求めます。	
テキスト	特に無し。			
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等			
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。			
位置付け・水準	CD2272			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No.1工芸室			
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	木彫表現の授業について	・木彫表現の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習		0
2	動物彫刻制作－1	◆木彫について学習する 木彫の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、木彫の基礎的な技法（木の材質の特徴、魅力や造形方法）の習得を目指す。 《課題についての説明とアイディアスケッチ》 ・目的、意義について ・木についての学習 ・アイディアスケッチを行う	・アイディアスケッチを進めながら構想を練る	120
3	動物彫刻制作－2	《アイディアスケッチ》 ・つくりたい動物を考える。		0
4	動物彫刻制作－3	《アイディアスケッチ》 ・つくりたい動物を考える。	・授業内容を振り返りながら制作を進める	120
5	動物彫刻制作－4	《木彫制作・1》 ・木材にデッサンを入れる ・ノコギリ等で木取りする。		0
6	動物彫刻制作－5	《木彫制作・1》 ・木材にデッサンを入れる ・ノコギリ等で木取りする。	・授業内容を振り返りながら制作を進める	120
7	動物彫刻制作－6	《木彫制作・2》 ・木材にデッサンを入れる ・ノコギリ等で木取りする。		0
8	動物彫刻制作－7	《木彫制作・2》 ・木材にデッサンを入れる ・ノコギリ等で木取りする。	・自分がつくりたいものを基に取材、デッサンを進める	120
9	動物彫刻制作－8	《木彫制作・3》 ・ノコギリ等で木取りする。 ・鑿などで粗彫りする。		0

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	動物彫刻制作－ 9	《木彫制作・ 3》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
11	動物彫刻制作－ 1 0	《木彫制作・ 4》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
12	動物彫刻制作－ 1 1	《木彫制作・ 4》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
13	動物彫刻制作－ 1 2	《木彫制作・ 5》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
14	動物彫刻制作－ 1 3	《木彫制作・ 5》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
15	動物彫刻制作－ 1 4	《木彫制作・ 6》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
16	動物彫刻制作－ 1 5	《木彫制作・ 6》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
17	動物彫刻制作－ 1 6	《木彫制作・ 7》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
18	動物彫刻制作－ 1 7	《木彫制作・ 7》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
19	動物彫刻制作－ 1 8	《木彫制作・ 8》 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
20	動物彫刻制作－ 1 9	《木彫制作・ 8》 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
21	動物彫刻制作－ 2 0	《木彫制作・ 9》 ・ 鑿などで粗彫りする。 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。		0
22	動物彫刻制作－ 2 1	《木彫制作・ 9》 ・ 鑿などで粗彫りする。 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
23	動物彫刻制作－ 2 2	《木彫制作・ 1 0》 ・ 鑿などで粗彫りする。 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。		0
24	動物彫刻制作－ 2 3	《木彫制作・ 1 0》 ・ 鑿などで粗彫りする。 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
25	動物彫刻制作－ 2 4	《木彫制作・ 1 1》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。		0
26	動物彫刻制作－ 2 5	《木彫制作・ 1 1》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
27	動物彫刻制作－ 2 6	《木彫制作・ 1 2》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。		0
28	動物彫刻制作－ 2 7	《木彫制作・ 1 2》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。 ・ 着色等、仕上げの工程に取り組む。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
29	動物彫刻制作－ 2 8	《木彫制作・ 1 3》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。 ・ 着色等、仕上げの工程に取り組む。		0
30	合評会	《合評会》 ・ 1年間の作品についてのプレゼンテーションを含めた合評会を行う	・ 講評会の反省を踏まえて作品を完成させる。	120

授業名	版画表現	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎斉藤 弘久			
開講期				
授業の概要	版画基礎で学んだ事の中から興味を持った版種を2種類選び技法をさらに深めて表現方法を考える。技法は基礎で学んだ以外にもあるので、さらに挑戦してみる。アナログとデジタルの併用による効果なども試して行く。(CD2262)			
授業の到達目標	版画への理解を深め、表現の豊かさ新鮮さを感じる。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(20点)	
テキスト	そのつど担当者が資料を配布する。			
参考書	そのつど担当者が紹介する。			
学生への要望	学んだことを工夫して発見したり活かしたりしながら課題内容の充実を図ってください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	版画の表現手段を再確認する。	授前、版画の基礎を確認 授後、自分にあった技法を選択	180
2	2版種の選択	選ぶために技法を確認する	授前、選ぶ技法を確認 授後、選んだ技法を確認	180
3	1版種目の技法の再確認	選んだ技法の確認と試作。この時間は下書きをしながら表現方法を考えます。	授前、絵柄を考える 授後、絵柄の確認	180
4	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの試作つくります。	授前、さらに絵柄を深める 授後、試作の活かし方を考える	180
5	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
6	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
7	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
8	版画制作	選択した版種で制作 完成をさせる。	授前、制作の完成を目指す 授後、完成作品を振り返る	180
9	2版種目の技法の再確認	2つ目に選んだ技法の確認。この時間は下書きをしながら表現方法を考えます。	授前、絵柄を考える 授後、絵柄の確認	180
10	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの試作つくります。	授前、さらに絵柄を深める 授後、試作の活かし方を考える	180
11	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
12	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
13	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
14	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
15	版画制作まとめ	完成した作品を鑑賞する。	授前、制作の完成を目指す 授後、版画についてまとめる	180

授業名	ビジュアルデザインⅠ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎小松 太志			
開講期				
授業の概要	本授業では、視覚表現を用いたデザインの基本概念を深く学び、映画ポスターと本の装丁デザインの制作を通じて、実践的なデザインスキルを向上させることを目的とする。デザインの基礎理論や視覚的コミュニケーションの重要性を理解し、コンセプトメイキング、レイアウト設計、タイポグラフィの応用方法を学ぶ。また、実際の制作課題を通じて、デザインのプロセスを体系的に経験し、表現力と問題解決能力を養う。さらに、作品発表や講評会を通じて、他者との意見交換を行い、デザインの意図を明確に伝える力を培う。			
授業の到達目標	・デザインの基本的な原則を理解し、適用できる。 ・映画ポスターや本の装丁デザインを通じて、コンセプトの表現方法を学ぶ。 ・PhotoshopやIllustratorなどのツールを用いて、実践的なデザインができる。 ・プレゼンテーションスキルを向上させ、自身の作品を的確に説明できる。			
履修条件	特になし。ただし、Photoshop・Illustratorの基礎知識があると望ましい。	成績の 評価方法・基準	課題（映画ポスター制作）：45%、課題（本の装丁デザイン）：45%、授業内での発表・参加度：10%	
テキスト	特定の教科書は使用せず、授業内で資料を配布する。			
参考書	授業内で適宜、紹介する。			
学生への要望	授業での講義や演習に積極的に取り組み、自らのデザインの表現力を高める努力をすること。デザインに関する資料収集やリサーチを怠らず、受講生同士で意見交換しながら作品の質を高めることを期待する。			
位置付け・水準	CD2163			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力			
オフィスタイム	火曜日Ⅰ・Ⅱ時限、木曜日Ⅰ・Ⅱ時限、CG演習室			
アクティブラーニング実施内容	第2～15回 ①学生同士の作品講評会を実施し、互いにフィードバックを行うことで批評的視点を養う。②グループディスカッションを通じて、異なる視点やアイデアを共有し、デザインの発展につなげる。③プレゼンテーションを通じて、自身の作品を他者に伝える力を磨き、表現の精度を高める。			
実務家教員の経歴	広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作の実践的な指導を行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	デザインの基礎	デザインの基本原則と視覚表現の重要性を学ぶ。構図や色彩理論についても触れる。	参考書を読み、デザインの基礎を整理	30
2	映画ポスターの構成	ポスターの役割や要素を分析し、レイアウトやタイポグラフィの活用方法を学ぶ。	好きな映画ポスターを分析	60
3	映画ポスターのコンセプト作成	映画の内容を踏まえたコンセプトを考え、視覚的に伝える方法を探る。	企画書のドラフト作成	60
4	映画ポスター制作①	初期デザインの構想を練り、手描きスケッチやデジタル作業を開始する。	実際のデザイン作業	60
5	映画ポスター制作②	PhotoshopやIllustratorを用いてデザインを具体化し、視覚的なバランスを調整する。	デザインの修正と調整	60
6	映画ポスター制作③	配色やフォントの選定を最適化し、細部のデザインを洗練させる。	最終的なレイアウトの調整	60
7	映画ポスターの講評	完成作品を発表し、講評を受けることで改善点を明確にし、プレゼン力を養う。	フィードバックを整理	60
8	本の装丁デザインの概要	書籍の装丁デザインの役割や種類、構成要素について学ぶ。	参考書を読み、装丁デザインの特徴を把握	60
9	本の装丁コンセプト作成	書籍の内容やターゲット読者に応じた装丁のコンセプトを策定する。	アイデアスケッチの作成	60
10	本の装丁デザイン制作①	レイアウト構成を考え、適切な画像・フォント・色彩を選定し始める。	デザイン作業を開始	60
11	本の装丁デザイン制作②	初期デザインを具体化し、デジタルツールを用いた本格的な制作を進める。	細部の調整	60
12	本の装丁デザイン制作③	細部のブラッシュアップを行い、完成度の向上を目指す。	仕上げ作業	60
13	本の装丁デザイン制作④	仕上げ作業を行い、作品の最終調整を実施する。	最終的なレイアウトの調整	60
14	本の装丁デザインの講評	制作したデザインを発表し、講評を通じて自己評価と改善点を確認する。	フィードバックの整理	60
15	総括・作品発表	作品発表会を行い、デザインの総括を行う。自己の成長を振り返る機会とする。	自身の成果を振り返る	60

授業名	ビジュアルデザインⅡ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎小松 太志 松田 理香		
開講期			
授業の概要	本授業では、ビジュアルアイデンティティ（VI）のデザインを中心に学ぶ。架空の企業や団体を設定し、ロゴ、各種デザインツール（名刺、ポスター、Webデザインなど）のデザインを総合的に検討・作成する。デザインの一貫性やブランドの視覚的表現を意識しながら、実践的なデザインプロセスを学ぶ。また、コンセプト立案から最終発表までのプロジェクト型学習を通じて、デザインスキルとプレゼンテーション能力を向上させる。		
授業の到達目標	①ビジュアルアイデンティティの基本概念を理解し、実践できる能力を身につける。 ②ブランドのコンセプトに基づいた一貫性のあるデザインを制作できる。 ③Photoshop、Illustratorを活用し、ロゴや各種ツールのデザインを作成できる。 ④自身のデザインを論理的に説明し、プレゼンテーション能力を向上させる。		
履修条件	「ビジュアルデザインⅠ」を履修済みであることが望ましい。基本的なデザインソフトの操作ができること。	成績の 評価方法・基準	課題（VIデザイン制作）：70%（ロゴ30%、VI適用ツール40%）、授業内での発表・参加度：30%
テキスト	特定の教科書は使用せず、授業内で資料を配布する。		
参考書	授業内で適宜、紹介する。		
学生への要望	授業での講義や演習に積極的に取り組み、自らのデザインの表現力を高める努力をすること。デザインに関する資料収集やリサーチを怠らず、受講生同士で意見交換しながら作品の質を高めることを期待する。		
位置付け・水準	CD2263		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	火曜日Ⅰ・Ⅱ時限、木曜日Ⅰ・Ⅱ時限、CG演習室		
アクティブラーニング実施内容	第2～15回 ①グループワークによるVIコンセプトの策定、②中間講評会を通じたフィードバックの共有、③最終発表でのプレゼンテーション		
実務家教員の経歴	広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作の実践的な指導を行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	VIの基礎	ビジュアルアイデンティティの概念と事例研究を行い、企業や団体にとってのVIの役割を理解する。	参考文献を読み、VIの基礎を整理する。	60
2	企業・団体設定	架空の企業や団体を設定し、ブランドの目的やターゲット層を分析しながらコンセプトを策定する。	競合のVIをリサーチし、特徴を分析する。	60
3	ロゴデザイン①	ブランドイメージを反映したロゴデザインのアイデアをスケッチし、複数の案を比較検討する。	参考となるロゴデザインを収集し、特徴を整理する。	60
4	ロゴデザイン②	選定したアイデアをブラッシュアップし、デジタル化しながらデザインの精度を高める。	デザイン案を修正し、フィードバックを反映する。	60
5	ロゴデザイン③	ロゴの細部調整とバリエーション展開を行い、ブランドの視覚的統一感を確立する。	最終デザイン案を準備し、発表の準備をする。	60
6	VI適用ツール選定	ブランドの特性に応じて、VIを適用するツール（名刺、広告、Webなど）を各自で選定し、目的を明確にする。	適用ツールの事例を調査し、参考にする。	60
7	VIツール制作①	選定したツールのデザイン構想を練り、スケッチや試作を行いながらコンセプトを具体化する。	アイデアをスケッチし、デザイン案を複数作成する。	60
8	VIツール制作②	PhotoshopやIllustratorを用いて、選定ツールのデザインをデジタル化し、細部を調整する。	フォントや配色のバリエーションを試す。	60
9	中間講評会	進捗発表とフィードバックの共有を行い、改善点を明確にしながら方向性を確認する。	講評を踏まえ、修正点をまとめる。	60
10	VIツール制作③	さらにデザインをブラッシュアップし、色彩、フォント、レイアウトの調整を行う。	調整したデザインを第三者に評価してもらう。	60
11	VIツール制作④	デザインの最終調整と統一感の確認を行い、プレゼンテーションに向けた仕上げを行う。	発表資料を整理し、プレゼン準備を進める。	60
12	VIガイドライン作成	ロゴやカラー、フォントの統一ルールをまとめ、VIの適用基準を整理する。	他のVIガイドラインを調査し、構成を考える。	60
13	プレゼン準備	最終発表に向けてスライドや資料を作成し、プレゼンの構成を検討する。	発表練習を行い、内容をブラッシュアップする。	60
14	最終発表会	完成したVIデザインをプレゼンテーションし、講評を受けながら改善点を整理する。	講評を踏まえて、改善点をまとめる。	60
15	まとめ・振り返り	各自の成果を振り返り、講評をもとに最終的なフィードバックを共有し、今後の課題を明確にする。	自身の成長点と今後の課題を整理する。	60

授業名	映像メディア表現Ⅰ		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎小松 太志			
開講期				
授業の概要	映像は時間や空間、音を構成要素として持つことで、静止画像のテキストや画像よりも情報量が多い。スマートフォンの普及やネットワークの発展も背景として、インターネット動画広告市場は大きな伸長を見せている。映像を介したコミュニケーションがより一般化されることを踏まえて、今後必要となる映像制作の基礎知識・技術について学ぶ。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの観点から映像制作の指導を行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：授業内で課題の講評を行う。 ・位置づけ・水準 CD2173			
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りである。 ①映像原理を理解している。 ②映像機器の基本的な仕組みを理解している。 ③映像編集ソフトウェアの基本的な操作方法を理解している。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力			
履修条件	・CG基礎ⅠもしくはCG基礎Ⅱを履修済みであること。CG基礎Ⅰ・Ⅱともに履修済みであることが望ましい。 ・受講者数の定員を15名とする。15名を超えた場合は、他の科目の履修状況や希望進路などをもとに受講者数を制限する。	成績の 評価方法・基準	以下の項目で成績評価を行う。 ①課題の提出状況（40%）②課題作品の内容（60%）	
テキスト	適宜、提示する。			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本授業の内容、目標、受講資格、評価について説明する。 授業で使用するコンピュータの設定、ソフトウェアのダウンロードなどを行う。	授業で使用するコンピュータの基本的な操作方法について復習する。	60
2	映像の原理①	課題①「線によるフレームアニメーション」を制作する。 Adobe Photoshopのタイムライン機能を使用して制作を行う。	課題制作に取り組む。	60
3	映像の原理②	課題①「線によるフレームアニメーション」の講評会を行う。 仮現運動について解説し、動きとその認知の仕組みについて理解を深める。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
4	映像の原理③	課題②「写真を使用したストップモーションアニメーション」を製作する。 スマートフォンのアプリケーション「Stop Motion Studio」を使用する。	課題制作に取り組む。	60
5	映像の原理④	課題②「写真を使用したストップモーションアニメーション」の講評会を行う。 カメラの基本原理について解説する。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
6	カメラワークの基礎①	フィクス、パン、ティルトなどのカメラワークの種類とその映像効果について解説する。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
7	カメラワークの基礎②	前回授業で解説した各カメラワークで撮影を行う。 撮影にはスマートフォンの動画機能を使用する。	各カメラワークの特性を踏まえた動画を撮影する。	60
8	映像編集①	映像編集ソフトウェア（Adobe Premiere Pro）の使用方法について学修する。 ソフトウェアの概要、インターフェイス、環境設定について解説する。	授業内で提示する資料を読む。 演習用の動画素材を撮影する。	60
9	映像編集②	映像編集ソフトウェアの使用方法について学修する。 映像の入力、シーケンスの作成・設定、タイムラインパネルの操作方法について解説して演習を行う。	授業で解説した機能について復習する。 演習用の動画素材を撮影する。	60
10	映像編集③	映像編集ソフトウェアの使用方法について学修する。 ツールの使用方法、エフェクトについて解説して演習を行う。	授業で解説した機能について復習する。 演習用の動画素材を撮影する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	映像編集④	映像編集ソフトウェアの使用方法について学修する。編集データの出力、映像のファイル形式について解説して演習を行う。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
12	映像の制作①	課題③「詩と映像」を制作する。詩を題材とした実写による映像を制作する。作品に使用する詩を決めて、テキストデータを作成する。	課題制作に取り組む。課題用の動画素材を撮影する。	60
13	映像の制作②	課題③「詩と映像」を制作する。映像編集ソフトウェアにおける文字の入力・編集方法について解説する。	課題制作に取り組む。課題用の動画素材を撮影する。	60
14	映像の制作③	課題③「詩と映像」を制作する。カット編集の種類と映像効果について解説する。	課題制作に取り組む。授業内容をノートにまとめる。	60
15	映像の制作③	課題③「詩と映像」の講評会を行う。	他の受講生の作品を閲覧する。	60

授業名	映像メディア表現Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎小松 太志			
開講期				
授業の概要	画像やテキストなどの情報に対して、動きを設定して表現するモーショングラフィックスについて学ぶ。時間や空間、音などを使用した効果的な情報の提示方法について理解を深める。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの観点から映像制作の指導を行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：授業内で課題の講評でフィードバックを行う。 ・位置づけ・水準 CD2273			
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りである。 ①映像編集ソフトウェアの基本的な操作方法を理解している。 ②映像のデジタル合成を行うことができる。 ③モーショングラフィックスや効果的なタイトルを作成できる。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力			
履修条件	・映像メディア表現Ⅰを履修済みであること。	成績の 評価方法・基準	以下の項目で成績評価を行う。 ①課題の提出状況（40%）②課題作品の内容（60%）	
テキスト	適宜、提示する。			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本授業の内容、目標、受講資格、評価について説明する。 授業で使用するコンピュータの設定、ソフトウェアのダウンロードなどを行う。	授業で使用するコンピュータの基本的な操作方法について復習する。	60
2	AfterEffectsの基本	AfterEffectsのインターフェース、アニメーション設定からレンダリングまでの操作を演習を通して概観する。	復習用の課題に取り組む。	60
3	モーシヨンの基礎①	モーシオン設定の基本的な方法について学ぶ。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
4	モーシヨンの基礎②	ポジション、ローテーション、スケールなどの基本属性を使用したモーシヨンの設定を行う。	復習用の課題に取り組む。	60
5	モーシヨンの基礎③	ポジション、ローテーション、スケールなどの基本属性を使用したモーシヨンの設定を行う。	復習用の課題に取り組む。	60
6	マスクアニメーション①	トラックマット、マスクなどの機能の基本を学ぶ。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
7	マスクアニメーション②	トラックマット、マスクなどの機能を利用して、モーシオンワークを制作する。	復習用の課題に取り組む。	60
8	エフェクトアニメーション①	課題①「Sound Visualization」エフェクト機能を利用して音と連動した映像を制作する。エフェクトの種類と設定方法について学ぶ。	参考作品を閲覧してアイデアスケッチを作成する。	60
9	エフェクトアニメーション②	課題①「Sound Visualization」エフェクト機能を利用して音と連動した映像を制作する。音源を選択して、モーシオン素材を制作する。	課題制作に取り組む。	60
10	エフェクトアニメーション③	課題①「Sound Visualization」エフェクト機能を利用して音と連動した映像を制作する。素材に対してモーシヨンの設定を行う。	課題制作に取り組む。	60
11	エフェクトアニメーション④	課題①「Sound Visualization」エフェクト機能を利用して音と連動した映像を制作する。課題の講評会を行う。	他の受講生の課題作品を閲覧する。	60
12	テキストアニメーション	エフェクトを活用したテキストアニメーションの作成方法について学ぶ。	復習用の課題制作に取り組む。	60
13	ループアニメーション①	課題②「walking」リギング機能をして2Dキャラクターのウォーキングアニメーションを制作する。リギングの設定方法について学ぶ。	課題制作に取り組む。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	テキストアニメーション②	課題②「walking」リギング機能をして2Dキャラクターのウォーキングアニメーションを制作する。キャラクターを制作して、モーションを設定する。	課題制作に取り組む。	60
15	テキストアニメーション③	課題②「walking」リギング機能をして2Dキャラクターのウォーキングアニメーションを制作する。課題の講評会を行う。	他の受講生の作品を閲覧する。	60

授業名	卒業研究（桑野 聡）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎桑野 聡			
開講期	通年			
授業の概要	本卒業研究は、文化・歴史系の学びを通して歴史学（西洋史）の専門的な知識を学問的に探究した成果です。学生各自が独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本目的です。 授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導します。個別相談・ゼミ内発表・レポート提出と添削などによるフィードバックを行います。 CD2101			
授業の到達目標	・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。 ・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。 ・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。 ・期日までに卒業論文を提出し、学会形式の発表を行うことを単位認定の最低基準とする。 ディプロマ・ポリシーとの関係： 創造的思考力・課題解決力・主体的行動力			
履修条件	「ヨーロッパ文化史」履修学生が望ましい	成績の 評価方法・基準	・授業における発表（30点） ・卒業論文は、表紙・目次・本文に加えて、註・資料・参考文献が付加されたものであること（50点） ・卒業研究発表会（20点）	
テキスト	特に使用しません。			
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説』1・2 DTP出版 2006年 金澤周作 監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房 2020年 その他、適宜提示する。			
学生への要望	各自の就職・資格・アルバイト活動などを考慮してスケジュール管理を確実に、計画的に取り組むこと。			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力・課題解決力・主体的行動力			
オフィスタイム	水曜Ⅰ時限目（9:00～10:30）・金曜Ⅴ時限目（16:10～17:40） 考古学研究室			
アクティブラーニング実施内容	個別相談・ゼミ内発表・レポート提出と添削などによるフィードバックを行います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。 ゼミ参加学生のテーマについて話し合い、課題を提示する。	自分の関心テーマについて、主体的に説明し、課題に取り組む。	60
2	ウォーミングアップ①	図書館の使い方や文献検索方法を説明する。	実際に自分の関心テーマの参考文献を検索してみる。	120
3	報告1-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
4	報告1-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
5	報告1-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
6	報告1-④	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
7	報告2-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
8	報告2-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
9	報告2-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
10	報告2-④	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
11	報告3-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
12	報告3-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
13	報告3-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
14	報告3-④	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
15	前期まとめ	前期の作業を振り返り、各自の論文構成を考え、夏休みのスケジュールを確定する。	各自の研究スケジュールを計画する。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	後期ガイダンス	夏休みの成果を報告し、後期の研究スケジュールを相談する。	夏休みの課題を作成し、提出する。	60
17	インターミッション②	課題に対するコメントを確認し、後期の報告に備える。	夏休みの課題に対するコメントをよく理解し、次の作業準備を進める。	120
18	インターミッション③	次週からの報告に備えて相談を受ける。	報告準備を進め、具体的な質問事項を用意する。	120
19	報告4-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
20	報告4-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
21	報告4-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
22	報告4-④	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
23	報告5-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
24	報告5-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
25	報告5-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
26	報告5-④	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
27	インターミッション	論文完成に向けて、個別相談を受けます。	自分の作業スケジュールを点検しよう。	120
28	最終確認①	卒業研究の要旨をまとめ、最終の章立て、論文構成を確認する。	各自の論文の全体像を要旨にまとめ、添削を受ける準備を行う。	120
29	最終確認②	論文提出のための書式確認、註の付け方などを確認する。	本文だけでなく、論文としての体裁、形式を理解し、正しく準備する。	120
30	最終確認③	論文提出後の確認と発表会の準備を行う。	発表用パワーポイントの準備を行い、発表原稿をまとめる。	120

授業名	卒業研究（黒沼 令）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎黒沼 令			
開講期				
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。彫刻作品をつくっていく中で、ものをつくる喜びや充実感を味わうとともに、彫刻の基礎的な知識や表現の理解を深めることを目標とします。 最終授業や卒業制作展で取り組んだ作品に対するフィードバックを行います。 教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割業務参加などで補填することとします。			
授業の到達目標	卒業制作展に向けて作品を制作し、発表を行います。 作品制作の中で、彫刻の基礎的な技能の習得と自己表現、自己探求を深める事を目標とします。 ・単位認定の最低基準：作品を最低1つ完成させること。			
履修条件	地域創成学科 2 年	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70％ ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30％ 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。	
テキスト	教科書は無し。			
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立、郡山市立、他） ・街の中の彫刻（仙台市、福島市、他） ・公募展覧会			
学生への要望	野外彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を見ることなどを心がけてほしい。			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、№1工芸室			
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・卒業研究の進め方、設備、道具についてなど説明する。 ・各自、目標や技法について考える。		0
2	構想	・卒業制作作品を構想する。 ・資料、作品などを参考にしながら、自分が目指す表現について確認する。 ・デッサンする。	・作品の構想をデッサンする	120
3	構想	・第2回の内容をより深める。		0
4	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
5	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
6	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
7	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
8	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
9	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
10	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
11	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
12	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
13	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
14	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
15	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
16	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
17	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
18	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
19	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
20	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
21	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
22	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
23	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
24	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
25	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
26	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
27	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
28	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
30	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
31	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
32	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
33	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
34	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
35	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
36	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
37	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
38	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
39	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
40	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
41	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
42	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
43	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
44	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
45	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
46	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
47	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
48	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
49	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
50	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
51	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
52	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
53	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
54	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
55	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
56	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
57	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
58	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
59	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
60	合評会	・作品についてプレゼンテーションを行い1年間の成果を確認する。	・自主的に制作を進める	120

授業名	卒業研究（佐々木 達矢）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎佐々木 達矢		
開講期			
授業の概要	自然界や人間社会の様々な現象に関する疑問や課題について、数理的、統計的な手法を用いて、問題の解決や新しい知見の獲得を目指して研究活動を行う。研究テーマは基本的に個人ごとに設定する。また研究スキル底上げのために、プログラミングやデータ分析を習得する時間も用意する。そして、研究テーマや研究の進捗に関し、対面での相談・アドバイスや、資料へのコメント・添削などを通じて、フィードバックを行う。		
授業の到達目標	1. 卒業研究論文作成に必要な、先行研究の調査、研究課題の設定、予備的な実験や分析を終了している 2. 単位認定の最低基準：研究意欲を持ち、卒業論文を提出し、卒研発表を行うこと 3. ディプロマポリシーとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力		
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	研究意欲20%、論文50%、研究発表30%
テキスト	必要なテキストは、適宜指示する。		
参考書	研究計画全体については：上野千鶴子, 2018, 情報生産者になる, ちくま新書。他にも、適宜紹介する。		
学生への要望	研究テーマを独自に考え、積極的に調査・実験・分析に取り組み、そして研究の成果を分かりやすく伝える、そういう努力をすること。		
位置付け・水準	CD2101		
ディプロマポリシーとの関係	「創造的思考力」「課題解決力」「主体的行動力」		
オフィスタイム	月3限、火3限、木曜1・2限（芸術館2階 地域創成学科研究室No3）		
アクティブラーニング実施内容	特になし。		
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数理的情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の概要を説明する。また、全体的に関心のある研究テーマについて議論し、大まかな研究対象のイメージをつける。	研究活動を理解するために、説明内容を振り返る。	60
2	テーマ設定に向けて	全体的に関心のある研究テーマについての議論を行う。また、個人ごとのテーマについて相談、検討を行う。	自分の興味関心をまとめて研究課題として整理し、自分なりの問いに対して、自分がどのように取り組むかをイメージできるようにする。	60
3	テーマ設定に向けて	全体的に関心のある研究テーマについての議論を行う。また、個人ごとのテーマについて相談、検討を行う。	自分の興味関心をまとめて研究課題として整理し、自分なりの問いに対して、自分がどのように取り組むかをイメージできるようにする。	60
4	テーマの決定と研究計画書作成	一旦、おおよその研究テーマを決定し、それをもとに研究計画書を作成する。	最終卒研発表までの研究計画を具体的なタイムスケジュールに落とし込み、ToDoを明確にしてみる。	60
5	テーマの決定と研究計画書作成	一旦、おおよその研究テーマを決定し、それをもとに研究計画書を作成する。	最終卒研発表までの研究計画を具体的なタイムスケジュールに落とし込み、ToDoを明確にしてみる。	60
6	研究活動（1）	先行研究の調査、独自性の明確化、モデル構築、実験の設計等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
7	研究活動（2）	先行研究の調査、独自性の明確化、モデル構築、実験の設計等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
8	研究活動（3）	先行研究の調査、独自性の明確化、モデル構築、実験の設計等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
9	研究活動（4）	先行研究の調査、独自性の明確化、モデル構築、実験の設計等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
10	研究活動（5）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
11	研究活動（6）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
12	研究活動（7）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
13	研究活動（8）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
14	研究活動（9）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
15	中間報告	これまでの研究進捗をまとめてレポートする。併せて必要な研究計画の軌道修正を行う。	他のメンバーとの進捗確認、研究活動の見直し等を行う。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	研究活動（１０）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
17	研究活動（１１）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
18	研究活動（１２）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
19	研究活動（１３）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
20	研究活動（１４）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
21	研究活動（１５）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
22	研究活動（１６）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
23	論文作成（１）	これまでの研究成果に基づき論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
24	論文作成（２）	これまでの研究成果に基づき論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
25	論文作成（３）	これまでの研究成果に基づき論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
26	論文作成（４）	これまでの研究成果に基づき論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
27	プレゼンテーション準備（１）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料の作成を行う。	60
28	プレゼンテーション準備（２）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料の作成を行う。	60
29	卒研発表練習	発表練習を行う。	グループでの発表練習リハーサルを行う。	60
30	卒業研究発表	卒業研究発表会において、発表を行う。	最終的な発表見直しを行う。	60

授業名	卒業研究（佐藤 愛未）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎佐藤 愛未		
開講期			
授業の概要	卒業研究は各自の2年間の学びの総まとめです。独自の課題をみつけ、教員の丁寧な指導を受けて資料の収集調査を進め、論理的な考察を経て、創造的な論文や作品に仕上げます。その成果は卒業研究発表会（報告会、展示会）で、多くの人に知ってもらいます。 歴史・文化系、アート＆デザイン系、情報系のいずれかの専門分野に関わる独創的な研究テーマを見出し、教員の指導で専門的な研究の基礎力を養い、社会に貢献できる力を身につけます。 ■課題に対するフィードバック方法 1、個人発表を行い、提出された課題をその都度チェックし授業内でフィードバックします。 2、卒業論文の提出後、内容を確認して説明します。		
授業の到達目標	(1) 自ら問題意識を持って選択したテーマについて調査研究、または卒業研究作品としての制作活動を通し、論理的かつ創造的にものごとを考える事ができる能力を修得する。 (2) 専門分野の探究において、各分野の多様性を理解するとともに、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につける。 (3) 専門的な知識の探究及び制作活動を通して知見を得、それらを社会に貢献できる力を身につける。 単位認定の最低基準は、 ①卒業研究の時間内に個人の研究中間発表を最低2回はすること。 ②卒業論文を提出日時に必ず提出すること。		
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	各自の指導教員が最終的に評価をする。 【論文系の評価】 ① 研究に取組む姿勢(計画性・主体性・継続性・創造性など)がどの程度であったか(40点) ② 卒業論文の内容が論理的で創造的であったか(40点) ③ 卒業研究発表会、成果のプレゼンテーション力(20点)
テキスト	なし		
参考書	研究テーマ・課題に即した文献を個別に指示する。		
学生への要望	各人の研究テーマ・課題を自覚し、自主的に探究すること。		
位置付け・水準	CD2101		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力・課題解決力・主体的行動力		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅱ時間目。創学館4階、No.5研究室		
アクティブラーニング実施内容	個人発表、資料・文献調査など		
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	年間スケジュールを説明して、テーマの大枠について確認を行う。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。	60
2	研究論文の書き方	論文の構成要素、論理の展開などを概説する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。	60
3	研究テーマの決め方（1）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
4	調査研究の方法（1）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。ここでは主に、図書館の活用法について説明する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
5	研究テーマの決め方（2）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
6	研究論文題目の決め方・論文講読（1）	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。また、論文講読により論文の構成や註の書き方などについて学ぶ。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
7	研究論文題目の決め方・論文講読（2）	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。また、論文講読により論文の構成や註の書き方などについて学ぶ。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、要約する。研究論文題目などの発表にむけた準備を行う。	60
8	仮題目の発表（1）	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、要約する。研究論文題目などの発表にむけた準備を行う。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	仮題目の発表（2）	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
10	調査研究の方法（2）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。ここでは、フェールドワークと史料の使い方について説明する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
11	調査研究の方法（3）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。ここでは、フェールドワークと史料の使い方について説明する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
12	研究構想発表会（1）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
13	研究構想発表会（2）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
14	研究構想発表会（3）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
15	研究計画の作成	これまでの授業内容を踏まえて、1月上旬の論文提出を念頭に研究計画表を作成する。スケジュール管理の重要性を認識する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
16	卒業論文の題目確定・章立ての発表	研究構想発表での質疑応答を踏まえ、研究課題・構想の妥当性、研究課題説明の方策などを検討し、研究論文の題目を確定する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
17	卒業論文の章立て発表（1）	論文提出に向けて研究経過を持ち廻り形式で発表する。資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。個人発表1回目①	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
18	卒業論文の章立て発表（2）	論文提出に向けて研究経過を持ち廻り形式で発表する。資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。個人発表1回目②	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
19	卒業論文の章立て発表（3）	論文提出に向けて研究経過を持ち廻り形式で発表する。資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。個人発表1回目③	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
20	卒業論文の発表と執筆（1）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表2回目①	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
21	卒業論文の発表と執筆（2）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表2回目②	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
22	卒業論文の発表と執筆（3）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表2回目③	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
23	卒業論文の提出計画	章立ての確認や研究上の問題点を解決し、論文執筆と論文提出に向けて、具体的な論文提出工程計画表を作成する。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
24	卒業論文の発表と執筆（4）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表3回目①	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
25	卒業論文の発表と執筆（5）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表3回目②	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
26	卒業論文の発表と執筆（6）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表3回目③	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
27	卒業論文の執筆（7）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
28	卒業論文の点検	直前の研究論文提出に備え、研究論文を最終的に点検する。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
29	卒業論文発表会（1）	日本史所属の学生による発表会の説明及び準備	自学自習：卒業論文発表会の準備を行う。	60
30	卒業論文発表会（2）	日本史所属の学生による発表会の準備	自学自習：卒業論文発表会の準備を行う。	60

授業名	卒業研究（山口 猛）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎山口 猛			
開講期				
授業の概要	情報処理、情報メディア、ICT（Information and Communication Technology）、情報モラル、コミュニケーションなど、情報処理士ユニットの学修に関連する研究テーマに基づき、個々の興味関心に応じて研究テーマを設定し、研究活動を進める。 授業は基本的にアクティブラーニング形式を取り進める。能動的に調査や発表を行い、教員からのコメントなどによるフィードバックを積み重ねて論文作成を目指す。 課題・研究進捗に関し、対面・資料へのコメント添削などにより、フィードバックを行う。			
授業の到達目標	卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了している。 単位認定の最低基準：研究意欲を持ち、卒業論文を提出すること			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	研究意欲20%、論文50%、研究発表30%	
テキスト	なし			
参考書	適宜、資料等を用いて指導を行う			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通して論文執筆に関わるアクティブラーニングを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の概要を説明する。また、学生が関心のある研究テーマについて議論し、大まかな研究対象のイメージをつける。	研究活動を理解するために、説明内容を振り返る。	60
2	研究スケジュール・役割分担の検討	グループ研究のメインテーマにおける学生個々の役割分担を検討する。	自分の興味関心をまとめて、研究課題に対する自分なりのアプローチをイメージできるようにする。	60
3	論文執筆の方法の理解（1）	論文執筆の基本ルールを解説する。	授業内容を復習して、倫理や論文の構成について理解する。	60
4	論文執筆の方法の理解（2）	論文執筆の基本ルールを解説する。	授業内容を復習して、倫理や論文の構成について理解する。	60
5	研究活動（1）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
6	研究活動（2）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
7	研究活動（3）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
8	研究活動（4）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
9	研究活動（5）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
10	研究活動（6）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
11	研究活動（7）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
12	研究活動（8）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
13	研究活動（9）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
14	研究活動（10）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
15	中間報告	研究活動（10）までの研究進捗をまとめ、中間報告を行う。	グループの他のメンバーとの進捗確認、研究活動の見直し等を行う。	60
16	研究活動（11）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
17	研究活動（12）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	研究活動（１３）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
19	研究活動（１４）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
20	研究活動（１５）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
21	論文作成（１）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
22	論文作成（２）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
23	論文作成（３）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
24	論文作成（４）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
25	論文作成（５）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
26	論文発表プレゼンテーション準備（１）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料及び・リハーサルを行う。	60
27	論文発表プレゼンテーション準備（２）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料及び・リハーサルを行う。	60
28	論文発表プレゼンテーション準備（３）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料及び・リハーサルを行う。	60
29	論文発表練習	発表練習を行う。	グループでの発表練習リハーサルを行う。	60
30	卒業研究発表	卒業研究発表会において、発表を行う。	最終的な発表見直しを行う。	60

授業名	卒業研究（小松 太志）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	コンピュータを媒介とした静止画や動画、We bなどの制作による卒業研究を行う。研究テーマを定めて計画的に取り組み、制作にかかわる技術・知識・思考力の向上を目指します。 ※この授業は、映像メディア、印刷、イラストレーションなどの分野を中心に展開し、3名の各分野の専門教員が連携を図りながら指導します。 ※教授会で授業が休講となる場合は事前に連絡し、卒業制作展の搬入・展示・搬出作業および会期中の役割などで補填します。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの視点から映像メディアに関わる研究指導を行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：個別の研究指導を通してフィードバックを行う。 ・備考：教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割業務参加などで補填することとします。 ・位置づけ：水準 CD2101		
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りとする。 ①卒業制作展に向けた制作活動を通じて、独自の表現を探究する基盤ができています。 ②コンピュータ・グラフィックスによる造形表現技術の向上を目指すための基盤ができています。 ③工程を明確にして、計画的に制作を進めることができる。 ・単位認定の最低基準：教員の指導を踏まえて卒業研究作品を提出し、卒業制作展に出品すること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力、課題解決力		
履修条件	・地域創成学科 2年 対象 ・下記の①②の条件を満たしていること。満たしていない場合で履修を希望する場合は、必ず担当教員へ相談すること。①「CG基礎Ⅰ」もしくは「CG基礎Ⅱ」を履修済みであること。②「基礎デザイン」もしくは「絵本とイラストレーション」を履修済みであること。	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①卒業研究の制作過程・取り組む姿勢（30%）②卒業研究作品の内容（70%）
テキスト	適宜、配布または提示する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準	CD2101		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力、課題解決力		
オフィスタイム	(前期) 火曜日 Ⅰ・Ⅱ時限、木曜日Ⅰ・Ⅱ時限、CG演習室 （後期）火曜日 Ⅰ・Ⅱ時限、水曜日Ⅰ・Ⅱ時限、CG演習室		
アクティブラーニング実施内容	学生が自らの関心に基づいて調査を行い、研究・制作テーマを設定する。テーマにしたがって、必要な知識・技術を学び、独自の表現を探究する。		
実務家教員の経歴	広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの視点から映像メディアに関わる研究指導を行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	●卒業研究の授業目標・授業計画について説明 - 過去の卒業研究作品とその制作過程を紹介	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。	60
2	一次制作（もみじ会出品作品の制作）	●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示（以後、適宜資料を提示） →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集（以後、適宜資料を収集） →造形的な方向性について検討を試みます。	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。	60
3	一次制作	●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示（以後、適宜資料を提示） →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集（以後、適宜資料を収集） →造形的な方向性について検討を試みます。	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現（静止画、動画、Web）に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。	60
5	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現（静止画、動画、Web）に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討	【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を決めるための資料を収集する。	60
6	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を決めるための資料を収集する。	60
7	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を決めるための資料を収集する。	60
8	一次制作	●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
9	一次制作	●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
10	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
11	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
12	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
13	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
14	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
15	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
16	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
17	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
19	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
20	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
21	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
22	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
23	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
24	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
25	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
26	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
27	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
28	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
29	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
30	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
31	二次制作（卒業制作展出品作品の制作）	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
32	二次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
33	二次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
34	二次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
35	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール，想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
36	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール，想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
37	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
38	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
39	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
40	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
41	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて，入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
42	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて，入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
43	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
44	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
45	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
46	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
47	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
48	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
49	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
50	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
51	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
52	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
53	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
54	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
55	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
56	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
57	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。	60
58	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。	60
59	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。	60
60	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】卒業研究発表に向けて、準備する。	60

授業名	卒業研究（杉本 ゆか）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	図書館情報学研究における基礎となる技術と理論の樹立と展開を目指し、学問的に有益であり、かつ地域社会への貢献が期待できる研究の進行をめざす。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について解説していく。 タイミングを見ながら論文執筆の進捗状況に関するレポートの提出を求め、提出されたレポートに対して適切な指導をおこなう。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科 2年次に所属する学生（司書ユニットを受講していることが望ましい）	成績の 評価方法・基準	完成した卒業論文および卒研報告会における発表・発表資料等を総合的に評価する。	
テキスト	特になし（必要なテキストはその都度作成配布）			
参考書	特になし（必要なテキストはその都度指定する）			
学生への要望	特になし			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分ー16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	毎回教員を交えたディスカッションをおこなう。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業研究の立案（1）	研究目的の明確化	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
2	卒業研究計画の立案（2）	論点整理	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
3	卒業研究計画の立案（3）	論文構成の当初計画作成	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
4	卒業研究の立案（4）	参考文献の洗い出し	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
5	参考文献の収集と読解（1）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
6	参考文献の収集と読解（2）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
7	参考文献の収集と読解（3）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
8	参考文献の収集と読解（4）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
9	参考文献の収集と読解（5）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
10	参考文献の収集と読解（6）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
11	論文の構成準備（1）	当初計画に基づく論文構成の確認と論文における議論の構築	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
12	論文の構成準備（2）	当初計画に基づく論文構成の確認と論文における議論の構築	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
13	論文の構成準備（3）	当初計画に基づく論文構成の確認と論文における議論の構築	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
14	論文執筆（1）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
15	論文執筆（2）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
16	論文執筆（3）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
17	論文執筆（4）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	中間発表	ゼミ内での卒業研究中間発表とゼミ生による相互確認	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
19	論文執筆（５）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
20	論文執筆（６）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
21	論文執筆（７）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
22	論文執筆（８）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
23	論文執筆（９）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
24	論文初校提出	卒業研究本文ならびに要旨提出	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
25	初校修正（１）	本文における問題点の洗い出しと推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
26	初校修正（２）	本文における問題点の洗い出しと推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
27	論文修正提出	修正稿の提出と確認	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた発表の準備に取り組むこと	60
28	論文修正稿確認、論文完成	提出用論文の完成	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた発表の準備に取り組むこと	60
29	卒研発表用資料確認	卒研発表用パワーポイント資料の提出と確認	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた発表の準備に取り組むこと	60
30	卒研発表会リハーサル	卒業研究発表会リハーサル	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた発表の準備に取り組むこと	60

授業名	卒業研究（知野 愛）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎知野 愛			
開講期	通年			
授業の概要	家族社会学、女性史(日本近現代)に関するテーマの中から、自分の課題を主体的に決定し、各自のテーマについて調査研究する。半期に2回程度、中間発表会を行い、お互いの進捗状況を知り質疑応答や議論をしてさらに発展させる。			
授業の到達目標	自分の課題をどのように調査研究したか、他のメンバーに説明ができ質問に応じることができ、ディスカッションができること。最終的には、論文（複数で1テーマを追う場合などはレポート冊子）の形でまとめ、卒業研究発表会で発表する。			
履修条件	地域創成学科 2 年生	成績の 評価方法・基準	中間報告会での発表内容(10点)、卒研発表会での発表内容(10点)、論文(80点)	
テキスト	なし			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	積極的に調査研究を行い、地道に論文作成に取り組むこと			
位置付け・水準	位置づけ水準:CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係 ： 創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
オフィスタイム	(Ⅰ期)火曜Ⅱ限、Ⅲ限、(Ⅱ期)月曜Ⅱ限、Ⅲ限。 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			
アクティブラーニング実施内容	必要に応じてフィールドワークを実施する			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスに基づき授業内容、目標、成績評価の付け方などを説明する。卒論のテーマを決めるようにする。年間計画についても確認する。	復習:各自のテーマが、すでにどのように研究されているのか、インターネット検索し先行研究を調べる。その結果を報告書に書いて提出する。	60
2	論文形式の確認	毎回パソコンを持参する。パソコンでのレポート作成上の注意点を確認する。	論文の書き方に関する資料を渡すので、それをよく読む。目次の構成などをどうするか、1枚に書き出して提出する。	60
3	研究倫理	研究倫理、特に著作権の問題について学ぶ	予習・復習:先行研究、論文・書籍類を図書館などで入手し、次回持参する。内容を読む。	60
4	研究テーマに関する本を探す	各自で関連図書(先行研究)を探し、自分のテーマに関連する部分を書き留める。(引用箇所は著者名『書名』出版社、出版年、ページまで書いておく)	先行研究を一冊ずつ読み進める。その概要を書き出していく。	60
5	論文構成の確認	「テーマ」「目次」を所定のフォーマットに従って作成し提出する。	論文構成を考える。先行研究をよく読み、引用する部分を考える。	60
6	テーマ発表(中間発表1)	卒研生同士で「各自のテーマ」と「関連図書で述べられていること」、「それに対して自分はどういうことを証明したいのか」「何に焦点をあてて何を明らかにしたいのか」を発表し質疑応答する。	発表が終わった人は次の段階へ進む。先行研究を読み、各自の調査を進める。	60
7	見直し・修正	前回までの質疑応答を経て、自分のテーマや内容を見直し作成することに各自で取り組む。	論文構成を考える。修正する。	60
8	テーマ発表(中間発表2)	卒研生同士で上記のテーマについて発表し話し合う。2回目	発表が終わった人は次の段階へ進む。先行研究を読み、各自の調査を進める。	60
9	論文構成の確認	「テーマ」「目次」を見直したものを再度提出する。	論文に関する本を読む。	60
10	論文構成を知る	前回提出したものを全員で発表しあう。	他の人の論文構成も参考にして修正などする。	60
11	論文作成	パソコンを持参して教室で卒業論文を作成する。個別に相談に応じる。	先行研究の調査結果、各自のデータ調査結果などをパソコン入力する。	60
12	論文作成	パソコンを持参して教室で卒業論文を作成する。個別に相談に応じる。	先行研究の調査結果、各自のデータ調査結果などをパソコン入力する。	60
13	論文作成	パソコンを持参して教室で卒業論文を作成する。個別に相談に応じる。	先行研究の調査結果、各自のデータ調査結果などをパソコン入力する。	60
14	論文作成	現在の進行状況を卒研生全員の前で発表する。卒論作成上の疑問点などがあれば質問を受け付ける。皆で疑問点を解消する。夏季休業中にすることを確認。	先行研究の調査結果、各自のデータ調査結果などをパソコン入力する。発表準備をする。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	発表、質疑応答	現在の進行状況を卒研生全員の前で発表する。卒論作成上の疑問点などがあれば質問を受け付ける。皆で疑問点を解消する。夏季休業中にすることを確認。	発表した結果、修正をする。各自の調査を進める。	60
16	進捗状況の発表	各自が中間発表で指摘された点などを修正。夏休み後に進行状況を発表する。	中間発表を経て、あらためて、研究テーマ・研究方法・内容についての計画を点検する。	60
17	研究調査	各自で作成作業をすすめる。各自の質問などを随時受け付ける。	論文構成を踏まえて調査を進める。質問疑問点があれば次回質問できるように整理しておく。	60
18	進捗状況の発表	各自が調査してこれまでにできた部分を発表し質疑応答する。	中間発表を経て、あらためて、研究テーマ・研究方法・内容についての計画を点検する。	60
19	研究調査	各自で作成作業をすすめる。各自の質問などを随時受け付ける。	論文構成を踏まえて調査を進める。質問疑問点があれば次回質問できるように整理しておく。	60
20	要旨集原稿作成	卒論要旨集の原稿を作成して提出し教員のチェックを受ける。	要旨集原稿を作成し、自分の論文の要旨は何かをまとめる。	60
21	要旨集原稿作成、提出	卒論要旨集の原稿を修正し最終的に提出する。	要旨集原稿を作成し、自分の論文の要旨は何かをまとめる。	60
22	要旨集原稿確認、全体構成の確認	全員の卒論要旨集の原稿を教員が確認し修正点を修正する。チェックが済んだ人は、各自の作業を進める。	フィードバックを踏まえて、論文内容を見直し、足りない部分を調べて書き加える。	60
23	要旨集原稿確認、全体構成の確認	全員の卒論要旨集の原稿を教員が確認し修正点を修正する。チェックが済んだ人は、各自の作業を進める。各自の研究を進めてパソコン入力し、論文にまとめられるようにする。	フィードバックを踏まえて、論文内容を見直し、足りない部分を調べて書き加える。	60
24	要旨集原稿最終提出	卒論要旨集の原稿提出締め切りまでにUSBにデータを入れて提出する。	指摘事項などを訂正し、修正作業をする。	60
25	研究調査内容の発表と質疑応答(1)	卒論内容を卒研生同士で発表し、質疑応答して気づいた点を加筆修正する。	指摘事項などを訂正し、修正作業をする。	60
26	研究調査内容の発表と質疑応答(2)	卒論内容を卒研生同士で発表し、質疑応答して気づいた点を加筆修正する。	フィードバックを踏まえて、論文内容を見直し、足りない部分を調べて書き加える。	60
27	研究調査内容の確認	卒論をおおよそ完成させUSBでデータを提出する。	指摘事項などを訂正し、修正作業をする。	60
28	論文完成へ向けて	冬季休み明けに、各自責任をもって所定の場所へ提出する。	卒論完成後、卒論発表会で使用するパワポ作成に自宅ですりかかると。	60
29	卒論発表会のパワポ確認	卒論発表会でのパワポを完成した人から発表し質疑応答、修正作業をする。目安16～20枚程度。	卒論完成後、卒論発表会で使用するパワポ作成に自宅ですりかかると。	60
30	発表予行練習	卒論発表会で使用するパワポを持ち寄り、卒研生同士で発表し質疑応答する。	卒論発表会の質疑応答などで気づいた点があれば修正する。	60

授業名	卒業研究（仲田 佐和子）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎仲田 佐和子			
開講期	ⅢⅣ			
授業の概要	2年間の学びの総まとめとして、独自の課題をみつけ、調査、資料収集をおこないます。そこから論理的な考察を経て論文に仕上げていきます。課題は博物館学（博物館教育論、博物館展示論等）を基本とします。博物館は生涯学習施設であることをふまえ、幅広く柔軟な考え方で、今後の博物館を含む生涯学習施設と学生の社会との関わりについても展望します。論文に仕上げるまで、レポートや論文下書きを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準CD2101			
授業の到達目標	①自ら問題意識を持って選択したテーマについて調査研究し、論理的かつ創造的にものごとを考えることができる能力を修得する。（創造的思考力） ②専門分野の探求煮おいて各分野の多様性を理解するとともに、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につける。（課題解決力） ③専門的な知識の探求を通して知見を得、それらを社会に貢献できる力を身につける。（主体的行動力）			
履修条件	短期大学部地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	卒業研究論文（80点） 卒業研究発表会での発表（20点） 60点以上で合格だが、80点以上を目指してほしい。	
テキスト	使用しない。			
参考書	各自のテーマ設定により、適宜、参考文献等を紹介します。			
学生への要望	博物館を含む生涯学習施設や社会全体に対して興味を持ち、自分が今後どのように関わっていくかを考えながら、柔軟な発想をしてほしい。			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	主体的行動力			
オフィスタイム	月曜日・Ⅳ時限、火曜日・Ⅱ時限。創学館4階No.4研究室			
アクティブラーニング実施内容	研究の進捗に応じて、パワーポイントを用いた発表を行います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。	生涯学習施設としての博物館の役割を考える。	90
2	資料の探し方	大学図書館での資料の探し方を学ぶ。	大学図書館へ行き、興味のある分野を探しておく。	90
3	テーマ設定①	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
4	テーマ設定②	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
5	テーマ設定③	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
6	テーマ設定④	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
7	テーマ設定⑤	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
8	論文の構成を考える①	論文全体の構成を考える。	図書館で不足している資料を調査する。	90
9	論文の構成を考える②	論文全体の構成を考える。	図書館で不足している資料を調査する。	90
10	論文の構成を考える③	論文全体の構成を考える。	図書館で不足している資料を調査する。	90
11	論文の章立てを行う①	構成から大まかな章立てを考える。	資料を深く読み込み、自分なりの課題を見つける。	90
12	論文の章立てを行う②	構成から大まかな章立てを考える。	資料を深く読み込み、自分なりの課題を見つける。	90
13	論文の章立てを行う③	構成から大まかな章立てを考える。	資料を深く読み込み、自分なりの課題を見つける。	90
14	Ⅲ期のまとめ	これまでで明らかになったことを整理する。	参考にした資料をまとめておく。	90
15	今後の進め方について	夏休みにやるべきことを明確にする。	参考にした資料をまとめておく。	90
16	論文執筆①	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
17	論文執筆②	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
18	論文執筆③	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	論文執筆④	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
20	論文執筆⑤	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
21	論文執筆⑥	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
22	論文執筆⑦	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
23	論文執筆⑧	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
24	論文執筆⑨	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
25	論文執筆⑩	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
26	論文のまとめ	論文に誤植がないか、確認する。	自分の論文を丁寧に読み返す。	90
27	卒業研究発表会準備①	卒業研究発表会の発表原稿をつくる。	発表時間内に発表できる原稿をつくる。	90
28	卒業研究発表会準備②	卒業研究発表会の発表原稿をつくる。	発表時間内に発表できる原稿をつくる。	90
29	卒業研究発表会準備③	卒業研究発表会のパワーポイントをつくる。	発表に合わせたパワーポイントをつくる。	90
30	卒業研究発表会リハーサル	パワーポイントと発表が時間内に行えるかを確認する。	発表会の最終確認をおこなう。	90

授業名	卒業研究（福島 寅太郎）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎福島 寅太郎		
開講期			
授業の概要	授業の概要】 卒業研究は文化学科２年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられています。授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画しています。 〔授業の目的・ねらい〕 ①地域創成学科の卒業生として必要な文化知識を習得させること。 ②幅広い専門知識を養わせること。 ③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。 位置づけ・水準:CD2101		
授業の到達目標	所属学生の問題関心にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。 なお、卒業論文（1200字以上）の提出日および最終発表会は別途にて指示する。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係:創造的思考力、課題解決力、主体的行動力		
履修条件	短大地域創成学科 2年	成績の 評価方法・基準	論文成績60点、ゼミにおける発表20％、ゼミにおける参加態度20％など。理解度 8 割で、合とする。
テキスト	とくに指定しない		
参考書	個々の卒業研究のテーマに合わせて案内する		
学生への要望	・ 授業に積極的に参加すること。 ・ ノートをこまめにとること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	『卒業研究手引き』を使いながら、ゼミのやり方と流れについて話す。1年生の授業を復習し、その中から課題を見つける試み	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
2	課題1 宗教史	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
3	課題2 神話	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
4	課題3 神と仏	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
5	課題4 神仏習合の歴史	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
6	課題5 神仏と中世（1）	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
7	課題6 神仏と中世（2）	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
8	課題7 世俗と宗教（1）	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
9	課題8 世俗と宗教（2）	課題を発見する方法を学ぶ。参考文献案内	参考文献を読み、理解すること	1.5
10	課題8 神道とナショナリズム（1）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
11	課題9 神道とナショナリズム（2）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
12	課題10 近代化と宗教（1）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
13	課題11 近代化と宗教（2）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
14	課題12 民衆宗教の形成	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	前期のまとめ	中間発表。個々のテーマを確定する。		1.5
16	後期のガイダンス			1.5
17	ゼミ発表	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
18	ゼミ発表	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
19	ゼミ発表	先行研究の紹介とその問題点について探る	参考文献を読み、理解すること	1.5
20	ゼミ発表	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
21	ゼミ発表	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
22	ゼミ発表	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
23	ゼミ発表	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
24	ゼミ発表	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
25	前半の各自の発表の反省と改善点、卒業論文の作成に向けて	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
26	論文の構想発表	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
27	前回の続き。構想発表	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
28	前回の続き。構想発表	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
29	まとめⅠ	論文の完成を確認する	卒業研究手引きを読み、よく理解すること	1.5
30	まとめⅡ	論文の完成を確認する	卒業研究手引きを読み、よく理解すること	1.5

授業名	卒業研究（米本 順子）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期	Ⅲ～Ⅳ期		
授業の概要	絵画というものは精神性なくして成立しないことは当然ですが、同時にその精神は素材を通して表現されます。故に技術と精神は切り離しては考えられません。どうすれば自分の表現したいものに近づけるか。作者はいつも技法の研究と発見に努力をしなければならないということです。この授業では油彩画Ⅰで学習した内容を基礎とし、更に一步踏み込んで学生各自の個性に合わせ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。 提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。なお教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割業務参加などで補填します。		
授業の到達目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで、個性ある自分だけの絵画空間を創りあげ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。		
履修条件	地域創成学科 2年生 油彩画Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	教科書は特に使用しません。		
参考書	・新技法シリーズ絵画入門 … 佐藤一郎著（美術出版社） ・彩色技法 … J・M バラモン（グラフィック社） ・その他、授業に関する画集・資料などは適宜指示します。		
学生への要望	油彩画の大作を描くことの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望む。また、空き時間を有効に活用し十分に時間をかけて、制作を進めること。		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力を、油彩画作品制作を通し養う。		
オフィスタイム	木曜Ⅰ限		
アクティブラーニング実施内容	卒業制作展や各展示会への出品に向けて、作品サイズ・技法・構図・主題等について、学生が自主的に判断・工夫し取り組む。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業研究履修についてのオリエンテーション	・各自、卒業研究の目標を確認します。 ・1年間の授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検—各自で油絵具や筆などを点検して不足分の補充をして下さい。（作品の大型化に伴い、大型ペインティングナイフの準備等）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。	30
2	同上	・静物画及び自由画どちらかを選び、それぞれモチーフ作りやエスキースを始めます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
3	静物画、自由画制作－1	… 作品制作 ・各自で制作日程を検討し、作品完成までの計画を立てましょう。 ・静物画に関しては身近な“物”の美しさを発見し、自分の内的感情を迫及し作品にしていきましょう。 ・自由画に関しては自分のテーマ、進め方について考えましょう。 ・木枠を組み立て各自でキャンパスを張ります。（大型化のため、共同作業。）	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
4	同上	… 作品制作 ・木枠を組み立て各自でキャンパスを張ります。（大型化のため、共同作業。）	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、張り終ったキャンパスを整理しておく。	30
5	静物画、自由画制作－2	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
6	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めていきましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	静物画、自由画制作－3	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみしましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めていきましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	静物画、自由画制作－4	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
10	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では人物とは異なる“物”の持つ形の面白さに着目しながら組合わせをして表現しましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	静物画、自由画制作－5	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
12	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与えてみましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	静物画、自由画制作－6	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
14	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では床、モチーフ台、モチーフ、背面の関係をもう一度確認してみましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	静物画、自由画制作－7	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
16	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例としては、色相反対色は強烈な印象、同系色は統一した印象になる等。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
17	静物画、自由画制作－8	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
18	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略しながらいい形を探っていきましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
19	静物画、自由画制作－9	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
20	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握していきます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
21	静物画、自由画制作－10	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
22	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが描きこむ事によって表現が硬くならないように注意しましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
23	静物画、自由画制作－11	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描きだしの新鮮さを想いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみるなど、工夫をしましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
25	静物画、自由画制作－１２	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
26	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきましたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
27	静物画、自由画制作－１３	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
28	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成とします。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	静物画、自由画講評会	…講評会 ・仕上がった作品を並べ、画集や参考作品なども用いながら講評します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
30	同上	…講評会 ・質問や意見交換も多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指します。	【事後学習】講評会実施を踏まえ、自分の作品の出来栄や見え方を確認・検証しておく。	30
31	オリエンテーションとエスキース制作	※これよりⅣ期 ・残り半期の授業内容や使用道具の説明をします。 ・道具点検－各自で、油絵具や筆などを点検して不足分の補充をしましょう。 ・卒業制作をイメージしながら80号以上のキャンパス１点と小キャンパスを5～6枚準備して下さい。	【事前学習】授業に関連する使用道具や材料などを事前に調べておく。	30
32	同上	…作品制作 ・卒業制作をイメージしながら少しずつエスキースをしましょう	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
33	構成画制作－１	…作品制作 ・構成画制作では今までの油彩画やデッサンで学んだことを踏まえ、構想を練りましょう。 ・各自、効率的な制作日程を検討し、計画を立てましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
34	同上	…作品制作 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
35	構成画制作－２	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、いい形を探って行きましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
36	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、"良い形"を探っていきましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
37	構成画制作－３	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・作品制作・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
38	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集等を適宜見ながら、徐々に進めていき、まとめに入ります。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
39	構成画作品講評会	…作品講評 ・仕上がった構成画作品を並べ参考作品や画集等も用いながら講評します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
40	同上	…作品講評 ・質問や意見交換も多角的に行ない油彩画構成制作の目標達成を目指します。	【事後学習】作品講評内容を踏まえ、自分なりに指摘点を整理しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
41	市民展搬入準備	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。	【事前学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方を事前に確認しておく。	30
42	同上	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。 ・額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。	【事後学習】作品搬入に際し、道具や機材、搬入する作品を整理しておく。	30
43	市民展見学	…市民展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。	【事前学習】市民展見学に際し事前に、この展覧会の会場や歴史を調べておく。	30
44	同上	…市民展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。	【事後学習】市民展見学後に、展示された自分の作品の見え方や展示方法を確認・検証しておく。	30
45	卒業制作－ 1	…ガイダンス ・油彩画の平面作品に限定せず他の素材を使った立体作品またはインスタレーションなど表現方法は自由とします。 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースします。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
46	同上	… 作品制作 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースします。 ・各自、制作日程を検討し、計画を立てましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
47	卒業制作－ 2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
48	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略しながら、いい形を探って行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
49	卒業制作－ 3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
50	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握して行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
51	卒業制作－ 4	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
52	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが描き込むことによって表現が硬くならないように注意をしましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
53	卒業制作－ 5	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
54	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描き込むことによって表現が硬くならないように注意しながら完成へと向かいます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
55	卒業制作－ 6	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
56	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
57	卒業制作作品搬入準備	…作品の完成、搬入準備 ・卒業制作作品の額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。	【事前学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方を事前に確認しておく。	30
58	同上	…作品の完成、搬入準備 ・会場展示のプレゼンテーションをします。	【事後学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方の復習・検証をしておく。	30
59	卒業制作作品講評会	…講評会 ・完成した作品は卒業制作展において展示し、2年間の学習の成果として発表します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。	30
60	同上	…講評会及び意見交換 ・各自、作品の前で質問や意見交換も多角的に行ないながら講評します。 ・一年間の総評をします。	【事後学習】講評会実施を踏まえ、自分の作品の出来栄えや見え方を確認・検証しておく。また、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30

授業名	卒業研究（會田 容弘）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎會田 容弘		
開講期			
授業の概要	【授業の目標・ねらい】 卒業研究は地域創成学科 2 年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられる。専門分野にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められる。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本である。 【授業の概要】 授業では各自の問題関心に合わせながら、考古資料の取り扱い方と観察方法、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画している。授業では毎回課題を課し、次の授業で発表を行う。それにコメント、添削を加え、論文基礎資料とする。なお、卒業論文（A 4 版12000字以上）の提出日は2021年1月14日（木）、発表会は2月2日（火）。 位置付け・水準：CD2101		
授業の到達目標	【到達目標】 ・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。 ・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。 ・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。 ・DPとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力、単位認定基準は成績評価基準に基づき、7割以上の理解が望ましい。		
履修条件	地域創成学科 2 年生	成績の 評価方法・基準	【成績評価法】 ・授業における内容の発表（30点） ・卒業論文の内容は論理的で創造的であること（50点） ・卒業研究発表会（20点）
テキスト	會田 著述「短大生のための考古学論文作法」（私家版）		
参考書	『文化学科（資格課程）報告集』第4～21集『地域創成学科報告集』第1～4集		
学生への要望	1年間かけてじっくりと自分の研究テーマを完成させてほしい。それにはたゆまず考古学の勉強をすることが必要である。授業は課題研究と発表および実習である。課題を調べることが予習である。発表および実習の指摘点を修正するのが復習である。 一日30分を考古学の時間に充ててほしい。		
位置付け・水準	実践的な技術を習得し、次のステップを目指すことをめざす。		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：研究能力と研究課題解決能力		
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので考古学実習室に在室であればいつでも対応します。		
アクティブラーニング実施内容	授業は毎回課題解決を行い、それを発表する。また、考古学は基礎的技術習得も必要である。資料の実測、写真撮影などの実習では、自分で納得できるまで行う。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。考古資料を用いた実際的な研究を行ってきた経験を授業に生かし、指導する。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	研究倫理の説明を行う。考古資料・文化財を研究に利用する場合の手続き、調査研究方法、卒業論文作成の過程を説明する。	自分の興味ある分野と卒論担当教員の説明が一致しているかどうか十分検討する。	30
2	論文作成の動機付け（1）	対話を行いながら、興味ある対象が考古学研究の対象であるかないか、どのようにすれば考古学・博物館学・文化財学研究となるかを明らかにする。	自分の研究テーマ候補をいくつか考え、自分の興味がどこにあるのか整理する。	30
3	論文作成の動機付け（2）	実際の考古資料（笹山原遺跡No.16出土資料）を観察する。	資料観察を授業時間外にも行う。	120
4	論文作成の動機付け（3）	會田の最新論文（「考古学動作連鎖研究の社会的効用—遺跡博物館での活用法—」『考古学研究』第64巻第4号pp.31-35（2018.3）「上屋地遺跡B地点出土石器群の石器技術学的再検討」東北日本の旧石器文化を語る会編『東北日本の旧石器時代』pp.239-254（2018.5.31））の読み合わせを行い、考古学論文の構成・資料・提示方法などを説明する。	論文を読み、読書ノートを作成する。	120
5	論文資料の決定	論文で扱う資料を決定する。実物考古資料、文献考古資料、現地遺跡などにより論文作成方法は異なる。	文献リストを作成する。	120
6	資料操作方法（1）	取り扱う資料（遺物（石器・土器・骨角器・自然遺物・木製品・金属器）遺構（住居・土坑・古墳））によりその折扱い方が異なる。基本的な資料の取り扱い方法を説明し、論文作成に備える。	文献リストを作成する。	120
7	資料操作方法（2）	資料操作の実習。土器であれば個体分類、接合作業。石器であれば石材分類、接合作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
8	資料化作業（1）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	資料化作業（２）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
10	資料化作業（３）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
11	資料化作業（４）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
12	資料化作業（５）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
13	資料化作業（６）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
14	資料化作業（７）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
15	中間発表	操作した資料がどのような状況にあるか、報告する。さらにその資料から何が言えそうか対話により検討する。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
16	図化作業（１）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
17	図化作業（２）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
18	図化作業（３）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
19	図化作業（４）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
20	図化作業（５）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
21	図版レイアウト	図化した図版をレイアウトし、図版を作る。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
22	論文作成（１）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
23	論文作成（２）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
24	論文作成（３）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
25	論文作成（４）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
26	論文作成（５）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
27	研究史上の位置付け	記述した資料がどのような位置にあるものか、指導教員が関連文献を提示し、記述する。	論文執筆。	120
28	考察の執筆（１）	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。	論文執筆。	120
29	考察の執筆（２）	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。	パワーポイント作成。	120
30	発表データ作成および予行	卒業論文発表会に向けてパワーポイントを作成し、実際にそれを持ちいて発表の練習を行う。	パワーポイント修正。	30

授業名	児童サービス論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎柳沼 志津子		
開講期	I 期		
授業の概要	①児童サービスは、図書館が行う利用者へのサービスの中でも人生の最初に出会い、人格形成やその後の人生に大きな影響を与えることから最も大切なサービスであるといえます。 ②当講義は、公共図書館で行われる「児童サービス」の意義・歴史をふまえ実際の活動について演習を交えながら、その重要性について学びます。 ③「児童サービス」について理解を深めるための課題を通して、より具体的にサービスの内容を理解します。		
授業の到達目標	【目標】公共図書館における児童サービスの意義・運営・活動などについて学ぶとともに、その重要性を理解する。 【課題】①レポート「あなたにとっての図書館（読書）の思い出」②演習の中での実習（読み聞かせ、ブックトーク、アニメーション、紹介文等への取り組み。その都度指示）③レポート「私が考える児童図書館員」		
履修条件	地域創成学科学生	成績の 評価方法・基準	課題演習 6 0 %（課題・実習への取り組み等） 参加態度 2 0 %（聴講態度・積極性・質問等） 総合評価 2 0 %
テキスト	特に使用しません。都度、資料を配布します。		
参考書	『児童サービス論 新訂版 JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 6』堀川照代：編著 日本図書館協会 2020年、『児童図書館サービス論』赤星隆子・荒井督子 編著 理想社 2010年、『児童サービス論 現代図書館情報学シリーズ…6』植松貞夫・鈴木佳苗 編著 樹村房 2012年、『児童サービス論 地域とつながる公共図書館の役割 講座図書館情報学 7』伊香左和子・塚原博 編著 ミネルヴァ書房 2023年、『子どもと本』松岡享子 岩波書店 2015年、『えほんのせかいこどものせかい』松岡享子 日本エディタースクール出版部 1987年、『がんばれ！児童図書館員』杉山きく子 本作り空 Sola 2014年 、『あの本この本どんな本 子どもの本の紹介文の書き方』川上博幸 児童図書館研究会近畿支部 2016年 他		
学生への要望	課題の提出は必須、演習には積極的な態度で参加してください。		
位置付け・水準	CD2111		
ディプロマポリシーとの関係	知識、理解		
オフィスタイム	月曜 I 時限終了後		
アクティブラーニング実施内容	なし		
実務家教員の経歴	私立図書館館長		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、自己紹介、概要説明 児童図書館・児童図書館員とは何か	「児童サービス論」の進め方について	講義を聞き、内容を理解する。課題①「あなたにとっての図書館（読書）の思い出」（800字～1200字以内）記入・提出（第2回目に提出）	60分
2	児童サービスの意義・歴史	公共図書館における児童サービスの意義と児童サービスの歩みについて学ぶ。	資料を再読し、理解を深める。	60分
3	子どもの読書の意義と子どもの読書の発達	子どもの読書はいかに大切か、その意義と子どもがどのように読書を身につけていくか発達段階を追って学ぶ。	資料を再読し、理解を深める。	120分
4	児童資料の種類と特色	子どもの本の種類とその特色について学ぶ。	資料を再読し、理解を深める。	120分
5	児童資料の選書と管理	児童資料の選書と管理、蔵書構成等について	資料を再読し、理解を深める。	120分
6	児童サービスの諸活動 児童サービスの運営	児童資料の提供、レファレンスサービス、フロアワーク、行事、展示、PR活動 児童サービスの運営、管理、評価、施設等について	資料を再読し、課題②実際の図書館でどのような行事を行っているか調べてレポートを作成・提出（第11回目に提出）	180分
7	子どもと本をつなぐ技術・児童サービスの実際① 絵本の読み聞かせとストーリーテリング【演習あり】	絵本の読み聞かせ、ストーリーテリングについて実演を交えながらその意義や大切さについて学ぶ。	資料を再読し、課題③自分が読み聞かせをしたい絵本・お話を選び、練習・発表をする。（発表は第11・12・13・14回で行う）	180分
8	子どもと本をつなぐ技術・児童サービスの実際② ブックトーク【演習あり】	ブックトークについて実演を交えながらその意義について学ぶ。	資料を再読し、実演した課題④ブックトークの感想・意見を記入・提出する。（第9回目に提出）	180分
9	子どもと本をつなぐ技術・児童サービスの実際③ 読書へのアニメーション【演習あり】	読書へのアニメーションについて実演を交えながらその意義について学ぶ。	資料を再読し、実演した課題⑤アニメーションの感想・意見を記入・提出する。（第10回目に提出）	70分
10	子どもと本をつなぐ技術・児童サービスの実際④ 本の案内・紹介文の書き方【演習あり】	子どもや保護者へ適切な本を案内する手段として紹介文の書き方を学び、その必要性を学ぶ。	資料を再読し、課題⑥紹介したい本の紹介文を書く。（第12回に提出）	180分
11	乳幼児サービス	乳幼児サービスの意義と実際の活動について学ぶ。	資料を再読し、理解を深める。	60分

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	ヤングアダルトサービスと支援 の必要な子どもへのサービス	ヤングアダルトサービスと支援が必要な子どもへのサービスの意義と実際の活動について学ぶ。	資料を再読し、理解を深める。 課題⑦「私が考える児童図書館員」（８００～１２００字）作成・提出（第１４回に提出）	１２０分
13	公共図書館と学校図書館 （アウトリーチサービス）	学校図書館の現状と公共図書館と学校図書館の連携、その他関連団体への図書館サービス（アウトリーチサービス）について学ぶ。	資料を再読し、理解を深める。	１２０分
14	子どもの読書活動の推進と公共 図書館	自治体の子どもの読書活動の推進と地域の諸機関・団体との連携・協力	資料を再読し、理解を深める。	６０分
15	児童図書館員のキャリア・スキルアップ 児童図書館の現状と課題	児童図書館員のスキルアップ、児童図書館の現状と課題について学ぶ。	資料を再読し、理解を深める。	６０分

授業名	図書館サービス概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	公共図書館をはじめとする各館種で行われている「図書館サービス」の種類とそのあらましを学ぶ。図書館サービスの内容を覚え、図書館で働く際はもとより、図書館を利用する側になったときも、的確なサービスを選択し図書館を効率的に利用できる社会人になる。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していくとともに、学生自らが図書館サービスを調査報告する課題と機会を設けて、学生が主体的に学ぶことを身につける。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績の 評価方法・基準	レポート5割、期末試験5割	
テキスト	講義ではその都度プリントを配布します			
参考書	参考書よりも、自ら図書館利用者となって足繁く通い、実際に様々なサービスを楽しむことが講義の参考になります			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2112			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。☑			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分～16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	受講生は、主に公共図書館で現在提供されている個々の図書館サービスについて調査し、その成果を授業内で報告する。報告の際、他の受講生から質問を最低でも3問受け付け、報告を担当している受講生は質問に回答することを必須とする。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「図書館サービス」のあらまし：意義と理念	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「図書館サービス」とは（1）	実際に行われている「図書館サービス」の類型	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「図書館サービス」とは（2）	「図書館サービス」は外部からどのように見られているか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	学生による事例報告（1）	国立国会図書館、移動図書館、専門図書館、病院図書室	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	学生による事例報告（2）	コレクション構築（蔵書構成論）、蔵書管理、閲覧・貸出、予約・リクエスト	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	学生による事例報告（3）	複写サービス、参考図書、地域資料、逐次刊行物（継続資料）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	学生による事例報告（4）	オーディオ・ヴィジュアル（AV）資料、新聞、上映会、演奏会	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	学生による事例報告（５）	地域交流・集会，読書会，TRPG・ボードゲーム，レファレンスサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	学生による事例報告（６）	レフェラルサービス，エンベディット・ライブラリアン，広報，展示	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	学生による事例報告（７）	利用者支援（利用者教育），読書通帳，児童サービス，ヤングアダルトサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	学生による事例報告（８）	認知症の方へのサービス，多文化サービス，法情報サービス，視覚・聴覚障害者へのサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	学生による事例報告（９）	アウトリーチサービス，ビジネス支援・課題解決型サービス，電子書籍，医療情報サービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	学生による事例報告（１０）	学校図書館との相互協力，大学図書館との相互協力，博物館・美術館との連携，公民館との連携	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	まとめ（１）	「図書館サービス」計画の策定と評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ（２）	「図書館サービス」のこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について，図書館用語集等で復習するとともに，次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館情報資源概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	図書館で扱う情報資源の歴史について学ぶ。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
授業の到達目標	目標は①図書館で扱う情報資源は一朝一夕にいまの形になったものではないことを8割理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート3割、期末試験7割で評価します。	
テキスト	その都度プリントを配布。			
参考書	NDC014, 021, 023に分類される書籍			
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2113			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。☑			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分－16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館情報資源概論について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館情報資源（1）	図書館情報資源の意義 情報革命と活字文化	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	情報資源組織（2）	図書館情報資源の類別 図書館員の専門性：資料を知ること	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	印刷資料	図書 雑誌 新聞 小冊子・地図、その他資料	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	非印刷資料	点字・録音資料 マイクロ資料 映像資料 音声資料	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	電子資料（1）	電子資料 ネットワーク情報資源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	電子資料（2）	図書館資料のデジタル化 電子コンテンツ 電子出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	資料特論	灰色文献 政府刊行物 地域資料 人文・社会科学分野の情報資源 自然科学・技術分野の情報資源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	出版流通システム	出版の意義 出版・書店・図書館 出版流通経路 再販制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	図書館の「知的自由」	図書館の自由 「図書館の自由」と検閲 図書館の自由に関する宣言 図書館情報資源と著作権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	蔵書論	蔵書の意義 収集方針 複本と予約 蔵書の更新	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	収集と選択	選書の意義 選書論 選書の方法 選書のための情報源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	蔵書管理	蔵書評価法 除籍と廃棄 資源共有 分担収集 分担保存	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	資料の組織化	受入業務 登録業務 資料の装備 予算の管理	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	書庫管理	書庫管理の意義 蔵書点検 保存とメディア変換	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	情報資源組織論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	図書館業務において「混沌（カオス）」から「秩序（コスモス）」を作り出し、利用者に必要な情報資源を提供しやすくしておくことの手段のひとつが「情報資源の組織化」であることを学ぶ。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
授業の到達目標	情報資源および情報資源の組織化に関する基礎的な知識を修得することを目標とする			
履修条件	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート4割，期末試験6割で評価します。	
テキスト	プリントをその都度配布します			
参考書	『知識資源のメタデータ』（谷口・緑川），『情報資源の組織化と提供』（根本・岸和田）など			
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2114			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分－16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	情報資源の組織化とは ・「情報資源」とは？ ・「情報資源の組織化」とは？ ・なぜ「情報資源」の「組織化」が必要なのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	情報資源組織の意義	図書館の機能と情報資源組織 情報資源組織業務の種類 情報資源組織業務の位置づけ 多様化するメディアと情報資源組織業務 情報資源へのアクセスと情報資源組織	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	書誌コントロール	書誌コントロールの定義と対象 国際・国内レベルの書誌コントロール 書誌コントロールと目録規則／分類法	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	書誌情報の作成・流通・管理	書誌ユーティリティの機能 OPAC MARC OPACの形成と利用 OPACのこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	コンピュータによる目録作業の実際	コピー・カタロギングとオリジナル・カタロギング 総合目録：集中型と分散型	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	目録法の基礎	目録法の基礎 記述目録法の概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	新しい目録規則：NCR2018	FRBR等の概念モデル RDAの概要 『日本目録規則2018年版』の構成 NCR1987からNCR2018へ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	目録作業の実際（1）	書誌階層の考え方と階層化の利点 記述の範囲 書誌記述の情報源 書誌データと記述の順序	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	書誌データの記述とアクセスポイント	タイトルの表示 責任表示 版表示 出版表示 キャリアに関する事項	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	多様な情報資源の組織化	地域資料・行政資料の組織化 パッケージ系のメディア オンライン情報資源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	目録作業の実際（2）	図書記号と著者記号	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	主題目録法	主題目録法の概要 『日本十進分類法』の概要 『基本件名表目録』の概要 シソーラスと件名標目表	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	分類法の基礎	分類法の概要 書架分類と書誌分類 分類記号法 分類方法論	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	日本十進分類法について	日本十進分類法について ・日本十進分類法の成立 ・日本十進分類法の概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ	・リクエストアワー（学生の質問とその回答）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館情報技術論		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	現在の図書館の現場において使われている情報技術（ICT）にどのようなものがあるかを学ぶとともに、これまでの歴史を踏まえ、技術を支える法制度の現状を見て、単なる知識の習得に終わらない、情報技術の「困難さ」をめぐる思考を深めていく。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。図書館サービスに有効に活用されている情報技術にどのようなものがあるかを学修し、エンドユーザーとして使いこなすことが可能になることを目指す。			
授業の到達目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート3割、期末試験7割で評価します。	
テキスト	プリントをその都度配布します			
参考書	『ITパスポート試験』『基本情報技術者試験』の教科書、参考書の類を読んでおくとう理解に役立ちます。 『電子書籍と電子ジャーナル』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版） 『メタデータとウェブサービス』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版）			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2115			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。☑			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分～16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	コンピューターと図書館 ・身の回りにあふれるコンピューティング ・個人情報の危険性 ・システムリスク ・コンピューターにおける3つのコアな技術 ・コンピューターと図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	コンピュータ（電子計算機）の簡単な歴史	アナログとデジタル ・アナログとは ・デジタルとは ・データをデジタル化する ・デジタル化されたデータの利点 ・アナログデータの利点	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	コンピュータの構成要素	ノイマン型コンピューターの基本構造 ・CPU（Central Processing Unit、中央処理装置） ・memory（メモリ、主記憶装置） ・storage（ストレージ、補助記憶装置） ・入力装置 ・出力装置	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	ソフトウェア	ソフトウェア ・「ハードウェア」との違い ・ソフトウェアに依存する社会 ソフトウェアの種類 ・システムソフトウェア ・オペレーティング・システム（OS） ・アプリケーションソフトウェア（「アプリ」または「ソフト」と呼ばれる）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	インターフェース	「インターフェース」とは ・ユーザーインターフェース ・マンマシンインターフェース ・ハードウェアインターフェース ・ソフトウェアインターフェース	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	インターネットの簡単な歴史	インターネットについて ・インターネットの基盤となる技術 ・インターネットとハイパーテキスト	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	日本のインターネット	日本のインターネット ・インターネット前史 ・インターネットの商用解禁	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	日本のインターネット	日本のインターネット（続き） ・Windows95と2000年問題 ・自然災害とインターネット	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	情報検索と検索エンジン	情報検索と検索エンジンの歴史 ・インターネット以前の情報検索（Information Retrieval）のはなし	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	情報検索と検索エンジン	情報検索と検索エンジンの歴史 ・「ポータルサイト」の時代 ・インターネット上の情報量の飛躍的な増加 ・Googleの登場（2000年）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	データベース	データベースのはなし ・そもそも「データベース」とは ・データベースの簡単な歴史 ・データベースの種類 ・リレーショナルデータベース	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	図書館システム	「図書館システム」とは 図書館システム導入の歴史 図書館システムの構成例	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館システム	図書館システムについて（続き） 図書館システムの現状と課題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	OPACのGoogle化？	OPACとリンクリゾルバ/ディスカバリーサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	セキュリティ	情報セキュリティについて	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館制度・経営論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	公共図書館の経営に関して必要な法制度および代表的な公共図書館経営論について学ぶ。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。図書館をとりまく環境（法律・政策・社会）やニーズ（社会的需要・利用者の要求）を考えながら、どのように経営されるのかについて理解を深める。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート3割、期末試験7割	
テキスト	その都度プリントを配布			
参考書	NDC013に排架されている書籍を中心に			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。			
位置付け・水準	CD2116			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分～16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館制度・経営論の前提 図書館制度・経営論で学ぶこと 地方自治・地方行政のしくみ 出版流通業界のこと 図書館法	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館の制度（1）	近代公共図書館の制度 図書館法	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	図書館の制度（2）	図書館の諸法 図書館に関連する諸法 外国の図書館法	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館の政策（1）	国の公共図書館政策 地方自治体の公共図書館施策	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館の政策（2）	国立図書館の政策 大学図書館の政策 諸外国の公共図書館政策	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館の経営（1）	図書館の経営 図書館の使命と目的 図書館の組織	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館の経営（2）	図書館の組織（復習） 図書館の計画 図書館の評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	図書館サービス設計（１）	図書館のサービス コミュニティ・ニーズの把握 サービス運営計画（サービス領域の設定）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	図書館サービスの設計（２）	図書館のマーケティング サービスと法制度：著作権法、個人情報保護法	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	情報資源の経営	情報資源の収集 情報資源の組織化・提供システム 情報資源利用の支援 情報資源に関する連携・協力	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	図書館施設の経営	図書館施設の設置 図書館建築のスペースの設計 バリアフリーと永続性のある設計 図書館のファシリティマネジメント 図書館における危機管理	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	人的資源の経営	図書館の人的資源 「司書」養成制度と図書館情報専門職 図書館組織の運営 リーダーシップと図書館長 組織風土と組織文化	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	財務と活動の集約	公共図書館の財務制度と財務計画 公共図書館の設置振興と補助金 公共図書館の財務状況 図書館サービスの課金 公共図書館の統計	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	図書館の広がる役割	コミュニティ基盤としての図書館 電子政府・自治体と図書館 社会的包摂：障害者・多文化サービス、高齢者・デジタルデバイド 図書館の社会的プログラム	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	新しい経営	新しい公共経営 公共図書館の運営の今後 公共図書館のブランド 情報装置のバリアフリーとユニバーサルデザイン 21世紀の図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	情報サービス論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	まず各自の情報リテラシーを高め、その上で図書館における情報サービス（主にレファレンス）業務に関する知識を学ぶ。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。情報を取り扱うための新しい情報サービスについて学修し、情報を選択するための多様な手段を習得する。			
授業の到達目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績の 評価方法・基準	レポート4割、期末試験6割で評価します。	
テキスト	その都度プリントを配布。			
参考書	NDC015に分類される書籍			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2117			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分～16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「情報サービス」の意義 現代社会の情報サービス機関 図書館の情報サービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	情報サービスの基礎	レファレンスサービスの構造 情報利用のための情報源の整備 質問回答サービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	情報サービスの展開	利用指導／利用案内 レフェラルサービス カレントアウェアネスサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	多様な情報サービス	読書相談／学習相談 地域情報の提供／発信 専門的な情報提供	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	デジタルレファレンス	デジタル環境下におけるレファレンスサービス バーチャルレファレンスサービス 協同レファレンスサービスの展開	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	情報源整備の実際	印刷メディアと電子メディア 館内で作成・編集する情報源 レファレンス情報源の構築 情報源の評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	利用者の情報利用に対する理解	情報ニーズ 情報探索講堂 図書館を利用した情報探索	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	レファレンス質問への対応	レファレンスプロセス レファレンス質問の理解 レファレンス質問の受付と分析 レファレンスインタビュー	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	情報の検索と回答	検索戦略の構築 情報源の選択 検索語の選定／検索式の作成 回答の評価と提供	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	情報検索のしくみ	レファレンスブックの見出し排列と索引 データベースの検索機能／演算子 トランケーション 検索結果の評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	情報サービスの管理	情報サービスの組織化 情報サービスの料金と権利 担当者の資質と能力 レファレンスサービス技能の開発	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	情報源の特質	事実検索に用いるレファレンスブック 文献検索に用いるレファレンスブック データベース／ネットワーク情報源 国立国会図書館のレファレンス情報源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	事実情報の検索の実際	言葉・事柄 日時・統計 地理・地名 人物・団体	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	文献情報の検索の実際	図書／雑誌、雑誌記事の書誌データの調べ方 文献の内容、所在情報の調べ方	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ	リクエストアワー（学生の質問への回答）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	情報サービス演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通して解説していく。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート	
テキスト	プリントをその都度配布します			
参考書	特になし			
学生への要望	技術と能力を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2217			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分～16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	情報サービスの設計	情報サービスの設計 情報サービス設計の演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	レファレンスコレクションの形成（1）	レファレンスコレクションと問題解決過程 レファレンスコレクションの形成方針	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	レファレンスコレクションの形成（2）	レファレンス資料の評価 レファレンス資料の携帯とレファレンス資料の選択過程	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	事実検索用情報源とその評価（1）	言語・文字に関する情報源の評価 事象・事項に関する情報源の評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	事実検索用情報源とその評価（2）	歴史・日時に関する情報源の評価 人物・団体に関する情報源の評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	文献検索用情報源とその評価	文献検索用情報源の評価：書誌・目録の評価、記事索引の評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	検索の技法	論理演算の演習 さまざまな演算機能と論理式作成の演習 検索結果とその修正の演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	レファレンスプロセス（1）	レファレンスプロセスの概要とレファレンス質問の種類	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	レファレンスプロセス（２）	レファレンスインタビューの戦略	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	レファレンスプロセス（３）	レファレンスインタビューの分析	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	レファレンスプロセス（４）	レファレンスプロセスの実際（１） 所蔵調査質問と書誌的事項質問の事例	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	レファレンスプロセス（５）	レファレンスプロセスの実際（２） 情報探索質問の事例	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	レファレンスプロセス（６）	レファレンスプロセスの実際（３） 文献探索（主題探索）質問の事例	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	事実検索質問の処理（１）	言葉・事柄に関する情報の調べ方、検索演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	事実検索質問の処理（２）	歴史・日時に関する情報の調べ方、検索演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
16	事実検索質問の処理（３）	地理・地名に関する情報の調べ方、検索演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
17	事実検索質問の処理（４）	人物・団体に関する情報の調べ方、検索演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
18	文献検索質問の処理（１）	図書・雑誌の書誌データの調べ方、検索演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
19	文献検索質問の処理（２）	雑誌記事の書誌データの調べ方、検索演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
20	文献検索質問の処理（３）	文献の所在情報の調べ方、検索演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
21	文献検索質問の処理（４）	文献の内容情報の調べ方、検索演習	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その1） 発信型情報サービスの概要 広報活動	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
23	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その2） ・「図書館だより」を発行する公共図書館の設定を構築する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
24	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その3） ・「図書館だより」を発行する公共図書館が存在する架空の自治体の設定を構築する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
25	「図書館だより」制作	中間報告会 ・「図書館だより」を発行する公共図書館の設定を報告する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
26	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その4） ・設定した架空の自治体および公共図書館の設定に沿って「図書館だより」の細部を構想する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
27	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その5） ・構想により「図書館だより」を制作する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
28	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その6） ・構想により「図書館だより」を制作する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
29	「図書館だより」制作	「図書館だより」完成品に基づく報告会 ・制作した「図書館だより」について報告する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	まとめ	リクエストアワー（学生の質問への回答）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	情報資源組織演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎杉本 ゆか		
開講期			
授業の概要	日本でもっとも利用されている、情報資源を組織化するためのツールである『日本十進分類法』、『日本目録規則』、『基本件名標目表』を中心に、国立情報学研究所のNACSIS-CATや国立国会図書館件名標目表、基本的なメタデータの記述規則であるDublin Core等も交えつつ、情報資源の組織化の実際を学び、受講生がこれらのツールを用いて図書館目録の整理を行うに必要な知識と技術を得る。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通じて解説していく。図書館利用者がその検索結果を以って、十分な図書館利用を可能にする目録の提供が可能な技術の習得を目標とする。		
	位置づけ・水準 CD2214		
授業の到達目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
履修条件	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート5割、期末試験5割で評価します。
テキスト	プリントをその都度配布します		
参考書	『日本十進分類法』新訂9版・新訂10版 『日本目録規則』1987年版改訂3版、2018年版 他		
学生への要望	技術を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
位置付け・水準	CD2214		
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。		
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分～16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	情報資源組織演習で学ぶツール 日本目録規則（NCR） 日本十進分類法（NDC） 基本件名標目表（BSH） 日本目録規則（NCR）解説（その1）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	分類法課題	分類法課題その1（個人伝記）の出題と解題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	分類法課題	分類法課題その1の課題解決（自修）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	分類法課題	分類法課題その1の課題解決（自修）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	分類法課題	分類法課題その1の回答例解説と課題その2（文学）の出題および解題	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
6	分類法課題	分類法課題その2の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	分類法課題	分類法課題その2の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	分類法課題	分類法課題その2の回答例解説と課題その3（法律）の出題および解題	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
9	分類法課題	分類法課題その3の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	分類法課題	分類法課題その3の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
11	分類法課題	分類法課題その3の回答例解説と課題その4（ノンセクション）の出題および解題	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	分類法課題	分類法課題その4の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	分類法課題	分類法課題その4の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	分類法課題	分類法課題その4の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	分類法課題	分類法課題その4の回答例解説	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	目録規則課題	カード目録の時代 過去の日本目録規則	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
17	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第0章について	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
18	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その1）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その2）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
20	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その3）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その4）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その5）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
23	目録規則課題	日本目録規則2018年版概説。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	目録規則課題	日本目録規則2019年版概説。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	目録規則課題	目録規則課題：日本では導入されていないが、アメリカ合衆国などでは「CIP（Cataloging in Publication）」と呼ばれる制度が導入されているそうである。「CIP」の概要を知りたい。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
26	目録規則課題	目録関係の言葉では“ICP”と略されるものもある。今日は“ICP”について調べること。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
27	目録規則課題	“RDA（Resource Description and Access）”について解説を探し出し、説明してください。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
28	目録規則課題	図書館利用者（OPACがインターネットで活用できるのであれば、図書館利用者に限らないのかも）の情報リテラシーを支援する基盤として、これからの「図書館目録」に求められるものって、例えばどんな機能でしょうか？	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
29	目録規則課題	これからの図書館経営において「目録を作成する技術」はどのように評価され、どのように活用されていく必要があるのか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	まとめ	リクエストアワー（質問と回答）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館基礎特論		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	図書館業務の上で必要不可欠な参考文献である「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」について学び、ライブラリアンシップの醸成に努める。図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」を学び、その現実的な運用精神を習得する。 位置づけ・水準 CD2118			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に所属し、司書ユニットを選択している学生	成績の 評価方法・基準	レポートの成績による	
テキスト	その都度プリントを配布。「図書館の自由に関する宣言」はあらかじめ日本図書館協会のサイト等で確認しておくこと。			
参考書	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」に関連する書籍			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2118			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分－16時10分）No5.地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館基礎特論の内容 職業倫理について 「図書館の自由に関する宣言」の成立	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館の自由に関する宣言(1)	成立した「図書館の自由に関する宣言」 棚上げされた「図書館の自由に関する宣言」 「図書館の自由に関する宣言」改訂の端緒	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	図書館の自由に関する宣言(2)	「図書館の自由に関する宣言」1954年版の改訂 ・「自由宣言」の副文問題 ・「自由宣言」改訂へ ・「図書館の自由に関する宣言」1979年改訂の特徴	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館の自由に関する宣言(3)	1979年の改訂以降に発生した「図書館の自由に関する宣言」に関わる案件（「自由案件」と呼ぶ）を主文の項目ごとに紹介する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館の自由に関する宣言(4)	1980年の改訂以降に発生した「図書館の自由に関する宣言」に関わる案件（「自由案件」と呼ぶ）を主文の項目ごとに紹介する（続き）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館の自由に関する宣言(5)	1981年の改訂以降に発生した「図書館の自由に関する宣言」に関わる案件（「自由案件」と呼ぶ）を主文の項目ごとに紹介する（続き）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	図書館の自由に関する宣言(6)	1981年の改訂以降に発生した「図書館の自由に関する宣言」に関わる案件（「自由案件」と呼ぶ）を主文の項目ごとに紹介する（続き）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	図書館員の倫理綱領	「図書館員の倫理綱領」について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館情報資源特論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎杉本 ゆか			
開講期				
授業の概要	著作権法制度について、その概要を学ぶ。専門的な知識および専門的なスキルを活用して、著作権制度の沿革および日本の現行著作権法制度とその問題点について解説する。現在の日本の著作権法制度について知り、著作物の適切な利用法を習得する。 なお、「図書館基礎特論」から続く時間割になるが別の講義である。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に所属し、司書ユニットを選択している学生	成績の 評価方法・基準	レポートの成績による	
テキスト	『著作権テキスト』（文化庁）文化庁著作権課のページから最新のテキストを受講生各自がダウンロードすること			
参考書	雑誌「ジュリスト」「情報の科学と技術」の特集号ほか			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2213			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。☑			
オフィスタイム	毎週火曜日の4コマ目（14時40分～16時10分）にNo.5地域創成学科研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館情報資源特論で取り上げる内容 ・知的財産権 ・産業財産権 ・・特許権 ・・実用新案権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	産業財産権（続き）	・産業財産権（続き） ・・意匠権 ・・商標権 ・その他の知的財産権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	著作権法制度(1)	著作権 ・著作権制度の沿革 ・著作権制度の概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	著作権法制度(2)	著作権 ・著作者の権利 ・・著作人人格権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	著作権法制度(3)	著作権 ・財産権としての著作権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	著作権法制度(4)	著作権 ・著作権の保護期間 ・著作隣接権 ・外国の著作物等の保護	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	著作権法制度(5)	著作権 ・他人の著作物を利用するには ・著作物等の「例外的な無断使用」ができる場合	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	著作権法制度(6)	直近の著作権法改正とその目的 ・ 令和2年著作権法改正について ・ ・海賊版対策 ・ 令和3年著作権法改正について ・ ・新型コロナウイルスの影響に対する法制度の対応	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	博物館資料論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐藤 愛未			
開講期				
授業の概要	学芸員の責務のなかに博物館資料の収集・保存・普及・活用などがある。 この授業では、博物館・文書館・図書館における歴史資料を中心とした資料の管理方法・取り扱い方・目録作成の方法について、文化施設における勤務経験をもとに授業を行う。 ①博物館ほか社会教育機関における歴史資料の重要性、活用方法、保存管理方法などを学ぶ。 ②歴史資料の取り扱い方法、史料の整理方法などの実例を紹介・実践し、博物館ほか社会教育機関における歴史資料の活用及び保存管理する意義を考察する考える。 なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準は、 ①博物館資料及び博物館資料の整理・保存・活用における授業内容の7割を理解していること。 ②博物館資料の取り扱いの方法に関する授業内容の7割を理解していること。			
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点	
テキスト	適宜プリントを配布する。			
参考書	倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版、1997年 安藤正人『記録史料学と現代』吉川弘文館、1998年 林英夫監修『新編 古文書解読事典』柏書房、1993年 ほかも適時指示する。			
学生への要望	次年度実施予定の「博物館実習」の課外実習に臨むための重要な講義となっているので、問題意識を持って受講し、講義内容を復習すること。また、博物館の展示を出来るだけ多く観覧し、関連する資料や文献を講読すること。			
位置付け・水準	CD2121			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解・創造的思考力			
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目・水曜日Ⅱ時間目。創学館4階、No5研究室			
アクティブラーニング実施内容	史料取り扱い体験（掛け軸ほか）、博物館見学等			
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入（ガイダンス）	博物館学芸員課程における、次年度実施予定の博物館館務実習に向けての準備に関して、今後の授業計画とあわせて説明する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	博物館資料の概要と資料化の過程	博物館資料（主に歴史資料）とは何かを博物館法や文化財保護法などから概説し、博物館における資料（モノ）の収集から整理、管理、活用までの過程を学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	資料の収集（1）	博物館など社会教育機関における資料の収集は、その館の基本的性格や目的にそって行うことが重要となってくる。そこで、資料収集における理念と原則について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	資料の収集（2）	博物館など社会教育機関における資料（モノ）の収集の方法について、どのような手法によって収集するのかを検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	資料の整理方法（1）	収集・受け入れを行った資料は、分類を行い整理され、登録し管理される。そこで、收藏されるまでの一連の過程を学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
6	資料の整理方法（2）	収集した資料は、収蔵庫に入る前の整理の段階でクリーニングが実施される。クリーニングは資料の種類によって異なっているため、この方法について紹介し、クリーニングの重要性について説明する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	資料の整理方法（３）	資料は整理される際に史料概要の情報を資料カードや目録作成によってデータ化管理する。その意義と方法について考え、実際に資料整理を体験して資料カードを作成する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	資料の整理方法（４）-1	博物館など触れる機会の多いモノ資料や古文書について、形態や表題の取り方など目録の形式を説明し、古文書の資料目録作成方法を実践的に学ぶ。ここでは、掛け軸の取り扱い方法を学びながら、資料の計測や資料名の付け方などを学び資料カードを作成する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	資料の整理方法（４）-2	博物館など触れる機会の多いモノ資料や古文書について、形態や表題の取り方など目録の形式を説明し、古文書の資料目録作成方法を実践的に学ぶ。ここでは、掛け軸の取り扱い方法を学びながら、資料の計測や資料名の付け方などを学び資料カードを作成する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	資料の整理方法（５）	目録を作成するために必要な古文書の取扱い方、読み方について説明する。また、そこから実際に古文書を読んで目録作成を実践する。また、目録作成の過程やデータ化される資料の情報内容について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	資料の保存と活用（１）	博物館ほか社会教育機関では、収蔵資料の資料および作成した目録データの公開が行われている。そこから、資料の活用方法また、データの管理について考察する。その他、研究紀要などの研究成果を発表する刊行物が出版されている。では、博物館における調査・研究について、何を対象とし、いかなる方法があるのかを検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	資料の保存と活用（２）	博物館において、収集され登録された資料は収蔵庫に保存され、管理される。それにあたって、収蔵資料の保存方法や収蔵庫の条件・環境などが課題となる。資料の保存方法について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	資料の保存と活用（３）	資料は受け入れる際、その資料の状態は様々である。そのため、収蔵庫で管理するために、資料の処理や修復・修理が行われる。以上について、実例をいくつか紹介し、資料保存の在り方について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	資料の保存と活用（４）	資料公開は、展示が代表的なものとなるが、研究者や市民への資料閲覧なども行われている。そして、近年では資料の画像データ化し、インターネット公開を行う機関が増加しているが博物館法の改正により、博物館のDX化が今後の課題となる。これらの実施状況や課題について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	まとめ～今後の史資料活用や保存～	これまでの講義を念頭に置きつつ、自然災害時における資料の管理・保管の措置や対応の一例を紹介し、資料を保存管理、活用する側とその利用者側との関係や、資料保存や活用における今後について展望する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

授業名	博物館実習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 3単位 選択
担当教員名	◎會田 容弘 仲田 佐和子 佐藤 愛未 米本 順子		
開講期			
授業の概要	奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。博物館の建設、運営、常設展示、企画展時、教育の実践を行ってきた経験をもとに、授業を行う。【授業の目標・ねらい】 学芸員資格取得を目指す学生が、1年次の博物館学概論・博物館学資料論・博物館教育論の知識を基に、博物館施設における多様な学芸員の仕事を実践的に学習することを目的とする。 【授業内容の概要】 学内実習では、福島県内の博物館施設と生活文化博物館で企画展を行う。8月と11月に実施する企画展示の展示計画、展示準備、展示、展示解説、展示撤収を実習の授業として行う。また学外実習では、博物館等施設5館見学と1週間程度の施設実習を実施する。施設実習に伴い、事前事後指導を授業の中で行う。 授業では展示を進める過程でそれぞれのグループに課題を与え、その成果発表を行い、適時指導を行う。不足している内容については指摘し、次回までの課題とする。位置付け・水準CD2222		
授業の到達目標	【達成目標】 主体的にコミュニケーションをとってグループ全体の作業を実現していけるように努力できる姿勢を育てること。 成績評価基準に基づき、7割以上の理解を求める。DPとの関係：課題解決力、主体的行動力		
履修条件	学芸員課程履修学生（要「博物館概論」・「博物館資料論」履修済） 1年終了時のGPAが2.0以上であること。	成績の 評価方法・基準	授業態度と展示計画と展示品及びポスター（50％）・5館見学レポート（20％）・学外実習（30％）を総合的に評価する。
テキスト	特に使用しない。		
参考書	授業時に適宜提示する。『文化学科資格課程報告集』バックナンバー 『地域創成学科報告集』第1～4集		
学生への要望	主体的に学ぶ姿勢と共に、博物館施設で実際に働くことを各自がイメージしながら実習に取り組んでほしい。 学内実習での学習態度・出席状況の悪い学生の学外実習参加は許可しない場合がある点、要注意！		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	全体ガイダンス	学芸員課程全体の中の博物館実習の位置づけを確認し、今年の展示実習の概要を説明する。また博物館施設5館見学レポートについて解説し、「博物館で働く側の視点」を学生が意識できるように準備を行う。1年次の文化学科研修旅行博物館見学レポート提出日。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
2	学外施設実習ガイダンス	6月から始まる学外施設実習を有効に実施するために諸注意や確認事項の事前指導を行う。実習施設への提出書類の作成も行うため、欠席しないこと！	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
3	展示施設見学①	福島県内の文化施設の施設見学を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	施設見学②	福島県内の文化施設の施設見学を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
5	施設見学③	福島県内の文化施設の施設見学を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
6	展示計画	福島県内の文化施設の展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
7	展示計画	福島県内の文化施設の展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
8	展示計画	福島県内の文化施設の展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
9	展示準備	福島県内の文化施設に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
10	展示準備	福島県内の文化施設に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
11	展示準備	福島県内の文化施設に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	展示準備	福島県内の文化施に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
13	展示準備	福島県内の文化施に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
14	展示発表	福島県内の文化施に展示するために作成したパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを提示し、発表を行う。その結果に基づき修正を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
15	展示修正	展示品の指摘点を修正する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
16	模擬展示	作成した展示品を展示してみる。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
17	模擬展示修正	展示品を修正する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
18	展示品作成	展示品を作成し、搬入できるように準備する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
19	展示準備	展示内容を広報宣伝するためのポスター制作を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	展示準備	展示原案に基づいて展示資料を制作する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
21	展示実習	福島県内の文化施において実際に展示を行う（7月10日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
22	展示実習	福島県内の文化施において実際に展示を行う（7月10日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
23	展示実習	福島県内の文化施において実際に展示を行う（7月10日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
24	展示実習	福島県内の文化施において実際に展示を行う（7月10日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
25	展示解説実習	福島県内の文化施の展示初日、及び土曜日に展示解説を実施する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
26	展示撤収	福島県内の文化施の展示撤収作業を行う（9月15日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
27	展示撤収	福島県内の文化施の展示撤収作業を行う（9月15日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	展示撤収	福島県内の文化施設の展示撤収作業を行う（9月15日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
29	後期まとめ	展示の反省について討論会を開催する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
30	総まとめ	一年を通しての博物館実習、学内・学外実習の振り返りを行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

授業名	博物館情報・メディア論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎福島　ひろ子		
開講期			
授業の概要	博物館情報・メディア論の重要性と必要性が情報化社会および生涯学習時代において、益々高まってきており、情報技術の日進月歩の発達により、メディアが博物館などの文化施設の利用形態へ与える影響は特に大きい。本講義では、メディアの歴史や近代のマスメディアの発展、メディアと教育との関係、コンピューターの登場とインターネット、メディアリテラシー、知的財産権、世界の博物館や美術館における映像展示の歴史と現状及び災害報道などについて映像メディアを通して具体的に学ぶ。		
授業の到達目標	①博物館における情報・メディアの意義、特性及び課題を理解する。 ②人間社会に与えるメディアの影響およびその意義を考える。 ③博物館や公民館などで働くために必要と思われる情報提供や活用に関する基礎的な知識を身につける。		
履修条件	学芸員課程	成績の 評価方法・基準	①出席状況、授業中の態度など20点 ②小テスト20点 ③課題20点 ④期末試験40点
テキスト	特に指定しない、必要に応じて、プリントの配布や参考文献の案内を行う。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	紹介された参考文献や図書などを可能な限り読んで、理解しておくこと。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	時間配分や進め方などについて説明し、参考文献の案内なども行う。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
2	ICT社会における博物館の現状と展望	日本及び世界の博物館に関する現状と課題を新聞記事、政府の統計調査資料やビデオなどを利用して、具体的な例を踏まえながら紹介する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
3	博物館における情報・メディアの意義①	視聴覚メディアの歴史と発展を映像で紹介し、その重要性を伝える。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
4	博物館における情報・メディアの意義②	Society5.0、スーパーシティ構想を中心に、デジタル社会における博物館の役割と意義を認識する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
5	メディアとしての博物館の歴史と発展	世界と日本の博物館の歴史を振り返りながら、博物館の情報メディアとしての特質を理解する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
6	博物館活動の情報化①	デジタルミュージアムの構築と現状（バーチャル展示、復元CG画像と双方向情報発信など）を紹介する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
7	博物館活動の情報化②	博物館の調査研究と展示活動におけるメディアの活用を修復や展示などの事例を取り入れて説明する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
8	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動におけるメディアの活用を実例で説明する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
9	情報メディアの心理と基礎理論	認知心理学の基礎理論知識を学習しながら、博物館展示や来館者心理などに関する理解を深める。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
10	博物館と情報リテラシー①	博物館の社会教育施設という機能の側面から、デジタル教科書などの実例を取り入れて、博物館情報リテラシーへアプローチする。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
11	博物館と情報リテラシー②	博物館のバリアフリー建設という角度から、情報発信の仕方を検討する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
12	博物館と情報リテラシー③	映画（The Cove）などの実例を取り入れて、情報リテラシーの複雑さと難しさを認識する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
13	博物館と知的財産権①	実例を利用して、著作権法の中身と重要性について学習する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
14	博物館と知的財産権②	デジタルアーカイブと知的財産権の関係、プライバシーとパブリシティ権の取り扱いなどについて理解する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
15	まとめ	これまでの授業を振りかえつつ、授業の内容を纏めると共に、その狙いなどを指摘する。質疑応答という形で行うことになる。試験についての説明もする予定である。	授業ノートを読み返し、内容理解を深める	60

授業名	博物館教育論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎仲田 佐和子		
開講期	Ⅱ		
授業の概要	本授業では、社会教育施設である博物館の役割を教育・学習の観点から検討する。現代は社会生活の多様化、高学歴化、生涯学習の普及などにより、博物館の教育的役割が今までになく重視されるようになった。このことから、博物館教育の理念・方針、実践事例などを紹介し、生涯学習時代にふさわしい博物館のあり方、利用者と博物館の関係性を考察する。課題に対しては、レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 C D 2124		
授業の到達目標	博物館の教育的活用・運営に必要な基本的知識を修得し（知識理解）、自ら課題を見つけ解決できる学芸員補としての知識を修得する（創造的思考力）。単位認定の基準は、内容の8割を理解してほしい。		
履修条件	短期大学部地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	①提出課題20点 ②中間レポートと発表30点 ③期末レポートと発表50点 60点以上を合格とするが、80点以上を目指してほしい。
テキスト	使用しない。適宜、資料を配布する。		
参考書	『博物館教育論』講談社・2015年、『博物館教育論』玉川大学出版部・2016年		
学生への要望	博物館、美術館等に関心意識を持って、積極的訪れてほしい。また、新聞等で文化財や博物館に関する記事に注意してほしい。		
位置付け・水準	CD2124		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解。創造的思考力。		
オフィスタイム	月曜日・Ⅳ時限、火曜日・Ⅱ時限。創学館4階No.4研究室		
アクティブラーニング実施内容	中間レポート、期末レポートの発表をパワーポイントを用いて行う。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。また、新型コロナウイルスの影響を受けた博物館の状況について解説する。	配布資料を読み、復習する。	90
2	1、博物館教育の特色 2、生涯学習としての博物館	生涯学習の考え方を検証し、利用者の主体的学びの場となる博物館の教育的役割を確認し、博物館を拠点とする生涯学習の在り方を考察する。	生涯学習についての考え方をまとめる。	90
3	3、博物館教育の方法（1）	博物館で「見ること」「聞くこと」による学びを考える。講座・講演会、ギャラリートーク、印刷物（解説シート、ワークシート）について理解する。	博物館で行われている講座・講演会、ギャラリートーク、印刷物を具体的に調べる。	90
4	3、博物館教育の方法（2）	ワークショップ、体験学習などの、五感と身体による学びについて考える。また、ユニバーサル・ミュージアムの考え方を理解する。	博物館で行われているワークショップ、体験学習を具体的に調べる。	90
5	4、学校教育と博物館（1）	学習指導要領と博物館での学びの関係と連携を考え、学校だけでは学べない体験可能な博物館教育の在り方を考察する。	学校教育と主体的な学びの関係について考える。	90
6	4、学校教育と博物館（2）	博学連携プログラムについて、学校側、博物館側、児童・生徒側の問題点を検証し、その実践手順について考える。	学校と博物館が連携して行える教育活動について考える。	90
7	中間レポート発表（1）	パワーポイントを用いて、中間レポートの発表を行う。発表者に対しての質問もすること。	発表用パワーポイントをつくる。	90
8	中間レポート発表（2）	パワーポイントを用いて、中間レポートの発表を行う。発表者に対しての質問もすること。	発表用パワーポイントをつくる。	90
9	5、博物館の種類別からみた博物館教育活動	博物館の種類を「歴史系」「美術系」「自然史系」「理工系」「生態系」「野外系」の分け、それぞれの博物館教育活動について考察する。	博物館の種類別の特色と教育活動についてまとめる。	90
10	6、博物館教育の環境整備	施設面の環境について考える。また、博物館教育事業を担当する専門職員・ミュージアム・エデュケーター（教育学芸員）について考察する。	博物館と利用者をつなぐコーディネーターとしてのミュージアム・エデュケーターの役割を考える。	90
11	7、博物館教育と評価	博物館教育活動の点検と改善、教育活動に対する利用者の反応の把握など、博物館教育活動の評価を理解する。	PDCAサイクルによる計画から改善までを理解する。	90
12	8、東日本大震災と博物館	東日本大震災後の博物館の役割について考察する。	地元の博物館の震災後の取り組みについて調べる。	90
13	期末レポート発表（1）	パワーポイントを用いて、期末レポートの発表を行う。発表者に対しての質問もすること。	発表用パワーポイントをつくる。	90
14	期末レポート発表（2）	パワーポイントを用いて、期末レポートの発表を行う。発表者に対しての質問もすること。	発表用パワーポイントをつくる。	90
15	まとめー博物館教育の今後ー	これまでの学習内容から、生涯学習時代の社会が要請する利用者（学習者）主体の博物館教育を展望する。	これまでの授業を振り返りながらまとめる。	90

授業名	博物館経営論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎藤原 紀敏			
開講期	後期			
授業の概要	【授業全体の内容の概要】 ①博物館の管理・運営の根拠となる法令、財政、組織の概要と博物館経営の実際について事例をあげながら解説する。 ②最終授業で全体のフィードバックを行います。			
授業の到達目標	【授業の目的・ねらい】 ①学芸員として身につけておかねばならない、博物館のさまざまな形態と活動における管理・運営について理解を深め、博物館経営に関する基本的な能力を養うことを目標とする。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①博物館を利用者側としてだけでなく、管理・運営する側として、何が必要なのかについて理解を深める。 ②単位設定の最低基準は内容の7割を理解していることとする。			
履修条件	地域創成学科 2年	成績の 評価方法・基準	レポート40点、期末試験60点	
テキスト	プリント配布			
参考書	講義の中でその都度紹介します。			
学生への要望	出席を重視します。実施されている展示や事業の意図を考えるためにできるだけ多くの博物館を訪れてください。			
位置付け・水準	CD2225			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解			
オフィスタイム	授業前後			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴	福島県立博物館学芸員として博物館の運営に当たる経験を有する。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	博物館経営（ミュージアムマネジメント）の概要を説明する。	講義資料について復習する。	60
2	博物館法および関連法規	博物館法、博物館施行規則、望ましい基準に示されている博物館経営内容について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
3	博物館の行政制度	行政内における公立博物館の位置づけについて具体的事例をあげて説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
4	博物館の財政制度	公立博物館における予算の作成について具体的事例を挙げながら説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
5	博物館の施設・設備	博物館の施設、設備の特徴について具体的な事例について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
6	博物館の組織と職員	博物館の組織を具体的例をあげて提示し、それぞれの職務内容を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
7	博物館の経営（1）	福島県立博物館を例にとり、その設立に至る経過、設立意義、条例などに基つきその使命を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
8	博物館の経営（2）	福島県立博物館の一年を通した博物館運営の実例を紹介し、博物館経営の実際を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
9	博物館の経営（3）	福島県立博物館の運営に関する評価方法、評価結果を提示し、博物館における評価制度の実際を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
10	博物館の経営（4）	博物館における、体験学習など教育普及活動の方法と実践例について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
11	博物館の経営（5）	友の会、ボランティア、支援組織の設立と運営方法について具体的事例をあげて説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
12	博物館の経営（6）	博物館と地域の連携について具体的事例をあげながら説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
13	博物館の経営（7）	博物館の危機管理、学芸員の倫理について具体的事例をあげて、説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
14	博物館経営の諸問題	指定管理者制度の導入、予算の削減など現在の博物館の経営に関する問題点を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
15	まとめ	授業全体をふりかえるとともに、博物館経営に学芸員がどのように関わるかを実際の経験を踏まえて説明する。	講義資料について復習する。	60

授業名	博物館資料保存論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎松田 隆嗣			
開講期	Ⅳ			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 学芸員資格を取得する際に必要な博物館や美術館等において資料を展示・保管するために注意すべき点あるいは資料の取り扱い方とともに文化財の保管や公開における国が定めた基準等について学習します。また、博物館等の文化施設及び地域の文化財の保存活用等において果たすべき役割についても学習します。特に、国の施策として博物館や美術館、歴史的建造物などの施設の活用も重要な課題となっています。半面、施設の活用は、文化財の保存と公開と同様に資料保存の観点からは相反した問題が内在していると考えられ、博物館や美術館等の文化施設における資料保存の果たす役割は、これまで以上に大きな役割が要求されており、この点についても言及します。			
	〔授業全体の内容の概要〕 資料に劣化や害を及ぼす要因について学習するとともに資料を展示・保管している環境の調査方法や環境を適切に保つ方法について学習します。また、文化財の保管や公開に当り注意しなければならない数多くの基準等についても学習します。			
	〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 博物館や美術館ばかりでなく地域の文化財の保存や取り扱いについての一般的な知識について理解すること。 課題については最終授業において解説します。			
	〔実務経験に関する内容〕 福島県立博物館において資料の展示、収蔵環境の管理、資料の修復及び、考古資料の保存処理あるいはその他博物館収蔵資料の修復の経験をもとに博物館資料保存、管理について講義します。			
	授業の到達目標	〔授業の目的・ねらい〕 学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料の展示、保管の基本、資料の取り扱い方法および文化財の保管や公開において注意すべき基準等について理解するとともに地域の文化財の保存活用において博物館等の施設が果たす役割についても理解することを目的とします。		
〔授業全体の内容の概要〕 資料に劣化や害を及ぼす要因について学習するとともに資料を展示・保管している環境を調査し把握する方法や環境を適切に保つ方法並びに文化財の保管や公開に当り注意しなければならない基準等について講義します。また、博物館等の文化施設及び地域の文化財の活用等において果たすべき役割についても講義します。				
〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 単位認定の最低基準は講義した内容の6割以上を理解していること。 博物館活動の根幹をなすものは収蔵資料です。その資料を収集し後世に伝えることも博物館活動の根幹をなすものです。しかし、資料を収蔵しただけで後世に残るものではなく、保管、展示環境を把握しその環境を適正に管理し続けることが不可欠です。ただ、国内で資料保存を専門とする学芸員が勤務している博物館や美術館は少なく、大半の施設では他の分野の学芸員が資料保存についても担当しています。このため、資料保存を担当されても対処できるように資料の展示、保管につていての基本となる点について理解できることを達成目標としています。				
履修条件	地域創成学科 2年		成績の 評価方法・基準	①課題60点（15点×4回） ②期末試験40点 合計100点 課題と期末試験の成績を合計点から成績を評価します。
テキスト				
参考書	博物館学Ⅳ 博物館資料保存論 ＊博物館実習論（学社文）、文化財の保存環境（中央公論美術出版）、博物館資料保存論（講談社）、文化財保存環境学(朝倉書店)、美術工芸品の保存と保管(フジ・テクノシステム)など			
学生への要望	資料保存には様々な要因が複雑に絡み合っています。博物館資料保存論の講義の順序もこの点を考えて配置しています。つまり後ろにある講義はすでに行った講義の内容を理解していないと理解することが難しい内容が多くあります。このため、理解しにくい内容や事柄については、必ず復習を行うと共に内容によってはすでに学習した内容についても確認し理解を深めるようにして下さい。解らないことがあれば、授業終了後、気軽に質問していただければよいと思います。			
位置付け・水準	CD2226			
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	授業終了後			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴	福島県立博物館において資料の展示、収蔵環境の管理、資料の修復及び、考古資料の保存処理あるいはその他博物館収蔵資料の修復の経験をもとに博物館資料保存、管理について講義します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	文化財に害を及ぼす様々な要因は数多くあり、授業時間内で全てを説明することは困難です。このため、これらの要因を列挙し、簡単に説明するとともに博物館の資料保存に関する文献の調査方法について講義します。	教材としてプリントを配布します。予習については、記載した参考書などを用いて行うのが望ましいが、授業の項目をすべて網羅している参考書はないため、可能な範囲で行ってください。	30分

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2	資料に影響を及ぼす物理的要因 （1 温度）について	温度の変化が資料にどのような影響を与えるかを説明します。 特に、温度は他の物理的要因や化学的要因、生物的要因にも大きな影響を与えます。このため、これらの点の関連について講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
3	資料に影響を及ぼす物理的要因 （2 湿度）について	湿度の管理は、資料を展示・保管する上で最も注意すべき要因のひとつです。 このため、どのような要因が湿度の変化に影響及ぼし、どのような害が表れ、資料にどのような影響を及ぼすかについて講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
4	温度・湿度の計測について	温度・湿度の計測には温度計及び湿度計を用いますが、これらは、その種類により精度や測定方法が異なります。このため、温度計及び湿度計の基本的な測定法を説明する共に測定における注意点、測定した温湿度データの読み取り方について講義します。	温湿度計の使用法について詳しく記載された博物館資料保存論の参考書は、確認していません。 復習には教材として配布するプリントを用い予習に用いた参考書も参考としてください。	60分
5	資料に影響を及ぼす物理的要因 （3 光（電磁波））とその計測について	博物館で資料を展示し、来館者に観ていただくには、光は不可欠なものです。また、資料の展示を様々な演出する上でも重要なものです。しかし、反面、光自体が資料に害を与えます。このため、この光による害とその測定法並びにその対処の仕方について講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
6	資料に影響を及ぼす化学的要因について	資料に影響を及ぼす化学物質には、数多くの様々な物質がありますが、中でも有機酸、ホルムアルデヒド、アンモニアは特に注意すべき物質です。これらの化学物質が資料に及ぼす影響並びに発生原因、及び計測方法並びにその対処方法等について講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	45分
7	資料に影響を及ぼす生物的要因について	資料に影響を及ぼす生物学的要因としては文化財害虫による害及びカビ等による害があります。この文化財に害を与える文化財害虫とカビについて解説すると共に引き起こされる害及びその発生要因について講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
8	燻蒸ガスによる資料の燻蒸とその問題点について	資料燻蒸の長所・短所及びその問題点・注意点について講義すると共に、現在使用されている燻蒸ガス種類と毒性及び資料に及ぼす影響などについても講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
9	I P Mによる資料保存環境の管理と燻蒸剤によらない殺虫法について	I P M(総合的害虫管理)の概念についてはよく知られていますが、I P Mの具体的な対策については殆ど理解されていません。このため、I P Mの具体的な対策について講義を進めます。 また、I P Mにより資料の保存環境を管理するに当たり燻蒸剤に依存しない防・殺虫法は重要な役割を果たしています。このため、これらについても講義します。	I P Mについてはネット上に数多くの解説や事例が示されています。参考になる物が数多くあります。復習には教材として配布するプリントを用いるとともに有用なホームページを提示しますのでこれらも参考)としてください。	60分
10	展示室における資料展示環境とその維持方法について	展示室は外界などから、常に様々な影響を受けています。具体的にどのような影響を受けているかについて講義しをすると共に展示環境を適正に保つための具体的な対策について講義します。	特に参考となる参考書は有りません。復習には教材として配布するプリントを用い復習を行ってください。	30分
11	収蔵庫における資料収蔵環境とその維持方法について	資料の保存環境の維持は空調設備により簡単に行えると思われませんが、現実には空調のみで環境を維持することは困難なことです。よりよい保管環境を維持するためにどのようなことを行っているかについて講義します。	特に参考となる参考書は有りません。復習には教材として配布するプリントを用い復習を行ってください。	30分
12	伝統的な資料保存の方法について	昔から行われている日本古来の資料の保存方法には、現在でも資料を保存する上で重要な方法が数多くあります。また、博物館等に収蔵されている資料についても刀剣のように資料によっては伝統的な取り扱い方により定期的に手入れをする必要のある資料もあり、このような点について講義します。	一般的に博物館資料保存論の教科書で参考となる教科書は有りません。復習には教材として配布するプリントを用いるとともに有用なホームページを提示しますのでこれらも参考としてください。	30分
13	博物館資料の災害防止について	博物館資料が受ける災害について述べると共にその防止方法について講義します。	文化庁から災害防止についての様々な通達や防災についての手引きなどが予習、復習役立ちます。これらを用いて予習、復習を行ってください。	45分
14	資料の修理、修復、保存処理の基本について	資料の修理や修復の基本的な考え方及び遺跡から出土した金属製遺物や木製遺物の保存処理方法についてもその方法（科学処理）の概略について話します。	一般的に博物館資料保存論の教科書で参考となる教科書は有りません。復習には教材として配布するプリントを用いるとともに有用なホームページを提示しますのでこれらも参考としてください。	30分

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	地域資源と地域の文化財の保存と活用について	各地域に数多くの様々な文化財や資料が所在しますが、これら文化財や資料の保存への取り組みや活用について話します。 特に、国内の経済状況を回復させるため国が力を入れているところです。博物館施設等の文化施設の活用や文化財などの積極的に活用についての国の考え方について講義します。	文化庁が実施する「文化遺産を活かした地域活性化事業」における「文化遺産を活用した地域活性化に係る取組への支援」において 文化遺産を活かした地域活性化事業や文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業、事例集 が公開されておりますので参考にされると良いと思います。	45分

授業名	博物館展示論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎斎藤 美保子 仲田 佐和子			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	展示の歴史、メディア、教育活動、諸形態に関する理論及び方法に関する知識、技術を習得し、博物館展示の基礎能力を養う。 フィードバック：毎回ミニツツペーパーの提出を求め、次の回にコメントを付して返却する。 2名の担当者が交代で、時に一緒に、授業をします。			
授業の到達目標	博物館展示に精通することによって、歴史資料や美術工芸品と向き合う姿勢、鑑識眼を身につけることの大切さを知る。 単位認定の最低基準：学内外の展示に積極的に関心を持ち、実践的な提案ができること。			
履修条件	地域創成学科2年生 学芸員資格取得必修科目	成績の 評価方法・基準	授業中の課題（50点） 学期末の記述式試験（50点）	
テキスト	授業内でコピー等を配布する。			
参考書	『博物館展示法』雄山閣出版、『新しい博物館学』芙蓉書房出版、『博物館展示論』講談社、『博物館展示論』放送大学			
学生への要望	時間をみつけて近隣の美術館、博物館を訪ねること。			
位置付け・水準	博物館学関係 CD2227			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力			
オフィスタイム	火曜日16：10-17：05 金曜日10：30-11：30 No4地域創成学科研究室、 火曜日16:20～17:05 水曜日16:20～17:05 創学館No4研究室			
アクティブラーニング実施内容	第7回生活文化博物館展示の部分的な変更を実習する。第9回茶室を使用して和風の作法を実習する。第14回実際に花を生ける。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（斎藤）	学芸員資格としての展示論の意義。学内のブロンズ像を例に、コミュニケーションとしての展示を考える。	学内のブロンズ像を鑑賞して回る。	90
2	展示と展示論の歴史（日本）（仲田）	上野の国立博物館、西洋美術館、県内の美術館の歴史を辿り、重要な展示品を映像等で鑑賞理解する。	各館のホームページを閲覧する。	90
3	展示と展示論の歴史（西洋）（斎藤）	大英博物館、ルーヴル美術館の歴史を辿り、重要な展示品を映像等で鑑賞理解する。	各館のホームページを閲覧する。	90
4	調査研究の成果としての展示（仲田）	芸術鑑賞講座の展示、「発掘ガール展」の展示を例に、調査研究の成果を理解する。	各展示を振り返り、感想をまとめておく。	90
5	展示の政治性と社会性（斎藤）	大ルーヴル、山梨県立美術館、福島県立美術館を例に、展示の政治性と社会性を理解する。 更に、短期大学部に学芸員資格取得のカリキュラムが導入された経緯を理解する。	良く行く文化施設の設立の経緯を調べる。	90
6	展示の諸形態（斎藤、仲田）	資料から展示の諸形態を整理し、学内展示（ブロンズ像展示、生活文化博物館、上村松園作品展、62年館3階民具展示）を検討する。生活に溶け込んだ美術を理解する。	学内の諸展示に注意する。風呂敷を使ってみる。	90
7	展示の制作（斎藤、仲田）	今年度は特に、生活文化博物館の開館3年目に関わる展示作業の実習をする。	博物館実習の意義をよく理解する。	90
8	関係者との協力（外部講師）	学芸員として展示に関わっている卒業生から体験談を聞き、ひとつの展示が仕上がるまでの協働を学ぶ。	二本松市の大山忠作美術館を見学する。	270
9	日本文化再確認（斎藤、仲田）	慎思庵で和の文化を実体験する。掛け軸、茶碗、漆器、着物の扱いに慣れる。	浴衣のたたみ方を練習する。	90
10	展示の評価と改善（仲田）	観覧者への聞き取り、アンケートなど展示評価の種々の方法を比較検討する。学内の展示を評価し、改善策を提案する。	特に、ネーチャードームと生活文化博物館を熟覧する。	90
11	解説文・解説パネル（斎藤）	学内の解説文を検討評価し、各自でより良い解説文を試作する。	パネルの大きさ、字体等、より美しい解説パネルの試作を仕上げる。	90
12	人による解説（仲田）	前回の解説文を元に、学内展示の解説を順次行う。	自他の解説を振り返り、よりよい解説を工夫する。	90
13	展示解説書（斎藤）	芸術鑑賞講座のリーフレットや「発掘ガール展」の解説シートを参考に、学内展示の解説書を作る。	製本の仕方を工夫する。	90
14	設えと生け花（仲田）	日本の暮らしに潤いをもたらしてきた設えについて学び、生け花の実演から展示の意義を考える。	自分の部屋で花を飾ってみる。	90
15	まとめ（斎藤、仲田）	授業を振り返り、学内展示の一部分を実際に改善する。試験準備の指示をする。	15回のノートをまとめ、試験の準備をする。	270